



法 政 大 学
デザイン工学部

2018 年度 デザイン工学部生のための 履修の手引き

2015 年度以降入学生

2018（平成30）年度 学 年 暦 （デザイン工学部）

	デザイン工学部
学 年 開 始	4月1日(日)
入 学 式	4月3日(火)
春 学 期 前 半 授 業 期 間	4月7日(土)～6月1日(金)
春 学 期 前 半 補 講 日	授業期間内補講日：5月12日(土) 5月19日(土) 5月26日(土)
春 学 期 後 半 授 業 期 間	6月2日(土)～7月20日(金)
春 学 期 後 半 補 講 日	授業期間内補講日：6月30日(土) 7月 7日(土) 7月14日(土)
春 学 期 試 験 期 間	7月21日(土)～7月31日(火)
夏 季 休 業 期 間	8月1日(水)～9月20日(木)
夏 季 集 中 特 別 授 業 期 間	サマーセッション：8月1日(水)～8月7日(火) オータムセッション：9月14日(金)～9月20日(木)
9 月 卒 業 学 位 記 交 付 式 秋 学 期 入 学 式	9月15日(土)
秋 学 期 前 半 授 業 期 間	9月21日(金)～11月11日(日) 11月15日(木)
秋 学 期 前 半 補 講 日	授業期間内補講日：10月20日(土) 10月27日(土) 11月10日(土)
秋 学 期 後 半 授 業 期 間 (補 講 日 含 む)	11月12日(月)～12月24日(月) 11月15日(木)を除く
	1月8日(火)～1月21日(月)
秋 学 期 後 半 補 講 日	1月15日(火), 1月16日(水)
冬 季 休 業 期 間	12月25日(火)～1月7日(月)
秋 学 期 試 験 期 間	1月22日(火)～2月2日(土)
春 季 休 業 期 間	2月3日(日)～3月31日(日)
春 季 集 中 特 別 授 業 期 間	スプリングセッション：3月9日(土)～3月22日(金)
学 位 授 与 式	3月24日(日)
学 年 終 了	3月31日(日)

〔デザイン工学部〕

- ・4月10日(火)創立記念日は5月1日(火)に振替
- ・5月1日(火)は創立記念日の振替により休講
- ・5月2日(水)はレクリエーションデーにより休講
- ・7月16日(月)海の日、9月24日(月)秋分の日、10月8日(月)体育の日は授業実施
- ・4月30日(月)昭和の日の振替休日、5月3日(木)憲法記念日、5月4日(金)みどりの日、5月5日(土)こどもの日、11月3日(土)文化の日、11月23日(金)勤労感謝の日、12月24日(月)天皇誕生日の振替休日、1月14日(月)成人の日は授業を実施しない
- ・1月18日(金)は大学入試センター試験準備により3時限以降を休講、1月19日(土)は大学入試センター試験実施により休講（市ヶ谷のみ）
- ・夏季及び春季集中特別授業期間中の9月17日(月)敬老の日、3月21日(木)春分の日、特別授業実施日とする。

	授業期間	試験期間	合計
春学期前半	8週6日		9週6日
春学期後半	7週0日	1週4日	8週4日
秋学期前半	7週4日		7週4日
秋学期後半	8週0日	1週5日	9週5日
夏季集中特別授業期間	2週0日		2週0日
春季集中特別授業期間	2週0日		2週0日
合 計	35週3日	3週2日	38週5日

※左表の授業期間は
ガイダンス期間・補講期間を含む

はじめに

デザイン工学部長 竹内 則雄

法政大学デザイン工学部に入学された新入生の皆さんに心からお祝いを申し上げます。期待や希望をもって始まる大学生としての新たな生活が有意義となるよう、デザイン工学部教職員一同、皆さんの学生生活を支援したいと思っています。

デザイン工学部は 2007 年に設立された、法政大学としては比較的新しい学部です。一方で、デザイン工学部は工学部建築学科、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科の 3 学科を母体としており、法政大学にあっても伝統を有する学部の一つでもあります。デザイン工学部における教育の目的は、従来の工学基礎の教育に軸足を置きながら、それらを基盤として他の学問分野との知識の融合による「正しい価値を創造しデザインする工学」として総合デザイン力を養成することにあります。高度成長期に見られた、より高い効率を求める技術教育では、高い専門性が要求される、いわゆる縦型の教育が重視されてきました。しかし、より複雑化された現代社会においては、様々な側面から、様々な尺度を持って、多角的に観察し、判断することが求められています。現代社会は、これまでにない横断型の教育を受けた卒業生を必要としているのです。私たちは、21 世紀を担う皆さんが、このような新しい価値観を持って社会で活躍できることを見据えて、学部の理念と目的・教育目標を設定しました。この「履修の手引き」のはじめにも掲載していますので、是非一読され、十分理解したうえで、「工学」と「美学」を融合した、新しい文化を創造する「総合デザイン（ホリスティックデザイン）」の考え方をじっくり学んでいただきたいと思います。

新しい文化を創造するためには、しっかりした基礎知識が必要です。しかし、単に講義を受けて知識を得るという受動的な姿勢だけでは創造はできません。大学での学習には自主性が必要です。将来を考えて自ら計画し、自ら調査して課題を見つけ、そして、自ら考えて解決策を提案するといった能動的な学習姿勢が大切です。好奇心と責任をもって学習に取り組んでください。この「履修の手引き」には、各自で立てる学修計画のための皆さんの情報が含まれています。また、それぞれの授業の目標やテーマ・授業計画などが記載されたシラバスがウェブ上に公開されています。これらの情報とガイダンス時の注意事項を参考にし、皆さんの将来のキャリアを見据えて 4 年間の履修計画を立てて下さい。

デザイン工学部では、社会で活躍中の一流の講師陣から生きた知識を得、また、身近で見聞き、体験できる環境で学ぶことができるようにキャンパスを市ヶ谷の地に設けました。さらに、学部として用意している科目の他、大学として留学制度やエクステンションカレッジなどがあり、多様な学びの場を提供しています。総合大学としての法政大学のメリットを十分に活用して、自らのスキルアップにつなげて下さい。

2018 年 4 月

デザイン工学部の教育目標と3つのポリシー

● 教育目標

デザイン工学部は、以下に示すような人材を育成する。

- 1.地域の歴史・文化を尊重し、人の感性と自然との共生を重視して安全で安心な社会・生活の形成に貢献できる。
- 2.都市環境・地球環境の視点に立ち、人類の幸福や自然環境の保全に配慮して、工学技術の発展と一層の充実を主導できる。
- 3.課題を見つけ、その課題を解決する方法・手法を考え、その方法・手法を駆使することにより解決策を見出し、解決策を提示するとともに実行できる。
- 4.工学だけではなく、他の学問分野との知識の融合による新しい価値を創造する総合デザイン力を有する。
- 5.科学技術がもたらすプラスの面だけではなくマイナスの面も理解した上で、人々の安全・健康・福利に貢献できる。

● 学位授与の方針についての目的や目標（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

- 1.国際的な視野に立ち、自然、環境、歴史や文化に配慮して、美学と工学・技術の融合から生まれる、新しい「ものづくり」・「空間づくり」・「都市づくり」に関する基本的な知識や考え方を体系的に理解できる。
- 2.工学の知識体系を背景として、他の学問分野との知識の融合による総合デザイン力を身につけている。
- 3.総合デザイン力を実際問題に適用するための思考力・応用力を身に付け、さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で計画的に課題に対応できる。
- 4.社会の一員として、他者と協力できる。
- 5.社会との対話や社会への説明のためのコミュニケーション能力を有する。
- 6.自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲を有し、継続的自己学習を計画的に実行できる。

● 教育課程の編成・実施についての目的や目標（カリキュラム・ポリシー）

デザイン工学部では、以下のように科目群を形成している。

1. 外国語科目（英語など）
2. 基盤科目（法律系、経営系、人文系、保健体育、留学生科目、工学系）
3. 学科基礎科目（学科独自で開講）
4. 学科科目（学科独自で開講）
5. 学部科目（学部共通科目）
6. 特別科目（他学部開講科目など）
7. その他（他学部公開科目、大学としての開講科目、卒業所要単位外）

これらの科目群・科目の編成に際しては、以下の事項に配慮している。

- 1.導入科目の充実
- 2.多様な内容、文理融合を目指した基盤科目と外国語科目の充実
- 3.基礎的科目と専門教育の連携とその体系的な編成・配置

- 4.実務と結びついた演習・実習教育，スタジオ教育の充実
- 5.多分野の先端技術に対応するための学部共通科目（学部科目）の設置
- 6.クラス制・担任制導入による個人差や多様性を尊重した少人数教育の充実
- 7.社会への情報公開や説明責任の遂行に必要な倫理観を養うための技術者教育の充実

● 入学者受入れの方針についての目的や目標（アドミッション・ポリシー）

デザイン工学部は，以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

- 1.入学後の学修に必要な基礎学力を有している。
- 2.高等学校で履修する各科目の内容を理解し，高等学校卒業程度の学力を有している。
- 3.学部の教育目標やディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシーを理解している。
- 4.言語能力と文化多様性を基盤とした表現力を修得することに積極的である。

目 次

第一部 学部共通	1
第1章 進級・卒業について	2
1 単位制度	
2 履修上限単位	
3 WEB履修登録について	
4 修業年限及び在学年限	
5 進級要件と卒業要件	
第2章 履修登録について	12
1 履修登録の手続き	
2 履修登録の流れ	
3 web シラバスのアクセス方法	
4 再履修について	
5 教職・資格課程の履修について	
(1) 教職課程	
(2) 各学科で取得できる資格	
(3) その他の資格課程	
6 大学院科目先取り履修について (4 年生対象)	
7 成績優秀者他学部科目履修制度について (2～4 年生対象)	
8 体育会に所属する学生の「スポーツ総合演習」履修について	
9 他学部公開科目について	
10 グローバルオープン科目について	
第3章 授業について	15
1 クラス	
2 授業時間	
3 掲示板	
4 休講について	
(1) 休講情報などの確認方法	
(2) 特別の休講措置	
第4章 試験・成績について	17
1 定期試験について	
(1) 定期試験日程	
(2) 定期試験時間割	
(3) 受験上の注意	
(4) 試験中の不正行為に対する措置	
(5) レポート提出上の注意	
(6) 試験を欠席したら	
2 成績について	
(1) 成績評価	
(2) 成績・進級、卒業発表	
(3) 成績調査	

- (4) 「英語 1」～「英語 4」の単位認定制度について
- 3 GPA（グレードポイントアベレージ：grade point average）制度について
 - (1) GP(grade point)について
 - (2) GPA（grade point average）について
 - (3) GPA を表示する書類について
 - (4) 登録の取消しについて
 - (5) 活用方法
 - (6) GPA に参入されない科目について
 - (7) 不合格科目を再履修して単位修得した場合
- 4 学習指導制度について

第5章 事務手続き 22

- 1 主な手続きと担当窓口
- 2 学生証について
 - (1) 学生証の交付
 - (2) 学生証・裏面シールの再発行について
- 3 学籍に関する手続きについて
 - (1) 学籍について
 - (2) 休学
 - (3) 退学
 - (4) 復学
 - (5) 除籍
 - (6) 復籍
- 4 変更届について
 - (1) 住所・電話番号変更
 - (2) 改姓・改名
 - (3) 保証人変更
- 5 学費について
 - (1) 学費納入期限
 - (2) 学費の延納制度について
 - (3) 留級者（休学からの復学者を含む）
 - (4) 4年次留級者
 - (5) 復学者、復籍者
- 6 証明書の発行について
 - (1) 発行日数
 - (2) 卒業後の申請

第6章 その他 31

- 1 喫煙について
- 2 パソコンの利用について
- 3 情報ポータルについて
- 4 授業支援システムについて
- 5 美術館入館料キャンパス会員登録について
- 6 ゼミで契約宿舎を利用する場合の宿泊料補助について
- 7 障がい学生支援室について
- 8 その他各種サービスについて

第二部 建築学科	39
第1章 教育目標と3つのポリシー	40
第2章 学科紹介	42
第3章 建築学科の特徴	43
1 理念・目標・教育目標	
2 教育内容・方法	
3 日本技術者教育認定機構（J A B E E）受審プログラム	
4 少人数教育	
5 建築研究・卒業設計賞	
6 研究活動・大学院との連携	
7 IAE2011 Serverについて	
第4章 配当表【2015年度以降入学者用】	47
第5章 履修モデル	54
第6章 専任教員・研究室	63
第7章 卒業の審査基準等について	66
第三部 都市環境デザイン工学科	67
第1章 教育目標と3つのポリシー	69
第2章 学科紹介	72
第3章 配当表【2015年度以降入学者用】	74
第4章 カリキュラム構成と履修	80
第5章 資格取得	88
第6章 大学院進学について	91
第7章 達成度自己評価システムについて	92
第8章 各教員・研究室の紹介	94
第9章 各教員のオフィスアワー	97
第四部 システムデザイン学科	99
第1章 教育目標と3つのポリシー	100
第2章 システムデザインとは何か	102
第3章 配当表【2015年度以降入学者用】	107
第4章 履修上の注意	112
第5章 カリキュラム	114
第6章 海外英語研修	131
第7章 研究室の紹介	132
第8章 担任制	134
キャンパス案内	135

第一部 学部共通

第1章 進級・卒業について

1. 単位制度

本学における教育課程は、全てに単位制度が採用されています。単位制度とは、所定の授業科目を履修し、それらの授業科目ごとに定められている単位を履修することにより、卒業に必要な所定の単位数を修得する制度です。

各授業科目に対する単位数は次の通りです。

《学則第23条より抜粋》

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次の基準により計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部の定める授業時間をもって1単位とする。

2. 履修上限単位

本学部では、年間履修登録上限単位数を49単位と定めています。（ただし、教職資格科目は除く）
履修単位数のバランスが春学期・秋学期に偏らないよう、慎重に履修計画をたてて登録してください。

3. WEB履修登録について

履修登録は「法政大学情報ポータルサイト」から行います（第2章参照）。方法は別冊の『WEB履修登録の手引き』を参照してください（デザイン工学部担当窓口で配付しています）。

履修登録手続きを完了しないまま授業を受け、試験を受けてもその科目の単位は修得できません。また、履修科目の登録を期限内に行わない場合には、当該年度の受講・試験等受験資格が認められず、留年あるいは除籍の対象になることが学則で定められています。

4. 修業年限及び在学年限

本大学の修業年限は4か年です。また、学生は休学期間を除き、大学に8か年を超えて在学することはできません。なお、春学期に在学し、秋学期に休学、退学及び除籍になった場合、あるいは秋学期に復学及び復籍した場合、当該年度の在学期間は0.5年として計算します。

5. 進級要件と卒業要件

- ① 進級要件を満たさなかった場合、もう一年現学年にとどまります。要件は各学科で異なります。別表を参照してください。
- ② 卒業要件を満たさなかった場合は卒業できません。
- ③ 在籍年数（4年以上）を満たし、必要単位を修得すると3月または9月に卒業となります。3月卒業は手続きの必要無く自動的に卒業となりますが、9月卒業は4年進級時の4月に申請が必要です。なお、卒業要件を

満たした後での希望留年はできません。

④「公開科目（他の学部で行っている科目）」は進級要件、卒業要件のいずれにもカウントしません。

⑤休学した場合の進級・卒業については、第5章を参照してください。

⑥各学科の進級・卒業要件は次ページ以降を参照してください。システムデザイン学科はコースによって要件が異なるので注意してください。各学科・コース別の要件一覧を掲載していますので、履修登録や成績を確認する際に利用してください。

⑦4年次に半期休学等の制度を利用した場合、次の対象科目の開講期が『開講科目一覧表』に記載されている開講期と一致しません。該当者は、春学期の履修登録・秋学期の履修登録変更の各期間中にデザイン工学部窓口まで申し出ること。

＜対象科目＞

建築学科	「卒業研究1（建築）」「卒業研究2（建築）」「卒業設計1」「卒業設計2」
都市環境デザイン工学科	「卒業研究1（都市）」「卒業研究2（都市）」
システムデザイン学科	「卒業研究・卒業制作1」「卒業研究・卒業制作2」

例1

4年次春学期に在籍、秋学期に休学、翌年に9月卒業をする場合

	4年次春学期	4年次秋学期	4年次春学期
在籍状態	在籍	休学	在籍
履修科目	卒業研究1（建築） 卒業設計1		卒業研究2（建築） 卒業設計2

例2

4年次春学期に休学し、秋学期に復学、翌年に9月卒業をする場合

	4年次春学期	4年次秋学期	4年次春学期
在籍状態	休学	在籍	在籍
履修科目		卒業研究1（建築） 卒業設計1	卒業研究2（建築） 卒業設計2

例3

4年次春学期に在籍（単位修得）、秋学期に在籍（単位未修得）、翌年に9月卒業をする場合

	4年次春学期	4年次秋学期	4年次春学期
在籍状態	在籍	在籍	在籍
履修科目	卒業研究1（建築） 卒業設計1	卒業研究2（建築） 卒業設計2	卒業研究2（建築） 卒業設計2

※科目は建築学科を例にしています。

【建築学科】

進級要件

3 年次から 4 年次	卒業所要単位数のうち 90 単位以上※ 1 を修得していること
-------------	---------------------------------

※ 1 デザインスタジオ 1（建築）、デザインスタジオ 2（建築）、デザインスタジオ 3、
デザインスタジオ 4 を含む。

卒業要件

		卒業所要単位数		
外国語科目		必修	8 単位	合計 124 単位以上
基盤科目		必修	6 単位	
専門科目	学科基礎科目	必修	30 単位	
	学科科目	選択	28 単位以上	
		必修	8 単位	
	学部科目 特別科目	選択	要件なし（とつても とらなくてもよい）	

※卒業の審査基準については第二部第 7 章を参照してください。

(2015年度以降入学)建築学科 要件一覧

		配 当 年 次				進級卒業要件	
		1年	2年	3年	4年	3年 ↓ 4年	卒業
外国語科目		■英語1(2) ■英語2(2) ■英語3(2) ■英語4(2)					8
基 盤 科 目	法律系	■技術者倫理(2) 法学(日本国憲法)(2) 法と現代社会(2) 知的財産権(2) 開発と国際協力(2)					2
	経営系	財務会計(2) マーケティング(2) 国際社会論(2) エコノミクス(2)					
	人文系	文化と文明(2) 認知科学(2) イタリア語・イタリア文化(2) 中国語・中国文化(2) 環境とエネルギー(2)					
	保健体育	スポーツ総合演習(2)					
	留学生科目	日本語1(1) 日本語2(1) 日本語3(1) 日本語4(1) 日本文化論(2) 日本の工業技術(2) 一般数学(2)					
	工学系	数学2(2) 物理2(2) 数理解演習1(1) 数理解演習2(1) バイオエンジニアリング(2) ケミカルエンジニアリング(2) ■数学1(2) ■物理1(2)					4
専 門 科 目	学科基礎科目	■デザインスタジオ1(建築)(3) ■デザインスタジオ2(建築)(3) ■デザインスタジオ3(3) ■デザインスタジオ4(3) ■導入ゼミナール(建築)(2) ■造形スタジオ(3) ■建築気候(2) ■建築のしくみ(2) ■骨組の力学(2) ■材料の力学(2) ■部材の力学(2) ■構法スタジオ(3) 建築入門(2) 図形の技術(2) デザイン理論(建築)(2) 建築計画1(2) 建築計画2(2) 西洋建築史(2) 建築生理心理1(2) 建築生理心理2(2) 空気調和設備(2) 給排水・電気設備(2) 平面の力学(2) 建築材料(2) 建築の空間と形態(2)				12	30
	学科科目	インターンシップ(建築)(3) デザインスタジオ5(3) 都市計画(2) 近現代建築史(2) 光・視環境(2) 建築設備総合デザイン(3) 空間の構造デザイン(2) 鋼のデザイン(2) 構造デザインの実践(2) 建築の地盤力学(2) 材料特性実験(2) 建築生産(2)	建築フォーラム(2) デザインスタジオ6(3) 日本建築史(2) 都市史(2) 環境生態学(2) 構造とマトリクス(2) 鉄筋コンクリートのデザイン(2) 材料のデザイン(2) 建物の振動と耐震化(2) 構造実験(2) 施工管理(2) 建築の測量実習(3)	建築法規(建築)(2) 建築論・建築造形論(2) フィールドワーク(建築)(3) 音・振動環境(2) 設備デザイン基礎(3) 構造計算プログラミング(2) デジタルスタジオ(3) 木造建築の構法(2)		28	
			デザインスタジオ7(3) ■卒業研究1(建築)(2) ■卒業研究2(建築)(2) ■卒業設計1(2) ■卒業設計2(2)			8	
	学部科目	デザイン文化論(2) 建築と文化(2) サステイナブルデザイン(2) アーバンイズム(2) 風土と建築(2) 地図とGIS(2) テクニカルライティング(2) Design Basics in English(2)			都市デザイン(2) デザイン史(2) ランドスケープデザイン(2) マテリアルサイエンス(2)		
		英語表現技術(2) タウンマネジメント(2) 公共空間デザイン及演習(3) 品質マネジメント(2)					
	特別科目	特別講義 ※特別講義は開講年度の配当表で配当年次・単位数・科目名を確認すること。					
	総単位数						90
その他		ERP科目 ESOP科目				卒業所要単位外	
		成績優秀者他学部公開科目					
		他学部公開科目					

■は必修、★は選択必修 ()内の数字は単位数

※進級規定及び配当表も参照すること。

【都市環境デザイン工学科】

進級要件

各学年への進級は、科目区分毎に、次表に示す単位を修得していること。

(単位数)

区分	基盤科目					外国語	専門科目		総数
	人文系	法律系	経営系・ 保健体育	留学生科目	工学系		必修	小計	
1 年次から 2 年次	8 単位以上				12 単位以上				26 単位以上
2 年次から 3 年次	14 単位以上				20 単位以上			24 単位以上	63 単位以上
3 年次から 4 年次	14 単位以上				22 単位以上	6 単位以上	※ 31 単位	58 単位以上	106 単位以上

※ただし、ゼミナールを含む

卒業要件

		卒業所要単位数			
外国語科目		必修	8 単位		合計 124 単位以上
基盤科目	経営系・ 法律系・ 人文系・ 保健体育・ 留学生科目	必修	2 単位	合計 16 単位以上	
		選択	14 単位以上		
	工学系	必修	15 単位	合計 24 単位以上	
		選択	9 単位以上		
専門科目		必修	43 単位	合計 76 単位以上 ※1	
		選択 必修	1 単位以上		
		選択・ 特別 科目	32 単位以上		

※1 所属学科科目（学科基礎科目を含む）56 単位以上

※卒業研究の詳細は第三部第 8 章を参照してください。

(2015年度以降入学)都市環境デザイン工学科 要件一覧

			配 当 年 次				進級卒業要件				
			1年	2年	3年	4年	1年 ↓ 2年	2年 ↓ 3年	3年 ↓ 4年	卒業	
外国語科目			■英語1(2) ■英語2(2) ■英語3(2) ■英語4(2)						6	8	
基 盤 科 目	法律系		■技術者倫理(2)				8	14	14	2	
		法学(日本国憲法)(2) 法と現代社会(2) 知的財産権(2) 開発と国際協力(2)				16					
	経営系	財務会計(2) マーケティング(2) 国際社会論(2) エコノミクス(2)									
	人文系	文化と文明(2) 認知科学(2) イタリア語・イタリア文化(2) 中国語・中国文化(2) 環境とエネルギー(2)									
	保健体育	スポーツ総合演習(2)									
	留学生科目	日本語1(1) 日本語2(1) 日本語3(1) 日本語4(1) 日本文化論(2) 日本の工業技術(2) 一般数学(2)									
	工学系	■数学1(2) ■数理解演習1(1) ■数学2(2) ■数理解演習2(1) ■物理1(2) ■物理演習(1) ■工業力学及演習(3) ■プログラミング及演習(3) 物理2(2) バイオエンジニアリング(2) ケミカルエンジニアリング(2) 園学及演習(3) ジオロジカルエンジニアリング(2)				12	20	22	15		
			数値計算法(2) 確率・統計(2)							9	24
専 門 科 目	必修	学科基礎科目	■導入ゼミナール(都市)(1) ■国土・地域概論(2)				31			43	
		学科科目	■測量学(2) ■測量実習(1) ■都市計画法と政策(2) ■構造力学1及演習(3) ■コンクリート工学(2) ■鋼構造デザイン(2) ■RC構造デザイン(2) ■河川環境工学(2) ■地盤力学及演習(3) ■地盤と環境1(2) ■水理学1及演習(3) ■工業英語(2)								
			■ゼミナール(1)※ ■デザインスタジオ2(都市)(3) ■都市調査解析(2) ■工学実験1(1) ■工学実験2(1) ■卒業研究1(都市)(2) ■卒業研究2(都市)(4)								
	選必	学科科目	★鋼構造デザイン実習(1) ★RC構造デザイン実習(1)							1	
	選択	学科基礎科目	デザインスタジオ1(都市)(3) 測量学演習(2) 建設材料科学基礎(2) 構造力学2(2) 橋のデザイン(2) コンクリート技術(2) PC構造デザイン(2) 水文気象学(2)				24		58	32	76
		学科科目	交通計画(2) 街づくり(2) 上下水道システム(2) 建築設計基礎(3) 計画の可視化(2) 建築法規(都市)(2) 有限要素法基礎(2) 検査技術(2) アセットマネジメント(2) プロジェクトマネジメント(都市)(2) 水理学2(2) 地盤と環境2(2) 水資源工学(2) 環境法規(2) 水圏環境学(2) 環境アセスメント(2) 工業英語実習(1) 総合演習(1) 耐震工学(2) メンテナンス工学(2) インターンシップ(都市)(2) 海洋環境工学(2) 流域水文学(2)								
		学部科目	デザイン文化論(2) 建築と文化(2) サステイナブルデザイン(2) アーバンイズム(2) 都市デザイン(2) デザイン史(2) 風土と建築(2) 地図とGIS(2) 福祉工学(2) 都市・地域政策(2) ランドスケープデザイン(2) テクニカルライティング(2) 環境工学(2) 数理統計学(2) マテリアルサイエンス(2) Design Basics in English(2) 英語表現技術(2) タウンマネジメント(2) 公共空間デザイン及演習(3) 品質マネジメント(2)								
		特別科目	特別講義 ※特別講義は各年度の履修の手引きで配当年次・単位数・科目名を確認してください。								
		総単位数						26	63		

※卒業には点線枠内の条件も満たさなければならない。上表でカウントした単位は点線枠内の単位としてダブルカウントできる。

専 門 科 目	学科基礎科目	■導入ゼミナール(都市)(1) ■国土・地域概論(2) デザインスタジオ1(都市)(3)		56
		■測量学(2) ■測量実習(1) ■都市計画法と政策(2) ■構造力学1及演習(3) ■コンクリート工学(2) ■鋼構造デザイン(2) ■RC構造デザイン(2) ■河川環境工学(2) ■地盤力学及演習(3) ■地盤と環境1(2) ■水理学1及演習(3) ■工業英語(2) 測量学演習(2) 建設材料科学基礎(2) 構造力学2(2) 橋のデザイン(2) コンクリート技術(2) PC構造デザイン(2) 水文気象学(2)		
	学科科目	■デザインスタジオ2(都市)(3) ■都市調査解析(2) ■工学実験1(1) ■工学実験2(1) ■ゼミナール(1) ★鋼構造デザイン実習(1) ★RC構造デザイン実習(1) 交通計画(2) 街づくり(2) 上下水道システム(2) 建築設計基礎(3) 計画の可視化(2) 建築法規(都市)(2) 有限要素法基礎(2) アセットマネジメント(2) 検査技術(2) プロジェクトマネジメント(都市)(2) 水理学2(2) 地盤と環境2(2) 水資源工学(2) 環境法規(2) 水圏環境学(2) 環境アセスメント(2) 工業英語実習(1) 総合演習(1) 耐震工学(2) メンテナンス工学(2) インターンシップ(都市)(2) 海洋環境工学(2) 流域水文学(2) ■卒業研究1(都市)(2) ■卒業研究2(都市)(4)		

その他	ERP科目 ESOP科目		卒業所要単位外
		成績優秀者他学部公開科目	
		他学部公開科目	

■は必修、★は選択必修 ()内の数字は単位数

※ゼミナールは3年次のみ履修可能です。

※進級規定及び配当表も参照すること。

【システムデザイン学科】

進級要件

2 年次から 3 年次	基盤科目 10 単位以上、学科基礎科目 20 単位以上※1 を修得していること
3 年次から 4 年次	卒業所要単位数のうち 90 単位以上を修得していること※2

※1 テクノロジー基礎論、マネジメント基礎論、クリエイション基礎論から 4 単位以上を含む

※2 ゼミナール 1、ゼミナール 2、プロジェクト実習・制作 1、プロジェクト実習・制作 2 を含む

卒業要件

	卒業所要単位数				
外国語科目	必修	8 単位			合 計 124 単 位 以 上
基盤科目	必修	2 単位		合計 20 単位以上	
	選択必修	4 単位以上			
	選択	14 単位以上			
専門科目	必修	31 単位（学科基礎 13 単位、学科科目 18 単位）		合計 82 単位以上 ※1	
	選択必修	15 単位以上 ※2			
	選択	15 単位以上（学科科目のうち）			
	特別科目	要件なし（とってとらなくてもよい）			

※1 学科基礎科目から 26 単位以上（必修 13 単位、選択 13 単位以上）

※2 クリエーション系 3・4 年次開講科目から 5 単位以上

マネジメント系 3・4 年次開講科目から 5 単位以上

テクノロジー系 3・4 年次開講科目から 5 単位以上

(2015年度以降入学)システムデザイン学科 要件一覧

		配 当 年 次				進級卒業要件			
		1年	2年	3年	4年	2年 ↓ 3年	3年 ↓ 4年	卒業	
外国語科目		■英語1(2) ■英語2(2) ■英語3(2) ■英語4(2)						8	
基 盤 科 目	法律系	■技術者倫理(2)				10	14	2	
		法学(日本国憲法)(2) 法と現代社会(2) 知的財産権(2) 開発と国際協力(2)							
	経営系	財務会計(2) マーケティング(2) 国際社会論(2) エコノミクス(2)							
		人文系	文化と文明(2) 認知科学(2) イタリア語・イタリア文化(2) 中国語・中国文化(2) 環境とエネルギー(2)						
	保健体育		スポーツ総合演習(2)						
		留学生科目	日本語1(1) 日本語2(1) 日本語3(1) 日本語4(1) 日本文化論(2) 日本の工業技術(2) 一般数学(2)						
工学系	数理演習1(1) 数理演習2(1) バイオエンジニアリング(2) ケミカルエンジニアリング(2)								
	★数学1(2) ★数学2(2) ★物理1(2) ★物理2(2)						4		
専 門 科 目	学科基礎科目	■導入セミナー(SD)(1) ■システムデザイン入門(2) ■デザインスタジオ1(SD)(2) ■デザインスタジオ2(SD)(2)				4	20	13	26
		■テクノロジー基礎論(2) ■マネジメント基礎論(2) ■クリエイション基礎論(2)							
		基礎デザイン制作(2) デザイン理論(SD)(2) 色彩論(2) 図形科学基礎演習(1) データ処理基礎演習(1) プログラミング基礎演習(1) デジタルデザイン演習(1)							
		プレゼンテーション技術(1) メカトロニクス演習(1) マーケティング演習(2) 造形デザイン実習制作(2) ヒューマンセンタードデザイン演習(2)							
	学科科目	■セミナー1(2) ■セミナー2(2) ■プロジェクト実習・制作1(2) ■プロジェクト実習・制作2(4)		■卒業研究・卒業制作1(4) ■卒業研究・卒業制作2(4)			10	18	
		3Dモデリング(クリエイション系)(2) プログラミング(クリエイション系)(1) 3Dモデリング(テクノロジー系)(2) プログラミング(テクノロジー系)(1) インタフェースデザイン(2) ロボットデザイン(2) メカトロニクス(2) 機械の機構と設計(2) 材料と構造のデザイン(2) 熱と流れのデザイン(2) コストマネジメント(2) 生産システムデザイン(2) オペレーションズリサーチ(2) 海外英語研修(5)		インターンシップ(SD)(2)				15	
				応用プロジェクト1(2) 応用プロジェクト2(2)					
		★応用色彩工学(2) ★プロダクトデザイン理論(2) ★デザインシンキング(2) ★デザインケーススタディ(2) ★未来予測デザイン演習(1)						5	
		★プロジェクトマネジメント(SD)(2) ★システム工学(2) ★サプライチェーンデザイン(2) ★情報システムデザイン(2) ★ビジネスモデルデザイン(2) ★Webデザイン演習(1)						5	
		★組込制御プログラミング演習(1) ★3DCGプログラミング(2) ★メカニズムデザイン演習(1) ★映像情報処理(2) ★プロトタイピング演習(1) ★デジタルエンジニアリング演習(1) ★素材と機能(2) ★スマートマシン設計(2)						5	
	学部科目	デザイン文化論(2)							
		建築と文化(2) サステイナブルデザイン(2) アーバンイズム(2) 都市デザイン(2) デザイン史(2) 風土と建築(2) 地図とGIS(2) 福祉工学(2) 都市・地域政策(2) ランドスケープデザイン(2) テクニカルライティング(2) 環境工学(2) 数理統計学(2) マテリアルサイエンス(2) Design Basics in English(2)		英語表現技術(2) タウンマネジメント(2) 公共空間デザイン及演習(3) 品質マネジメント(2)					
特別講義 ※特別講義は各年度の履修の手引きで配当年次・単位数・科目名を確認してください。									
総単位数							90	124	

■は必修、★は選択必修 ()内の数字は単位数

※進級規定及び配当表も参照すること。

【システムデザイン学科 SSI コース】

(SSI 履修要項より抜粋。詳細はそちらを参照すること)

進級要件

3 年次から 4 年次	卒業所要単位数のうち 90 単位以上を修得していること
-------------	-----------------------------

卒業要件

		卒業所要単位数			
外国語科目		必修	4 単位 ※1	4 単位以上	合計 124 単位 以上
基盤科目		必修	2 単位	合計 12 単位以上	
		選択必修, 選択	10 単位以上		
SSI 科目	基礎科目	必修	14 単位	合計 44 単位以上	
	専門科目	選択	30 単位以上		
専門科目		必修	31 単位	合計 64 単位以上	
		選択必修, 選択 特別科目	33 単位以上		

※1 英語 1～英語 4 の 4 科目・8 単位中, 任意の 2 科目 4 単位

(2015年度以降入学)システムデザイン学科SSIコース 要件一覧

		配 当 年 次				進級卒業要件		
		1年	2年	3年	4年	3年 ↓ 4年	卒業	
外国語科目		★英語1(2) ★英語2(2) ★英語3(2) ★英語4(2)					4	
基 盤 科 目	法律系	■技術者倫理(2)				10	2	
		法学(日本国憲法)(2) 法と現代社会(2) 知的財産権(2) 開発と国際協力(2)						
	経営系	財務会計(2) マーケティング(2) 国際社会論(2) エコノミクス(2)					12	
	人文系	文化と文明(2) 認知科学(2) イタリア語・イタリア文化(2) 中国語・中国文化(2) 環境とエネルギー(2)						
	保健体育	スポーツ総合演習(2)						
	留学生科目	日本語1(1) 日本語2(1) 日本語3(1) 日本語4(1) 日本文化論(2) 日本の工業技術(2) 一般数学(2)						
	工学系	数学1(2) 数学2(2) 物理1(2) 物理2(2) 数理解習1(1) 数理解習2(1) パイオエンジニアリング(2) ケミカルエンジニアリング(2)						
SSI科目	基礎科目	■スポーツ指導論(2) ■アスリート育成指導法(2) ■スポーツ医学Ⅰ(2) ■スポーツ医学Ⅱ(2) ■スポーツ心理学(2) ■トレーニング科学(2) ■スポーツ経営論(2)				14	44	
	専門科目	※「SSI履修要項」で科目を確認してください。				30		
専 門 科 目	必修	学科基礎科目	■導入ゼミナール(SD)(1) ■システムデザイン入門(2) ■デザインスタジオ1(SD)(2) ■デザインスタジオ2(SD)(2) ■テクノロジー基礎論(2) ■マネジメント基礎論(2) ■クリエイション基礎論(2)				31	
		学科科目	■ゼミナール1(2) ■ゼミナール2(2) ■プロジェクト実習・制作1(2) ■プロジェクト実習・制作2(4) ■卒業研究・卒業制作1(4) ■卒業研究・卒業制作2(4)					
	選択	学科基礎科目	基礎デザイン制作(2) デザイン理論(SD)(2) 色彩論(2) 図形科学基礎演習(1) データ処理基礎演習(1) プログラミング基礎演習(1) デジタルデザイン演習(1) プレゼンテーション技術(1) メカトロニクス演習(1) マーケティング演習(2) 造形デザイン実習制作(2) ヒューマンセンターデザイン演習(2)				64	
		学科科目	3Dモデリング(クリエイション系)(2) プログラミング(クリエイション系)(1) 3Dモデリング(テクノロジー系)(2) プログラミング(テクノロジー系)(1) インタフェースデザイン(2) ロボットデザイン(2) メカトロニクス(2) 機械の機構と設計(2) 材料と構造のデザイン(2) 熱と流れのデザイン(2) コストマネジメント(2) 生産システムデザイン(2) オペレーションズリサーチ(2) 海外英語研修(5) インターンシップ(SD)(2) 応用プロジェクト1(2) 応用プロジェクト2(2)					
		クリエイション系	応用色彩工学(2) プロダクトデザイン理論(2) デザインシンキング(2) デザインケーススタディ(2) 未来予測デザイン(2)					
		マネジメント系	プロジェクトマネジメント(SD)(2) システム工学(2) サプライチェーンデザイン(2) 情報システムデザイン(2) ビジネスモデルデザイン(2) Webデザイン演習(1)					
		テクノロジー系	組込制御プログラミング演習(1) 3DCGプログラミング(2) メカニズムデザイン演習(1) 映像情報処理(2) プロトタイプング演習(1) デジタルエンジニアリング演習(1) 素材と機能(2) スマートマシン設計(2)					
		学部科目	デザイン文化論(2) 建築と文化(2) サステイナブルデザイン(2) アーバンイズム(2) 都市デザイン(2) デザイン史(2) 風土と建築(2) 地図とGIS(2) 福祉工学(2) 都市・地域政策(2) ランドスケープデザイン(2) テクニカルライティング(2) 環境工学(2) 数理統計学(2) マテリアルサイエンス(2) Design Basics in English(2) 英語表現技術(2) タウンマネジメント(2) 公共空間デザイン及演習(3) 品質マネジメント(2)					
			特別科目	特別講義 ※特別講義は各年度の履修の手引きで配当年次・単位数・科目名を確認してください。				
			総単位数					90
	その他		ERP科目 ESOP科目					卒業所要単位外
				成績優秀者他学部公開科目				
			他学部公開科目					

■は必修、★は選択必修 ()内の数字は単位数

※進級規定及び配当表も参照すること。

第2章 履修登録について

1. 履修登録の手続き

「履修登録」を行うことにより、科目の履修そして単位の修得が可能になります。登録は定められた期間内に行ってください。履修登録は「法政大学ポータルサイト」(<https://www.as.hosei.ac.jp/>)より行います。

進級・卒業要件を満たさない登録などを行うとエラーが表示されます。エラーが表示された場合はエラーがなくなるまで修正を行ってください。履修登録の不備を放置した場合、あるいは完了しない場合は、単位修得ができません。期限内に履修登録を行い、確認を必ず行ってください。

履修登録作業の後には、「履修登録科目確認通知書」を必ず印刷してください。科目名や担当者名等が履修を希望している科目と誤りがないか確認してください。また、「履修登録科目確認通知書」は科目を履修しているかどうかの証拠として使用することがあります。

2. 履修登録の流れ

以下のスケジュールで行います。具体的日程については掲示板及び配付資料で確認してください。

時期	手続き内容	注意事項
4月下旬	履修登録	1年間の履修計画を立てて、全ての科目を登録する
5月上旬	履修取消	登録した全科目で取消を希望する科目のみ行う
6月下旬	履修取消	登録したB期科目で取消を希望する科目のみ行う
9月下旬	履修追加・修正	AB期の成績を確認したうえで、科目追加、修正をしたい場合のみ行う
11月下旬	履修取消	登録したD期科目で取消を希望する科目のみ行う

3. web シラバスのアクセス方法

講義概要は「web シラバス」で確認してください。授業計画や成績評価方法等が記載されているので、科目選択時の参考にしてください。

①法政大学 Web ページの「在学生の方」→画面中段の「授業・履修」メニューから「情報システム」を選択。

②統合認証ログイン画面が表示されますので、ユーザ名とパスワードを入力します。

③「情報システムユーザーサポート」が開きます。サイトの画面右にある「関連情報」の「オンラインシラバス」を選択。

【HPでの確認の仕方】 大学公式 HP→教育研究→学びの特色→web シラバス（講義概要）

④各種検索方法から選択。

【参考】

「情報システムユーザーサポート」画面右の「サービスを利用する」を選択すると、「情報ポータル」画面が開きます。ここで休講情報等を確認することができます。
詳しくは第6章「3. 情報ポータルについて」を参照してください。

4. 再履修について

単位を修得できなかった不合格科目（D・E評価）の再履修方法は次の通りです。

○外国語科目

「英語 1 ～ 4」の再履修は補講クラスを履修して下さい。なお、補講クラスが他の履修希望科目と重複する場合はデザイン工学部担当窓口で相談してください。

○不合格科目の再履修は自由ですが、既に単位を修得した科目は成績の良し悪しに関わらず再履修することはできません。

○不合格科目が多いほど、GPA は低くなります。（GPA の計算方法は第 4 章 3 項を確認してください。）

5. 教職・資格課程の履修について

（１）教職課程

詳細は、別冊の『教職課程履修要項』をご覧ください。また、取得希望者は毎年 4 月上旬に市ヶ谷地区で行われる教職・資格ガイダンスに必ず出席してください。日時は、掲示板（外濠校舎脇）に掲示します。

なお、2015 年度以降入学の建築・都市環境デザイン工の学生は教職課程の履修はできません。

また、2019 年度以降入学のシステムデザインの学生も教職課程の履修ができなくなります。2019 年度より教育職員免許法が改正されるため、2018 年度の入学者は必ず卒業までに免許状取得に必要な単位をすべて修得するようにしてください。

配当表に記載されていない教職科目一覧（卒業所要単位には含まれません）

科目名	学年	単位	2018 年度担当者	開講期間
情報社会と情報倫理	3	2	寺本卓史	A B
情報化社会と職業	3	2	寺本卓史	C D
職業指導（仕事の場と学び）	2	4	高橋 浩	A B C D

（２）各学科で取得できる資格

建築学科	一級建築士・二級建築士など
都市環境デザイン工学科	二級建築士・施工管理技士・測量士（補）・技術士（補）など

※これらの資格は所定の科目を修めて卒業し、必要な実務経験要件を満たした後に「受験資格」を得られます。詳細につきましてはデザイン工学部担当窓口にお問い合わせください。

（３）その他の資格課程

本学では、教職課程以外にも、図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員の資格を取得するための課程が設けられています。

これらの資格を取得するために必要とされる科目、単位数、手続きなどの詳細は、「資格関係科目履修要綱」を参照してください。また、これらの資格の取得を考えている学生は、4 月に行われる資格ガイダンスに必ず出席してください。

※ 上記資格に関する問い合わせ先：58 年館 1 階 教職・資格担当窓口

社会教育主事の資格取得に必要な「職業指導（１）」「同（２）」は上記（１）教職課程の科目を履修できます。

6. 大学院科目先取り履修について（4 年生対象）

4 年生でデザイン工学研究科への進学を希望している学生に限り、大学院科目を先取りすることができます。希望者は指定期間内にデザイン工学部窓口で登録手続きをとってください。登録可能科目及び登録手続き方法については掲示を確認してください。

履修上限は年間 10 単位です。

7. 成績優秀者他学部科目履修制度について（2～4 年生対象）

成績優秀者が公開科目の枠を超えた他学部科目を履修できる制度です。

2～4 年生の各学科前年度成績優秀者（上位 5%）は当該年度に限り本制度を利用できます。該当者は 3 月下旬～4 月上旬にお知らせします。履修方法等の詳細は個別に配付するパンフレット及び掲示をご覧ください。

8. 体育会に所属する学生の「スポーツ総合演習」履修について

体育会に所属する学生は体育会活動をもって「スポーツ総合演習」（年間・2 単位）の修得が可能です。WEB 上での申請はできませんので、指定期間内にデザイン工学部窓口にて登録手続きを行ってください。詳細は掲示を確認してください。

9. 他学部公開科目について（3・4 年生対象）

3・4 年生は学部の枠を超えて他学部の指定科目を履修することができます。

他学部公開科目に指定されている科目は専用シラバス・他学部公開科目時間割で確認できます。履修希望者はデザイン工学部窓口で資料を受取ってください。

なお、修得単位は卒業所要単位には含まれません。また、3・4 年通じて他学部公開科目の履修上限は 8 単位です。

10. グローバルオープン科目について

学部の枠を超えて他学部のグローバルオープン科目に指定された科目を履修できる制度です。履修できる科目は当該学部の指定した学年の科目のみです。

グローバルオープン科目に指定されている科目は専用シラバス・グローバルオープン科目時間割で確認できます。履修希望者はデザイン工学部窓口で資料を受け取ってください。

なお、修得単位は卒業所要単位には含まれません。希望者は 49 単位履修上限内で履修してください。

第3章 授業について

1. クラス

科目ごとにクラスは異なりますので、履修は掲示等の指示に従ってください。

2. 授業時間

通常授業は以下の時間割で行われます。定期試験期間は時間割が変わります。第4章を参照してください。

市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスにおける通常授業時間割

時限	1	2	3	4	5	6	7
時間	9:00 ～ 10:40	10:50 ～ 12:30	13:10 ～ 14:50	15:00 ～ 16:40	16:50 ～ 18:30	18:35 ～ 20:15	20:20 ～ 22:00

3. 掲示板

掲示板は登下校時に必ず確認してください。休講、教室変更、試験日程等、大学からのお知らせはすべて掲示板でお知らせします。ただし、授業内で伝達された事項は掲示しません。十分注意してください。

名 称	内 容	場 所
学部掲示板	授業関係全般	市ヶ谷田町校舎本館 1 F
奨学金掲示板	奨学金に関すること	学生センター厚生課または 市ヶ谷田町校舎本館 1 F
就職掲示板	就職関係行事に関すること	キャリアセンターまたは 市ヶ谷田町校舎本館 1 F
留学関係掲示板	留学に関すること	グローバル教育センター
アルバイト掲示板	アルバイト募集に関すること	学生センター厚生課

4. 休講について

(1) 休講情報などの確認方法

休講情報は「情報ポータルサイト」で確認することができます。詳しくは第6章「3. 情報ポータルについて」をご参照ください。

(2) 特別の休講措置

授業開始から30分を経過しても担当教員が出講しない場合は休講となります。（その場合、教室変更されていないか、掲示板等で確認してください。）

また、その他特別の休講措置については、次の通り定めています。当該キャンパスに属さない学部の授業については、授業が実施されるキャンパスの措置に従います。

（例）市ヶ谷キャンパスの学部が多摩キャンパスで行う授業については多摩キャンパスの基準に従う。

	市ヶ谷キャンパス	多摩キャンパス	小金井キャンパス
大規模地震の発生が予想される時	東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想される時に、気象庁所管の『地震防災対策強化地域判定会』が招集され、状況によって『警戒宣言』が発令されます。本学では、『判定会』が招集された段階で（ＴＶ、ラジオ等により確認）休校とします。 なお、警戒宣言が解除された時、または判定会が解散された時は、休校を解いて平常授業に復します。授業再開に伴う取扱いについては交通機関のストライキの措置に準じます。		
台風や大雪などで交通機関が不通になったとき	法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断した場合は、以下の通り授業を休講することがあります。 （１）天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えられる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を以下の通り周知します。 a. 1・2 時限の授業について、当日 6:00 までに大学公式ツイッターに休講措置の有無を掲載します。また、6:30 頃までに大学公式ホームページに同内容を掲載します。 b. 3～5 時限の授業について、当日 10:00 までに大学公式ホームページに休講措置の有無を掲載します。 c. 6・7 時限の授業について、当日 15:00 までに大学公式ホームページに休講措置の有無を掲載します。 （２）事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想される場合は、前日 17:00 までに上記周知の方法を大学公式ホームページに掲載し、学生・教職員に周知をします。 （３）上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断される場合は、前日 17:00 までに翌日の授業休講を決定し、大学公式ホームページに掲載することがあります。		
交通機関のストライキの場合	<ＪＲのストライキにより電車が運行されない場合> ① 6:00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。 ② 10:00 までにストライキが解除されない時は第一部の授業を休講とします。 ③ 正午までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講とします。	<ＪＲ、京王電鉄のストライキにより、両方またはいずれか一方の電車が運行されない場合> ① 6:00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。 ② 10:00 までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講します。 <京王バスのストライキにより、多摩地区への路線バスが運行されない場合> ① 8:00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講します。 ② 正午までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講します。	<ＪＲのストライキにより電車が運行されない場合> ① 6:00 までにストライキが解除されない時は第 1、第 2 時限目の授業を休講とします。 ② 10:00 までにストライキが解除されない時は全ての授業を休講とします。

第4章 試験・成績について

1. 定期試験について

(1) 定期試験日程

定期試験は、B期、D期の各授業期間終了後に行われます。時間割等の詳細は掲示板で確認してください。

(2) 定期試験時間割

定期試験の時間割は通常の時間割と異なります。十分注意してください。

定期試験の時間割（B、D期のみ）

時限	1	2	3	4	5
時間	9 : 30～ 11 : 00	11 : 30～ 13 : 00	13 : 30～ 15 : 00	15 : 30～ 17 : 00	17 : 30～ 19 : 00

(3) 受験上の注意

- 試験中は学生証を机上に出してください。忘れた場合は、試験開始までにデザイン工学部担当窓口に申し出て仮学生証の発行を申請してください。
- 履修登録した科目以外を受験しても単位の修得はできません。
- 必ず指定された教室で受験してください。
- 試験場では試験監督の指示に従ってください。
- 試験中は不正行為を絶対にしないでください。また、疑わしい行為も慎んでください。
- 「参照可」の試験科目では、指定されたもの以外の参照は不正行為となります。また、必ず自分のものを使用してください。特に「自筆」の指定がある場合は「自分自身で記述した」もの以外は不正行為です。
- 試験中の参照物等の貸し借りは不正行為です。
- 答案を提出しないで試験場から退出した場合は不正行為です。白紙であっても学生証番号と氏名を記入して必ず提出してください。
- 遅刻は試験開始後30分まで認めます。
- 試験開始後30分間は退出できません。
- 受験の際は、携帯電話等の電源を必ずオフにしてカバン等の中にしまってください。時計機能のみとしての使用もできません。
- 試験開始前に受験上の注意説明をします。10分前には教室に集合してください。

(4) 試験中の不正行為に対する措置

不正行為に対して次のような厳重な措置をとります。熟読してください。

定期試験等における不正行為の処分基準

不正行為態様	処分内容
① 計画性の弱い、または偶発的な不正行為 例： a. 他人の答案の覗き見 b. 問題・答案用紙配布後の話し合い c. 参照可の資料等の貸借 d. 不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない e. 答案の持ち帰り	○譴責または1カ月未満の停学 ○当該科目は無効（E評価）
② 計画性が強い、または意図的な不正行為 例： a. 参照不可の試験でカンニングペーパー使用 b. " 机上への書き込み c. " テキスト・ノート等の閲覧 d. 参照可の試験で許可されたもの以外の参照・使用 e. 答案用紙の交換（行為の態様により③の受験依頼に該当）	○停学1カ月以上3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価） ○不正行為以後に行われる当該期の試験科目の受験を無効（E評価）
③ 受験依頼（いわゆる替え玉受験） 例： a. 依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用） b. 答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出	○停学3カ月以上6カ月未満または無期停学 ○当該期全履修科目の受験を無効（E評価） ＊停学3カ月以上は当該年度において進級及び卒業することができない。
④ 再犯（不正行為を2回以上行った者）	○処分を加重する 上記①の不正行為を行った場合は ②と同じ処分 上記②の不正行為を行った場合は ③と同じ処分 上記③の不正行為を行った場合は 退学 および当該年度全履修科目を無効
⑤ 定期試験外（授業内試験等）で不正行為を行った場合 例： a. 定期試験に代替する授業内試験での不正行為 b. 定期試験に代替する論文試験（レポート含む）での剽窃（※）行為	○行為の態様または計画性の強弱等により上記①～④の処分を準用
◆停学処分の発効日	◇不正行為を行った日の翌日

※剽窃（ひょうせつ）…他人の作品・論文・文章などの字句または説を盗みとって、自分のものとして発表すること。

卒業論文、卒業設計、卒業制作等の不正行為についても、計画性が強い不正行為とみなし、上記の処分基準にしたがい、厳重な措置をとります。

この基準は、2018 年度春学期に全面改訂され、新しい基準に変わります。新しい基準は学部ガイダンスや学部掲示板等でお知らせいたします。

(5) レポート提出上の注意

- ① レポート試験も通常の試験と同様です。提出期限・提出場所を厳守してください。

デザイン工学部担当窓口では一切受領しません。

- ② レポートに使用する用紙や綴じ方について特に教員から指定がない場合は、以下の点に注意して作成してください。

a 用紙はA 4を使用してください。

b 必ず表紙をつけ、表紙には曜日・時限・科目名・教員名・テーマ・学部・学科・学年・学生証番号・氏名を記入してください。

- ③ **大学では個人情報の観点から教員の住所・電話番号・E-mail アドレスを公表していません。**またデザイン工学部担当窓口では、教員との連絡依頼には一切対応しませんので、教員に用のある学生は、学内で教員に直接連絡をとるか、前もって連絡方法を確認しておいてください。

(6) 試験を欠席したら

定期試験およびそれに準ずる試験を以下の理由により受験できなかった場合は、**該当試験実施後5日間以内（日祝を含まず）**※に証明書類を持参の上、デザイン工学部担当窓口へ届け出てください。ただし、対応は担当教員の判断に一任されていますので、必ずしも救済措置（レポートを課す、追試験、平常点で判断等）があるとは限りません。

① 対象者：本人の病気やけが、近親者の忌引き、交通の乱れなど不測の事態により試験を欠席した学生

② 証明書類：診断書、遅延理由書、事故証明書、会葬礼状など（試験実施日に受験できなかったことを証明できる様式であること）

※インフルエンザ等の感染症に罹患した場合は、同期間内に電話にて、デザイン工学部窓口にご相談ください。また合わせて学部ホームページも参照してください。

2. 成績について

(1) 成績評価

履修した授業科目の単位を修得するためには、定期試験及び授業期間内に行われる試験やレポート課題、平常点によって評価されます。成績評価基準は「3. GPA 制度について」を参照してください。

(2) 成績・進級、卒業発表

成績発表は、A・B期は9月、C・D期は3月に行います。詳細については、掲示板（市ヶ谷田町校舎本館1階）で確認してください。

(3) 成績調査

成績評価の調査申請は、**成績発表開始日より7日以内**に、所定用紙に記入の上、デザイン工学部担当窓口へ提出してください。9月の成績発表時の調査対象はA・B期科目、3月の成績発表時はC・D期科目（一部年間科目）です。ただし、履修登録していない科目や定期試験を受験していない科目（定期試験実施の場合）については、調査の対象となりません。

成績評価は、出席状況や試験、レポート等を総合して評価を行うため、所定用紙にはそれら全てについてどのように対応したかを詳細に、正確に記入してください。

なお、学生の皆さんの責によらない事由により、申請期間終了後に客観的に明らかな成績評価の誤りが発見され

た場合は至急、窓口にお問い合わせください。

(4) 「英語 1」～「英語 4」の単位認定制度について

① スコアを保有している場合（全学科共通）

TOEFL(R)-ITP レベル 1 550 点以上もしくは同レベルの TOEFL (R) -IBT のスコア保有者は、「英語 1」～「英語 4」の評価を「A+」で単位認定します。詳細は掲示板で確認してください。

対象者：入学年度の 7 月 31 日までに申請時点より 2 年以内の公式スコアレポートを添付して申請した学生

② ERP 科目を修得した場合（全学科共通）

ERP 科目を履修し単位を修得した場合は、入学年度に限り修得単位数に応じて「英語 1」～「英語 4」の任意の科目を A+ で単位認定します。詳細は掲示板で確認してください。

3. GPA（グレードポイントアベレージ：grade point average）制度について

(1) GP(grade point)について

上記の 5 段階の成績評価 A+、A、B、C、D、さらに未受験その他の場合の評価 E に、それぞれグレードポイント (grade point) がつきます。5 段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりです。

	合格（単位修得）				不合格	
成績評価	A+	A	B	C	D	E
評価基準	100-90 点	89-80 点	79-70 点	69-60 点	59-0 点	未受験・他
GP	4	3	2	1	0	0

(2) GPA (grade point average) について

2008 年度より導入されました。履修した科目の成績評価として A+ から D までの 5 段階評価がつきますが、5 段階評価を 4～0 までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けます。これがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これが GPA (grade point average) です。GPA の算出方法は次のとおりです。計算値は小数点以下第 3 位を四捨五入して表記します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{＜履修登録した科目の GP} \times \text{その科目の単位数＞の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

* 不合格科目は後に再履修し合格すると分母から除外されます。

(3) GPA を表示する書類について

- ・成績通知書：①各セメスターの GPA、②直近のセメスターまでの在学期間を通算した GPA
- ・成績証明書：①直近のセメスターまでの在学期間を通算した GPA

(4) 登録の取消しについて

未受験その他による E 評価の科目は、GPA 計算式において、GP を 0 点として分子に算入し、単位数を分母に参入しますので、E 評価が多いほど GPA が低下します。シラバスを読み、履修したい科目を慎重に決めたうえで、科目登録をしてください。一度登録した科目は責任をもって履修してください。ただし、一定期間内に取消作業を行えば、登録を取消することができます。取消期間については、履修登録の際に必ず確認してください。

(5) 活用方法

GPA は成績を数値化し、客観的にみるための手段です。GPA はセメスターごとと通算の二つのデータが出されるので、1 年次と 2 年次、あるいは 3 年次、4 年次の成績を比較したり、推移を確認したりすることで学習効果を自分で確認することができます。大学院入試や派遣留学応募時に GPA を参考に選抜することがあります。

(6) GPA に参入されない科目について

R 評価、S 評価の単位認定による評価、卒業所要単位外の教職・資格科目は算入されません。逆に卒業所要単位数を超えて履修した基礎科目・専門科目については算入されます。また、他学部公開科目は卒業所用単位には含まれませんが、GPA には算入されます。

この他にもグレード評価には馴染まないと各学部・学科等が判断した科目については「P/F 評価」(Pass (合格) / Fail (不合格)) という形で成績評価をすることがあります。この P/F 評価指定科目についても GPA には算入されません。

(7) 不合格科目 (D、E 評価) を再履修して単位修得した場合

不合格科目 (D、E 評価) でも再履修の結果、単位認定されればそれ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみを GPA に算入します。ただし、学期・セメスターごとの GPA については、遡って修正することはありません。

4. 学習指導制度について

GPA、修得単位数、必修科目の修得状況、出席状況等成績が振るわない者に対して、本人との面談を通じて今後の履修計画を教職員とともに考える制度です。学習指導の対象になる基準は、ガイダンス・掲示等を通じてお知らせします。

第5章 事務手続き

1. 主な手続きと担当窓口

ここに記載のない事項については『学生手帳』を参照してください。

なお、デザイン工学部の窓口業務の取扱時間は以下の通りです（学内の窓口も基本的に同様です）。

月曜日～金曜日 9:00～17:00（11:30～12:30 は昼休み）

土曜日 9:00～12:00

TEL 03-5228-1347

問い合わせ事項	問い合わせ先・書類提出先	備考
学籍関係届出		
休学するには（休学願）	デザイン工学部窓口	各種様式は、法政大学ＨＰよりダウンロードができます
退学するには（退学願）		
復学するには（復学願）		
復籍するには（復籍願）		
その他の届出		
本人ならびに保証人の住所・電話番号の変更	デザイン工学部窓口	
保証人の変更		
改姓・改名		
履修成績通知書の送付を取りやめる		保証人の承認を要する
学費納入通知書の送付先の変更		
各種証明書・学割・健康診断書について		
証明書を取得したい	証明書自動発行機（市ヶ谷田町校舎２階、各キャンパス）または学部窓口	証明書の種類等によっては、発行まで時間のかかる場合があります。余裕をもって申請してください。
学割が欲しい	証明書自動発行機	
健康診断書が欲しい	証明書自動発行機（４年生） 診療所（１～３年生） 連絡先：03-3264-9503	毎年４月に大学で実施する健康診断を受診した場合に発行
学生証について		
紛失または破損した	デザイン工学部窓口	紛失と取扱不注意による破損は有料 *2000 円 （裏面シールのみの場合は 200 円）
裏面シールを紛失した		
磁気が消えたようだ		
裏面シールの記入欄がいっぱいになった		
自転車利用について		
自転車で通学したい	デザイン工学部窓口	無料 窓口で利用申請書に記入し、許可シールを発行する必要があります。その際、防犯登録番号が必要です。

問い合わせ事項	問い合わせ先・書類提出先	備考
各種相談ごと		
教務全般（履修、卒業・進級要件・試験等）・学籍事項（休学・退学等）についての相談	デザイン工学部窓口	
パソコンに関する相談	edu サポート室 連絡先：03-5228-1401	
教職・資格科目の履修について	デザイン工学部窓口	『教職・資格課程履修要綱』の課程表を参照してください
教育実習、介護等体験、免許状申請、博物館実習	教職・資格窓口（58 年館 1 階） （博物館学実習を除く）	博物館実習については、資格課程実習準備室（BT14 階）へ
他学部公開科目について	公開科目主催学部の窓口	
留学について	グローバル教育センター国際交流課 連絡先：03-3264-9315	
転部・転科・転籍について	希望先学部の窓口	
法政大学大学院・専門職大学院への進学	デザイン工学部窓口・大学院課 または各専門職大学院窓口	
就職について	キャリアセンター	
学生生活（アパート・厚生施設・アルバイト・遺失物・サークル活動）、学費・奨学金について	学生センター	
遺失物（市ヶ谷田町校舎）	デザイン工学部窓口	
学生生活の悩み事に関する相談について	学生相談室 連絡先：03-3264-9493	
ハラスメントに関する相談について	ハラスメント相談室 連絡先：03-3264-4409	
教室・施設の利用		
授業関連での教室利用	デザイン工学部窓口 （市ヶ谷田町校舎の場合）	教員からの事前申請を原則とする。 * 教室・設備に関する情報は以下の URL に掲載しています。 URL: http://www.hoseikyoiku.jp/gakusei/
サークル活動等（授業関連のサブゼミ等以外）での教室・備品・学生厚生施設の利用	学生センター、デザイン工学部窓口	
図書館の利用について	田町校舎・図書閲覧室 連絡先：03-5228-1415	学生証で入館・利用できます。
AV ライブラリーの利用について	AV ライブラリー（BT 3 階）	映像（映画等）資料等多数所蔵。学生証で入室・利用できます。
学生厚生施設（セミナーハウス）の利用について	80 年館地下 2 階受付 （自動ドアを入れて左側）	法政大学が運営するセミナーハウス（石岡等）等 * その他、大学契約宿舎があります。第 6 章を確認してください。

2. 学生証について

学生証は、本学の学生であることを証明するために重要なものです。学生証は必ずケースに入れ**常に携帯し**、盗難・悪用されないよう大切に扱ってください。学生証が無いと、定期試験を受験できなかったり、出席を条件とする授業で不利益が生じたり、図書の貸し出しを受けられない他、証明書の交付が受けられません。また、市ヶ谷田町校舎内の情報教室 1 及び 2 は学生証がないとログイン出来ません。

なお、学生証は、退学・卒業等、本学学生の身分を失う場合は、直ちに窓口まで返還してください。

(1) 学生証の交付

新入生は、ガイダンス終了時に交付します。新入生以外の者は、各年度の初めに、通学証明書を兼ねた裏面シールを貼りかえることにより更新を行います（裏面シールは学費振込用紙と一緒に保証人住所に送ります）。

(2) 学生証・裏面シールの再発行について

学生証（裏面シール部分を含む）を汚損・紛失したときは、学部窓口に出してください。特に紛失した場合には、悪用による被害を受けないよう、警察にも届けてください。大学内で紛失した場合は、まずデザイン工学部担当窓口と学生センターへ問い合わせてください。

再発行を受けた場合、外濠校舎および富士見坂校舎のスタディールームを引き続き利用するには学生センターに報告する必要があります。

3. 学籍に関する手続きについて

(1) 学籍について

学籍番号は、卒業まで変更されることはありません。試験や各種届出の際に本人氏名とともに必ず記載する大事な番号ですので、正確に記憶しておいてください。

(2) 休学

病気その他のやむを得ない事由で、一定期間授業に出席できない学生は休学することができます。休学しようとする学生は、所定の手続きを期限内に行い、許可を得なくてはなりません。

病気を理由とする休学の場合、別途、診断書の提出を求める場合があります。

※教職科目を履修している場合は、教職・資格担当窓口にも相談すること。

① 休学願の届出期限：下表のとおり。

休学希望期間	届け出期限
年間	5 月 31 日
春学期（A・B期）	
秋学期（C・D期）	10 月 31 日

②休学中に必要な費用：休学在籍料及び諸会費は下表の通り

休学期間	必要な費用	
年間	休学在籍料（10 万円）を納入	一部の諸会費を納入（新入生のみ）
春学期	休学在籍料の 2 分の 1（5 万円）を納入	当該年度の諸会費を納入
秋学期	休学在籍料の 2 分の 1（5 万円）を納入	

※休学在籍料の振込用紙は休学許可後に別途送付します。

※入学した当該学期に休学する場合は、当該学期の「授業料・実験実習料・教育充実費・諸会費」は全額徴収します。なお、この場合の休学在籍料については、休学該当期間のうち、入学した当該学期の納入は不要とします。

③休学期間・回数等：年間休学、春学期・秋学期休学に関わらず、当該年度に限ります。引き続き休学を希望する場合は改めて申請をし、連続して 2 年に限り休学することができます。ただし、休学期間は通算して 4 年を超えることはできません。また、修業年限および在学年限を超えることはできません。春学期休学及び秋学期休学は 0.5 回、年間休学は 1.0 回として計算します。

【例】当該年度に秋学期休学し、その後連続して 4 回休学した場合

1 年目		2 年目		3 年目		4 年目	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学	休学	休学	休学	休学	在学	休学	休学
					休学不可		

※連続して休学可能な期間は 2 年であるため、3 年目秋学期は休学不可となる。休学期間の通算が 4 年を超えなければ 3 年目の秋学期は休学可能である。

④休学に関する在学期間：下表のとおり。

休学期間	在学期間
年間	0 年
春学期（A・B 期）	0.5 年（秋学期在学分）
秋学期（C・D 期）	0.5 年（春学期在学分）

⑤ 4 年次での休学：4 年次生が秋学期休学をする場合、在籍期間が休学願申請時に 4 年以上であり（春学期休学をする場合は、在籍期間が休学願申請時に 3.5 年以上）、かつ卒業所要単位を修得済みである（または休学年度において取得済みとなる）場合、当該年度終了時に本人の意思にかかわらず卒業となります。

【例】4 年次春学期休学申請時に在籍期間が 3.5 年かつ 4 年次秋学期で卒業要件を満たした場合

1 年次		2 年次		3 年次		3 年次（再）		4 年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	休学	休学	在学
	進級		進級		留級		進級		卒業

※4 年次で年間の必修科目や春学期秋学期それぞれの必修科目を修得しなければならない場合、4 年次を半期で卒業することはできない。

⑥卒業および進級の扱いについて

(a) 学位授与の要件である「4 年以上在学し」「卒業所要単位を修得」(学則第 49 条 1 項)には、半期在学者の在学期間（0.5 年）及びこの期間に修得した単位の累積を含むものとする。

(b) 卒業要件及び進級要件を充足している限り、半期在学者であっても当該年度の卒業及び翌年度の進級を認めるものとする。但し、進級の場合は、学生は各年次で通算して 1 年以上在学し、所定の単位数を充たさなければならないものとする。なお進級時期は学年度始め（4 月）に限る。

【例】3 年次留級し、2 回目の 3 年次春学期に進級要件を満たして秋学期に休学した場合

1 年次		2 年次		3 年次		3 年次（再）	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	休学
	進級		進級		留級		進級

(c) 本人の申請により 9 月卒業を認めることができるものとする。この場合、事前に「9 月卒業申請書」を提出した申請者についてのみ 9 月卒業判定を行う。ただし、卒業要件を満たしているにもかかわらず「9 月卒業申請書」を提出しなかった者について 9 月卒業は認められない（3 月に卒業する）。

【例】4 年次に留級し、2 回目の 4 年次に卒業要件を満たす場合

1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		4 年次（再）	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学	在学
	進級		進級		進級		留級	卒業	

※4 年次の年間科目（必修）や秋学期科目（必修）を未履修の場合、9 月卒業はできない。

(3) 退学

病気その他の事情により退学しようとする学生は、所定の手続きを経て許可を受けなければなりません。

①退学願には必ず学生証を添付してください。

②学費の納入状況と退学可能日付との関係は下表のとおり。

学費納入区分	退学願提出期限	退学許可日
各期学費納入者		退学希望日の属する納期の学費を支払い済の場合、退学許可日は退学願が許可された日付となります。
春学期分未納者	5 月 31 日	前年度の 3 月 31 日付（前年度退学）
秋学期分未納者	10 月 31 日	9 月 15 日付（春学期末退学）

※一旦納入した学費その他は返還しません。ただし、当年度の学費を納入済みで、上記の退学願提出期限内に前年度退学（前年度の 3 月 31 日付）及び春学期末退学（9 月 15 日付）を願い出た場合には、各々の退学確定日翌日以降の納入済み学費（授業料・実験実習料・教育充実費）及び諸会費を返還

することとします。諸会費については前年度退学に限り返還できるものとし、入会金・保険料に相当するものは返還対象としません。

※春学期に在学し、秋学期に退学になった場合の在学期間は 0.5 年です。

(4) 復学

退学願の提出により退学した学生が復学を希望する場合には、この願いを提出し、教授会の許可を得なくてはなりません。（休学者が、休学期間から明ける際、復学の手続きは不要です。）

病気回復による復学の場合、別途に診断書の提出を求める場合があります。

①復学時期：春学期または秋学期の初め

②費用：復学を許可されたときは、再入学金（10 万円）と復学する当該年度の学費（春学期または秋学期分）を納入。

※期限までに納入が無い場合は、復学許可を取り消します。

③願書の提出：春学期の始めの復学は 2 月末、秋学期の始めの復学は 7 月末までに行うこと。

(5) 除籍

下記の事項に 1 つでも該当した場合は除籍されます。

①授業料その他（学費）を所定の期日までに納入しない者。

②学則第 13 条の在学年限を超えた者。

③学則第 36 条の休学期間を超えた者。

④新入生で指定された期限までに学生証を受領しない等、その他本大学において修学する意志がないと認められる者。

(6) 復籍

除籍された学生が復籍を願い出る場合は、所属していた学部窓口へ相談してください。

①復籍時期：春学期または秋学期の初め

②復籍費用：復籍が許可されたときは、再入学金（10 万円）と復学する当該年度の学費（春学期または秋学期分）を納入。

※期限までに納入が無い場合は、復籍許可を取り消します。

③願書の提出：春学期始めの復籍は 2 月末、秋学期始めの復籍は 7 月末までに行うこと。

4. 変更届について

(1) 住所・電話番号変更

住所や電話番号に変更がある場合はデザイン工学部窓口に応じ出してください。保証人住所・電話番号のみが変更になった場合も同様です。デザイン工学部窓口にてお渡しする届出用紙に所定事項を記入して提出してください。

(2) 改姓・改名

デザイン工学部窓口でお渡しする届出用紙に所定事項を記入の上、「住民票」とともに提出してください。

(3) 保証人変更

保証人の変更を余儀なくされた場合には、改めて保証人を選定し、デザイン工学部担当窓口へ届け出てください。また、保証人の姓・名が変更になった場合も届出が必要です。

5. 学費について

(1) 学費納入期限

各学年とも学費は下記期限までに納入してください。なお、一旦納入した学費その他は一切返還しません。

学費納入区分	学費納入期限
春学期	4月30日
秋学期	9月30日

(2) 学費の延納制度について

経済的事由等のやむを得ない事情で、学則の納入期限までに学費の納入が困難な方を支援する制度です。事前に申請することで学費納入期限を所定の期日まで延期できます。学費の延納を希望する場合は、各期の延納受付期間内に「学費延納申請書」を提出してください。

期	延納期限	延納申請受付期間 (授業日のみ受付)	学則上の納入期限
1期(春学期)	6月30日	4月1日～5月末日まで	4月30日
2期(秋学期)	11月30日	9月1日～10月末日まで	9月30日

1. 「学費延納申請書」およびその提出は、デザイン工学部窓口または学生生活課で取り扱いますので申し出てください。
2. 延納期限までに学費が納入されなかった場合は、所属学部から除籍通知が発送されますので予めご承知置ください。

(3) 留級者（休学からの復学者を含む）

進級できなかった学生の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当学生の入学年度に定められたものを適用します。ただし、諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

(4) 4年次留級者

第4年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった学生の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当学生の入学年度に定められたものを適用します。

ただし、未履修単位 24 単位以内の学生の授業料に限り、該当学生の入学年度に定められたものの半額とします。休学者・途中離籍者・3年次までに留級した学生などは、これに該当しない場合があります。

諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

(5) 復学者、復籍者

退学して復学した学生、除籍されて復籍した学生の授業料、実験実習料、および教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、再入学金については、10万円を納入してください。また、諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

6. 証明書の発行について

証明書の発行には、学生証が必要です。

証明書の種類により発行方法が異なります。次ページの表でご確認ください。受付窓口が「学部窓口」となっている証明書については、デザイン工学部窓口でお渡しする申請書に記入のうえ、証紙販売機で証紙を購入・添付して申請してください。証明書によっては発行に1週間近くかかるものがあります。

(1) 発行日数

証明書自動発行機での証明書は、即時発行します。ただし、証明書の種類や申請時期（年度末や年度初）によっては窓口で申請する必要があり、発行に1週間程度かかる場合があります。

(2) 卒業後の申請

以下2種類の申請方法があります。いずれかの方法で申請してください。

① 直接デザイン工学部窓口に来て申請する

即時発行します。証明書の種類によっては発行に1週間程度かかります。

② 郵送で申請する

法政大学ホームページより申請書を取得してください。発行に1週間程度かかります。

次の手順で申請書を取得することができます。

「法政大学 HP TOPページ」→「卒業生の方へ」→「各種申請・手続き」→「証明書発行の申請方法」→「郵送でのお申し込み方法」

証明書の種類	受付窓口	手数料
在学証明書（和文・英文） 成績証明書（和文・英文） 卒業見込証明書（和文・英文、4年生のみ） 成績・卒業見込証明書（和文・英文、4年生のみ） 成績・卒業証明書予約票（今年度卒業者のみ） 卒業証明書予約票（今年度卒業者のみ） 健康診断証明書（和文、4年生のみ） 履修登録科目証明書（和文）	自動発行機	和文 200 円／通 英文 200 円／通
学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）		無料
調査書 単位修得証明書（和文、各種国家試験用） 単位修得見込証明書（和文、各種国家試験用） 学力に関する証明書（和文、教員免許申請用） 人物に関する証明書（和文、教職関係希望者のみ） 学位証明書 教育教員免許状取得見込証明書（和文、教職関係希望者のみ）	学部窓口	和文 200 円／通 英文 200 円／通
健康診断証明書（和文、1～3年生） 健康診断証明書（英文、1～4年生）	診療所 ※1	和文 200 円／通 英文 200 円／通
学生証裏面シール再発行	学部窓口	200 円／通

※1 詳細は直接診療所窓口（ボアソナード・タワー 2 F）にてお尋ね下さい。

☆市ヶ谷診療所の取扱時間：9：00～18：00（11：30～12：30 は昼休み）

◎証明書自動発行機の発行受付時間（授業期間中）

設置場所	月～金曜日	土曜日
市ヶ谷田町校舎 2 階	9：00～17：00	9：00～12：00
市ヶ谷 5 8 年館 1 階	9：00～21：00	9：00～17：00
市ヶ谷新一口坂校舎 1 階	9：00～19：00	9：00～17：00
市ヶ谷大学院棟 1 階	9：00～20：30	9：00～17：30

注 1：授業期間外については HP にてご確認ください。

注 2：定期メンテナンスに伴う稼働停止日があります。

第6章 その他

1. 喫煙について

建物内はすべて禁煙です。喫煙場所は次の通りです。

なお、未成年の喫煙は法律により禁じられています。

市ヶ谷田町校舎	本館 1 階～5 階ベランダ(別館側)、地下 1 階屋外テラス
---------	---------------------------------

※富士見校地では現在 55・58 年館建替え工事が進行中です。工事に伴い喫煙場所を変更することがありますので、詳細は本学 WEB サイトなどを確認してください。

2. パソコンの利用について

情報教室のパソコン利用、ノートパソコンの貸与については、『**edu2015 利用ガイド**』を参照してください。同ガイドには「出席管理システム」、英語の e-learning サービス「ALC NetAcademy2」等、重要な事項が記載されています。

情報教室開室時間

通常開室	情報教室 1 (市ヶ谷田町校舎 3 階)	月曜日～金曜日 9:00～22:00
	情報教室 2 (市ヶ谷田町校舎 4 階)	月曜日～金曜日 9:00～19:00
	各教室共通	土曜日 9:00～16:30
短縮開室	各教室共通	月曜日～金曜日 9:00～16:30

edu サポート室(市ヶ谷田町校舎本館 3 階)

(授業期間中の月～金曜日) 9:00～19:00

(授業期間中の土曜日) 9:00～17:00 (11:30～12:30 除く)

(授業期間外の月～金曜日) 9:00～16:30 (11:30～12:30 除く)

※日、授業期間外の土日祝日は閉室

3. 情報ポータルについて

法政大学情報システムには「WEB 版」・「スマートフォン版」の 2 つのサービスがあります。

※携帯サービスでは、お使いの携帯電話の機種により、機種依存文字が正しく表示されず、文字の一部が「？」と表示されることがあります。文字化けしているお知らせや休講情報は、WEB 版から確認してください。

個人の履修登録情報や成績情報を、インターネットを通じて閲覧できますので、利用にあたっては、それらの情報が他人に漏れることがないように十分ご注意ください。

(1) Web版

主な機能は以下のとおりです。

各機能の利用開始時期、および利用方法は、学部担当事務からの指示に従ってください。

	サービス名	サービス内容
1	情報ポータル	情報システムにログインすると情報ポータルページに各種メニューが表示されます。
2	お知らせ	大学からの個人／大学全体／学部・学科宛のお知らせを情報ポータル画面上で確認できるほか、お知らせを指定のアドレスで受信することができます。※2015 年度以降の新入生は初期値で大学付与のメールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）宛にメール配信される設定になっていますが、入学学期や入学経路により未設定の場合があります。2014 年度以前の入学生および 2015 年度以降の入学であってもメールが配信されない場合や希望する別アドレスに変更する場合は必要に応じて各自での配信設定をお願いします。
3	授業時間割・試験照会	自分が履修登録した授業時間割・定期試験日程を確認することができます。 ※授業時間割は所属の学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となります。 ※定期試験日程は WEB 公開しない学部もあります。所属学部・学科の掲示板、窓口でご確認ください。
4	休講状況照会 補講状況照会	自分が履修登録した授業の休講情報、補講情報を確認することができます。（学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となります。）
5	抽選授業履修申請	Web 上で抽選対象科目の申請、及び抽選結果の確認を行います。
6	履修申請	通常授業の履修登録や抽選授業の履修登録が申請できます。 ※学部 3 年生は履修登録(春学期)の前にキャリアセンターのシステムへ進路希望登録が必要です（2 年次に登録済みの場合不要）。詳細はキャリアセンターで確認してください。
7	履修取消	履修申請による科目登録が一旦確定した後、科目の取消ができます。 ※科目や学部により履修取消機能を利用しない場合があります。
8	成績通知書印刷	自分の成績通知書を出力することができます。 ※学部 2 年生は進路希望登録、学部 4 年生は進路決定報告を、成績発表（秋学期）までにキャリアセンターのシステムへ登録する必要があります。詳細はキャリアセンターで確認してください。
9	キャリア就職	各種支援行事への参加申請や、企業情報、求人情報の検索ができます。
10	奨学金申請	各種奨学金の出願申請や、採用結果の確認ができます。

(2) スマートフォン版

主な機能は以下のとおりです。

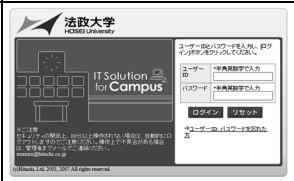
＜スマートフォン版＞

	サービス名		サービス内容
1	お知らせ	各種お知らせ	大学からの個人／大学全体／学部・学科宛のお知らせを確認することができます。
		メール配信設定画面	各種お知らせ及び自分が履修登録した授業の休講情報がメールで大学付与のメールアドレスに配信されます（配信先メールアドレスを変更することも可能です）。 ※2015 年度以降の新入生は初期値で大学付与のメールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）宛にメール配信される設定になっていますが、入学学期や入学経路により未設定の場合があります。 2014 年度以前の入学生および 2015 年度以降の入学であってもメールが配信されない場合や希望する別アドレスに変更する場合は必要に応じて各自での配信設定をお願いします。
2	履修	履修申請（春学期）	履修登録が申請できます。抽選授業の申請は PC 版から行ってください。
		履修申請（秋学期）	※学部 3 年生は履修登録（春学期）の前にキャリアセンターのシステムへ進路希望登録が必要です（2 年次に登録済みの場合不要）。詳細はキャリアセンターで確認してください。
		履修取消（春学期）	履修申請による科目登録が一旦確定した後、科目の取消ができます。
		履修取消（秋学期）	※科目や学部により履修取消機能を利用しない場合があります。
3	授業・時間割	授業・時間割照会	自分が履修登録した授業時間割・定期試験日程を確認することができます。
		授業・時間割照会（集中）	※授業時間割は学部事務による履修登録科目承認後、利用可能となります。
		授業・時間割照会（定期試験）	※定期試験日程はWEB 公開しない学部もあります。所属学部の掲示板、窓口でご確認ください。
4	全学休講情報		全学の休講情報（アクセス日から 1 週間分）を確認することができます。

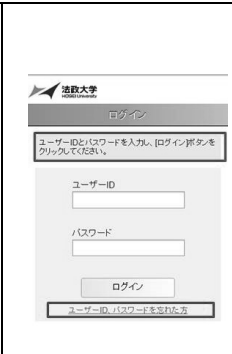
(3) 利用方法について

【Web 版】

1		法政大学ホームページ（ http://www.hosei.ac.jp/ ）にアクセスします。
2		在学生の方へ＞履修・成績＞情報システム＞「情報システム（学生用）」を選択します。
3		統合認証ログイン画面が表示されますので、「ユーザ ID」と「パスワード」欄に統合認証 ID/パスワードを入力します。

4		ログインすると、「情報システムユーザサポートサイト」が開きますので、サポートサイト右上の「サービスを利用する」ボタンを選択します。 ※サポートサイトでは、情報システムの各サービスマニュアルやシステムメンテナンス情報、よくあるお問い合わせ等を掲載していますので、適宜ご確認ください。
5		法政大学情報ポータルサイトログイン画面が表示されますので、「ユーザー ID」と「パスワード」欄に統合認証 ID/パスワードを入力します。
6		「情報ポータル」画面が開きますので、メインメニューから利用する機能を選択してください。

【スマートフォン版】

1		下記 URL を入力、もしくは QR コードを読み取り、「スマートフォンサービス」にアクセスします。 URL : https://www.as.hosei.ac.jp/kyomu/smartphone/ QR コード : 
2		ログイン画面が表示されますので、Web 版と同様に統合認証 ID/パスワードを入力してください。

※各機能の利用方法については、「情報システムユーザサポートサイト」にてご確認ください。

※【重要】統合認証 ID/パスワードについて

- ・統合認証用の ID/パスワード発行証は、入学ガイダンスで全員に配付しています。
- ・パスワードはキャッシュカードの暗証番号等と同等に扱い、初期パスワードは各自で必ず変更したうえで、絶対に他人に知られることのないよう厳重に管理してください。
- ・パスワードを紛失した場合は、学生証持参の上、下記の通りの場所にて再発行を受けてください。

市ヶ谷キャンパス	富士見坂校舎 2F 情報カフェテリア 市ヶ谷田町校舎 3F edu サポート室
多摩キャンパス	総合棟 3F 多摩情報センター
小金井キャンパス	管理棟 4F 小金井情報センター

(4) 主な機能の紹介

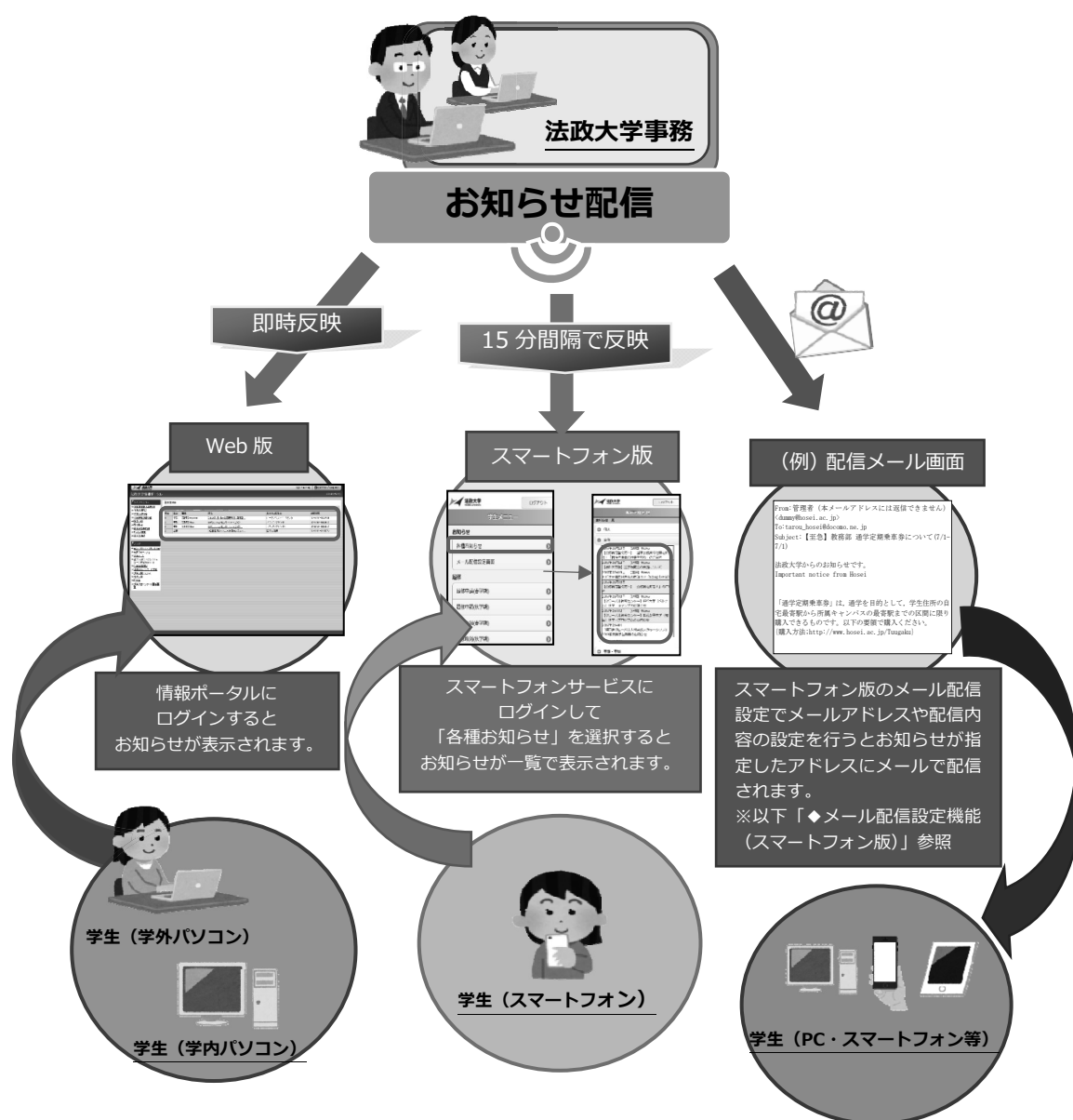
①お知らせ機能

個人／大学全体／学部・学科宛に配信される大学からのお知らせを、閲覧することができます。

履修登録に関する変更点やシステムの不具合が発生した場合等には、掲示板のほか、この「お知らせ機能」で通知しますので、定期的を確認するようにしてください。

なお、2015 年度の入学生より配信先のメールアドレスの初期値として、大学付与のメールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）宛にメール配信される設定になっていますが、入学学期や入学経路により未設定の場合があります。2014 年度以前の入学生および2015 年度以降の入学であってもメールが配信されない場合や希望する別アドレスに変更する場合は必要に応じて各自での配信設定をお願いします。

<利用イメージ>



4. 授業支援システムについて

授業用資料の印刷やレポート提出等に際して、授業支援システムの利用を前提とする場合があります。このシステムでは Web 上で授業用資料の閲覧やレポートの提出を可能にしているため、インターネット接続環境さえあれば「いつでも、どこでも」利用可能です。認証 I D とパスワードが必要です。

◆授業支援システムに関する詳細サイト

<http://w3.cms.k.hosei.ac.jp/student.html> に直接アクセスしてください。

◆授業支援システムに関する問い合わせ先

富士見坂校舎 2 階 情報カフェテリア 2

月～金 9:00-12:00、12:30-17:00（授業期間中）

電話 03-3264-5384

※授業支援システムと科目の履修登録は別個のもので、授業支援システムに履修の登録をしても履修登録とはなりません。

5. 美術館入館料キャンパス会員登録について

学生の皆さんの芸術への関わりを深めてもらう趣旨から、以下の美術館への入館料が無料あるいは割引となるキャンパス会員登録を行っています。都心立地の地の利を活かし、有効にご活用ください。

◆国立美術館キャンパスメンバーズ会員（全学部・全研究科）

<http://www.artmuseums.go.jp/campus/>

東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館の所蔵作品展の無料観覧、特別展・共催展の割引などの特典

◆21_21 DESIGN SIGHT 学生割引登録会員（デザイン工学部・デザイン工学研究科在籍学生のみ）

<http://www.2121designsight.jp/>

学生料金の入場料割引の特典

6. ゼミで契約宿舎を利用する場合の宿泊料補助について

ゼミ合宿で（株）エイチ・ユーが「ゼミ合宿の宿」として提携・紹介する宿泊施設を利用した場合に宿泊料補助を行っていますので、ぜひご利用ください。詳細は、以下の大学HPにて掲載しています。

（HOME > キャンパスライフ > 学生生活サポート > ゼミでの契約宿舎利用における宿泊料補助）

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/keiyaku/index.html>

7. 障がい学生支援室について

大学では様々な障がい（身体・発達）を持った学生が学んでいます。

障がい学生支援室は、障がいのある学生がその他の学生と同じレベルで講義を受講できるようにするための「講義保障」を中心に、学生が社会へ出るための自立をサポートし、障がい学生と支援学生の双方が成長できるコミュニティ作りを目指しています。

支援室の活動は、その多くが学生ボランティア（障がい学生サポートスタッフ）によって支えられています。サポートスタッフは、ノートイク講座など必要な講習を受けて登録し、サポートが必要な学生の講義へ派遣されています。

なお、スタッフへは活動に応じた謝礼が大学から支払われています。

○場所 外堀校舎 1 F（北東角部屋）

○電話 03-3264-6718

○Email ishien@hosei.ac.jp

○開室時間 月～金 9:00～17:00

8. その他の各種サービスについて

図書館、就職活動、留学等の各種サービスについては、『**学生手帳**』およびそれぞれが発行しているパンフレット等を参照してください。

第二部 建筑学科

第1章 教育目標と3つのポリシー

<教育目標>

建築学科は、以下の7項目からなる「アーキテクトマインド」の習得を教育目標に掲げ、その能力を備えた人材を育成する。

1. 総合デザイン力：

工学をベースとしながら、他の学問分野との知識の融合による正しい価値を創造し、デザインする工学としての総合デザイン力と技能を有する。建築の問題を幅広い観点から捉え、解を自主的かつ継続的に見出す力を有する。

2. 文化性：

歴史と文化という視点は他の工学分野と建築を峻別する。建築とは異文化への造詣を養い、過去を参照しながら、現在および未来を志向するものである。このような建築の文化性を理解できる。

3. 倫理観：

地球環境をいかにして保持するかが建築・都市・環境に関わる専門家の倫理観の根幹とならなくてはならない。建築デザインは社会的責任を伴うものであることを理解できる。

4. 建築の公理：

建築の初源がシェルターであるとするなら、安全、安心、快適は建築の根源的な公理である。建築が健全な社会の礎を担うための基礎知識を有する。

5. 芸術性：

技術と芸術の両立は永遠のテーマである。建築がそのふたつの要素の統合を果たしたとき、人に感動を与えることができる。このような芸術性の素養を身に着けている。

6. 教養力：

建築の背景となる社会的な要請を論理的に分析し、理解することは建築を構想する土壌となる。数学、物理学などの自然科学および情報技術に関する知識が客観的で総合的な見識の基礎であることを理解し、それらに関する基礎学力を有する。

7. 表現力：

建築することとは統合することであり、統合するためにはコミュニケーションやチームワークが不可欠である。そのスキルを担う、さまざまなレベルでの表現能力の涵養が社会を見据えた提案能力を培う。以上のことを理解し、それらの基礎的な能力を身に着けている。

<ディプロマ・ポリシー 学位授与の方針についての目的や目標 >

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 大学で学び得た事柄を良き社会人として人々の厚生と福利のために役立てることを倫理的な使命と考える。
2. 建築家、建築技術者として社会から付託されている職能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある。
3. 修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協調的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする。
4. 建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを適格に把握し正確に分析処理することができ、結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる。

5. 企画やデザイン提案, 研究や報告内容について, 論理的に記述し明解に口頭説明する能力, 及び他者と建設的に討議討論する能力, 並びにそれをいついかなる場においても発揮することのできる語学力を有する.

<カリキュラム・ポリシー 教育課程の編成・実施についての目的や目標 >

教養から基礎・専門に至る建築学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている.

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目: 英語
- ② 基盤科目: 法律系, 経営系, 人文系, 工学系, 保健体育, 留学生科目
- ③ 専門科目:
 - (i) 学部科目
 - (ii) 学科基礎科目
 - (iii) 学科科目
 - (iv) 特別科目

2. 五つの専門科目系と目標

(ii)学科基礎科目と(iii) 学科科目に関しては五つの専門科目系が以下のように設定されており, それぞれの目標に向かって学修する. 「建築デザイン」, 「建築・都市史」, 「環境工学・建築設備」, 「建築構造」, 「建築構法・施工」

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

- ・専門科目では, 高度な数学的手法や実験, シミュレーション技術を学ぶ. その導入として学科基礎科目(物理・数学等)は, 専任教員が専門との連携的授業を組立て, 指導を行うよう体系化されている.
- ・専門科目では, 「建築デザイン」, 「建築・都市史」, 「環境工学・建築設備」, 「建築構造」, 「建築構法・施工」の各分野が工学的な知識・理論を基盤に, 「芸術的な素養」を加えて重合しながら有機的に結びくよう構成されている.
- ・各分野を総合的に把握できる能力を獲得するために, 横断的なプログラムを構成し, とくに「フィールドサーベイ」, 「プロジェクト学習」, 「インターンシップ」など, 実践を重視した学習プログラムを重視している.
- ・1年から4年次まで通して配置された「デザインスタジオ」は, 少人数教育の実現により, 個性の発見と伸長が図られている.

<アドミッション・ポリシー 入学者受入れの方針についての目的や目標 >

建築学科は, 以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる.

- 1. 文理にまたがる学問分野を広く深く学ぶことを通じて自己研鑽に努めたいと考えている.
- 2. 人々の健康で安心な生活, 並びに社会の安全と公正について深い関心がある.
- 3. 人々の生活環境と社会システムの発展向上のために, 建築家, 建築技術者として専門的立場から何らかの貢献をしたいと考えている.
- 4. デザイン力を磨き, コミュニケーション力を深め, 建築を含む幅広い分野に対し積極的に関与したいと考えている.
- 5. いかなる状況が顕現しようと, 地球と世界の将来に希望を持ち, そこに自己実現の夢を抱いている.

第2章 学科紹介

いま、建築分野の「職能」が問われています。職能とは、社会や企業で果たす役割のことをいいます。20世紀、人間は大量生産・大量消費型の社会を追い求め、均一的で機能を優先したモノづくりを目指してきました。そのおかげで、われわれの生活は便利になり、いつでも安価で様々なモノを手に入れることができるようになりました。しかし、21世紀に入り、こうした物質的な「モノ」だけではなく、むしろ精神的な豊かさこそが大切であることに気づき始めました。

そこで「総合デザイン」、つまり幅広い観点からの総合的なものづくりの重要性を認識して設立されたのが法政大学デザイン工学部です。たんに「モノ」の形をデザインするだけでなく、工学を基礎とした「デザイン工学」という新しい創造的な学問を身につけ、工学の理性だけでなく、美系の感性と文系の知性をもあわせ持つことが大きな学習目標に掲げられています。

建築学は、まさにそうした物理的環境だけでなく、精神的環境までも包み込む幅の広い職能であることを自覚することから始まるといつてよいでしょう。建築を計画し、実際に造るには、多様な専門技術の理解が不可欠です。同時に、建築は新しい形態と機能を創造する学問でもあります。たんに技術的なことだけでなく、楽しく快適で、人々の想像力を喚起させるような独創性や芸術性をも創出しなければなりません。時を越えて、人の心に残り続けるような価値のある建築を生み出そうとする姿勢を常に持つことが求められるのです。一方で、建築は人々の生命と財産を守り続ける安全なものでなければなりません。また、都市や地域は、小さな住宅から大規模な公共施設に至るまで、さまざまな建築が集合してつくられています。だからこそ、都市に対しての知識と理想を持つことも必要で、建築はその基本の単位となります。さらに、近年の情報化、高齢化、国際化などの社会変化、同時に環境問題や自然災害にも対応しうる思想と技術の習得が欠かせません。そして、21世紀は新しいものを創るだけでなく、歴史的なまちや建築をどのように保存し再生していくかが大きな課題となっています。

これら、建築に求められる職能を身につけるために、建築学科では幅広い分野の講義から構成されています。建築学は、たんなる技術学ではなく、優れた「人間の学」そのものであるということを意識して学問に立ち向かわなければならないのです。

法政大学建築学科は、こうした総合的かつ横断的な学問の知を身に付けながら、「アーキテクトマインド」の素養を大切にすることを第一義としています。アーキテクトマインドは「建築家の精神」と直訳できますが、ここでいうアーキテクトすなわちアーキテクチュアとは建築を取り巻く全体性を意味します。それを理解し、その精神を育成することが教員と学生の双方に求められています。法政大学建築学科の礎を築き、日本を代表する著名な建築家・建築史家であり、偉大な文人でもあった故・大江宏名誉教授は「一筆描きのようにサラサラとは決して作り上げられないところに建築の本質がある。…重要なのは何がつくられたかということではなく、いかなる洞察のもとにそれがなされたかということである」と主張していました。われわれ建築に携わるものは、工学や技術の深い理解のみならず、美学、歴史、文化、社会、思想、経済をも包括したなかで、個々人が建築との間に的確な立脚点を定め、建築との距離感を図りながら、その全体性を探求し続けることが求められるのです。いま皆さんは、その途方もない大きな海原に船を漕ぎ出しました。教員はその羅針盤となり、学生は動力となって、両者が一体となりながらアーキテクトマインドを育成し体現していくことが、いまわれわれ全員に課せられた使命なのです。

第3章 建築学科の特徴

1. 理念・目標・教育目標

建築学科の理念は、学科を構成する「建築デザイン」、「建築・都市史」、「建築環境」、「建築構造」、「建築構法・施工」の5分野が、工学的な知識と理論を基盤としながら芸術的な要素を含みつつ、それらが高い次元で有機的に結びついていることに特徴があります。そのような5つの専門分野の基礎力と応用力を持ち、総合デザインを行うことができる学生を教育することが目標です。つまり、より深い専門性を持ち、広い視野からホーリスティック(全体的)な観点から建築を生みだすことのできる教育を目指しています。

そのため、幅広い文理融合型の教養と基礎理論の科目を設け、専門では建築設計デザイン（デザインスタジオ）を1年次から4年次まで系統的に配置し、基礎専門・専門科目を学年に応じて構成して、最終の4年次には卒業論文に加え卒業設計も卒業のための要件となります。

2. 教育内容・方法

建築学科の理念・目標に沿う学生を教育するためには、デザイン・歴史・環境・構造・構法の各専門分野の深い基礎力と、5分野を総合的にデザインできる能力を開発することが第一です。その一方で、建築の学問分野は、工学分野と芸術・デザイン分野に加え、歴史、人文社会、人間の生活などの文系的な領域とも関連していることから、幅広い教養と文理融合のカリキュラムによって構成されています。

同時に、現代の成熟社会、環境の時代に対しては、時代を読むセンスや感性が必要です。クォーター制を生かし、従来の講義形式とは異なる形態のフィールド調査型演習や、体験型講義・演習、海外大学との連携のなかで教育を行います。また、都市型キャンパスの利点を生かし、専任教員以外にも多様な才能と特異な専門性を持つ外部講師が多く参加して、新しい実務の動向や専門の教育を推し進め、学外活動やキャリア教育を推進します。

さらに、1年次から4年次まで系統的に配置された建築設計デザイン（デザインスタジオ）では、少人数教育を実現しています。基礎専門・専門科目を学年に応じて構成し、4年次の卒業論文と卒業設計で完成する一連のカリキュラムにより、総合的デザインの能力を身につけます。

3. 日本技術者教育認定機構（J A B E E）受審プログラム

建築学科は2013年度に大学院建築学専攻と共に日本技術者教育認定機構（J A B E E）から教育プログラムの認定を受けました。

1. 受審プログラムの区分：エンジニアリング系学士課程プログラムおよび建築系学士修士課程プログラム
2. 受審プログラム名称：法政大学デザイン工学部建築学科
および法政大学デザイン工学部建築学科デザイン工学研究科建築学専攻建築デザインプログラム

学士課程プログラムは卒業要件を満たすことで学士課程プログラム修了生として認定され、学科からエンジニアリング系学士課程プログラム認定証が発行されます。

建築系学士修士課程プログラムは、本学建築学科またはこれに相当する教育課程を卒業または履修した者で、修士課程修了時に以下の認定条件を満足していれば、学科及び専攻から建築系学士修士課程プログラム認定証が発行されます。詳細は「法政大学デザイン工学研究科履修ガイド」を参照のこと。

以上に関する詳細および資格上の効力についてはガイダンス時に説明します。

4. 少人数教育

建築学科は、理数系の教養科目教育を専門の教員が担当し、教養科目と専門科目との連携をはかっています。また、新入生の教育には、担任制の導入ゼミナールを中心に、きめ細かな指導を行います。導入ゼミナールの一環として、入学時の5月に、「ウォークラリー」というイベントを企画し、教員・大学院生・同窓生が引率役となって、少人数グループで都内数ルートの街歩きを実施します。これは体験型の教育により建築を観察する能力を身に付けると同時に、大学生として学ぶ態度を養いながら、日々の生活の中で建築に対する感性を磨くことが目的です。

5. 建築研究・卒業設計賞

3年次後半には、卒業論文・卒業設計のための研究室（ゼミ）の配属を行い、各研究室のテーマにしたがって、卒業科目を履修します。

優秀な卒業論文には公開で発表審査会を行い、選ばれた学生には建築研究賞が与えられます。また、優秀な卒業設計には外部の建築家などを招いて審査会を行い、選ばれた作品は設計賞が与えられると同時に、外部の展覧会に出品します。卒業論文については梗概を網羅した「卒業研究」を、卒業設計については作品集である「Studio Works」を発刊し、他大学、関連機関に公表しています。

6. 研究活動・大学院との連携

ほとんどの専任教員は、学会賞をはじめとする様々な賞を受賞しています。いずれも研究・デザイン活動の資質は高く、またフィールド調査型の研究が一つの特徴ともなっています。このことから、研究活動では、分野を越えて共同調査を行い、学科として特徴ある研究となるよう指向しています。これは、本学科を構成する5分野の教員が、他の大学に例をみないほどの協力関係にあることを示しています。

たとえば、歴史と環境の視点にたって都市の再生を計画するため、2004年度から文部科学省私立大学学術高度化推進事業として、建築学科の教員を中心とするプロジェクトが採択され、学内に「エコ地域デザイン研究所」が組織されました。この研究所を拠点にしたネットワークは、日本はもとより海外にまで伸展しており、単なる学術研究だけでなく、広く社会へのアピールを心がけながら、社会的貢献に努めています。とくに、キャンパスが位置する市ヶ谷地区を対象に、外濠の歴史的・自然的遺産を考慮した再生、神楽坂・飯田橋周辺のまちづくり等を通して地域貢献や社会貢献を行っています。

2010年4月、市ヶ谷地区にデザイン工学研究科が新設されました。建築学科では、約40%の学部生がこの大学院に進学しており、法政大学のなかで院生数が最も多くなっています。こうした活気ある大学院の研究活動を展開しながら、建築学科には海外で活躍している教員も多く、他学科に比較して教員・学生ともに海外留学・留学経験が多いのも特徴です。教員・学部生・大学院生、そして海外研究者との研究プロジェクトなども多く、国際的に活躍できる良好な環境が整っています。

7. IAE2011 Server について

デザイン工学部建築学科では、独自のサーバ（IAE2011 Server）を立ち上げ、学習成果物の e ポートフォリオ化を行なっています。

（１）主な機能

- ・ 提出物をアップロードすることができます。また、自分が過去に提出した作品やレポートの閲覧・ダウンロードができます。
- ・ 建築学科内で提出されたプレゼンテーションやポートフォリオが閲覧できるほか、教員や他の学生にコメントを貰い共有することができます。（RFC -Request For Comments-）
- ・ 建築士受験資格要件を満たすための履修シミュレーションができます。（CARESS）

（２）IAE2011 Server トップページ

<https://iae.hosei.ac.jp>（ログインには I D とパスワードが必要です）

（３）IAE2011 Server に関する問い合わせ先

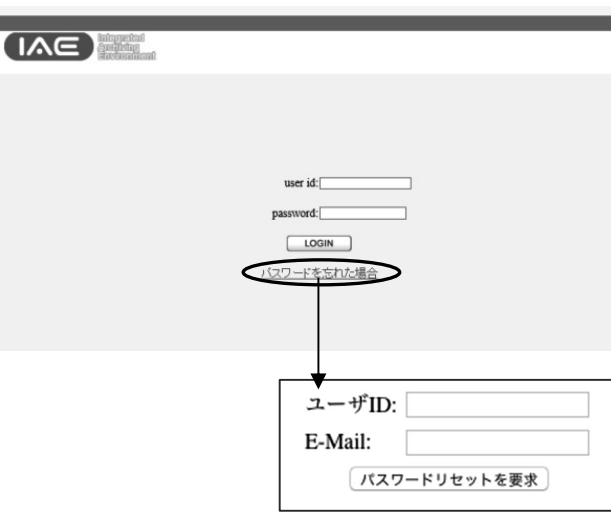
市谷田町校舎 2 階 建築 JABEE 室

月～金 9:00-11:30 12:30-17:00（業務都合により変更される場合があります）

メール IAE-support@ml.hosei.ac.jp

※IAE2011 Server および付帯する機能は建築学科独自のものであり、法政大学の授業支援システムや履修登録サイトとは異なりますので注意してください。

(4) 利用方法

1		IAE サーバトップページ (https://iae.hosei.ac.jp) にアクセスします。 ※建築学科オリジナルホームページのリンクからもアクセスが出来ます。
2		ID とパスワードを入力します。 初めて IAE サーバを利用する場合は、「パスワードを忘れた場合」をクリックし、パスワードの初期設定を行なって下さい。 ※2016 年 3 月より、従来の IAE サーバとログイン方法が変更になりました。ユーザーID、E-Mail については、4 月のガイダンスで説明しますので、必ず出席して下さい。
3		ログインすると、年度別フォルダが表示されます。使用したい年度のフォルダをクリックします。RFC、CARESS 等については、各項目を選択して下さい。
4		年度別フォルダ内に入ると、履修している授業の一覧が表示されます。課題のアップロードや配布資料をダウンロードしたい授業のフォルダを選択します。
5		目的のフォルダを選択し、左上【操作メニュー】から操作項目を選択し、利用をして下さい。

第4章 配当表【2015年度以降入学者用】

建築士（一級および二級・木造）の受験資格は、国土交通大臣に指定された科目を所定の条件で充足した上で卒業しないと、受験資格が得られません。十分に注意して計画的に履修する様にして下さい。

2009年度入学者より建築士（一級および二級・木造）の資格要件が関係法令の改正により、大幅に変更となりました。

なお、建築士資格および配当表に記載されている指定科目分類番号の詳細については「建築士資格取得について（2009年度以降入学者用）」以下を熟読して理解を深めること。

区分	学年	科目名	単位	2018年度担当者	開講期間	必修	備考	指定科目 分類番号	
								一級	二級 木造
外国語科目	1	英語 1	2	ゲーリー・ハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	A	◎			
	1	英語 2	2	ゲーリー・ハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	B	◎			
	1	英語 3	2	ゲーリー・ハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	C	◎			
	1	英語 4	2	ゲーリー・ハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	D	◎			
	1～4	英語 1（補講）	2	神田 文恵（月） 名取 みゆき（木）	A	（◎）	再履修者 用		
	1～4	英語 2（補講）	2	神田 文恵（月） 名取 みゆき（木）	B	（◎）	再履修者 用		
	1～4	英語 3（補講）	2	神田 文恵（月） 名取 みゆき（木）	C	（◎）	再履修者 用		
	1～4	英語 4（補講）	2	神田 文恵（月） 名取 みゆき（木）	D	（◎）	再履修者 用		
	1～4	財務会計	2	境 新一	A B				
基盤科目	1～4	マーケティング	2	林 奈生子	C D				
	1～4	国際社会論	2	藤本 正徳	A B				
	1～4	エコノミクス	2	多部田 直樹	A B				
	1～4	経営系	2						

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	備考	指定科目 分類番号	
								一級	二級 木造
基盤科目	法律系	1～4 法学（日本国憲法）	2	松原 文雄	A B				
		1～4 法と現代社会	2	松原 文雄	C D				
		1～4 知的財産権	2	宮武 久佳	A B				
		2～4 技術者倫理	2	山内 裕之	C D	◎			
		1～4 開発と国際協力	2	西宮宜昭・小野澤雅人・浅川英理子（建築）	C D				
	人文系	1～4 文化と文明	2	小林 信也	C D				
		1～4 認知科学	2	加藤 千恵子（建築）	C D				
		1～4 イタリア語・イタリア文化	2	押場 靖志（建築）	A B				
		1～4 中国語・中国文化	2	包 慕萍（建築）	C D				
		1～4 環境とエネルギー	2	横山 隆壽（建築・SD）	A B				
	工学系	1・2 数学 1	2	浜田 英明	A B	◎			
		1・2 数学 2	2	川久保 俊	A B				
		1・2 物理 1	2	吉田 長行	A	◎			
		1・2 物理 2	2	川久保 俊	C D				
		1・2 数理演習 1	1	宮田 雄二郎	C D				
		1・2 数理演習 2	1	川久保 俊	C D				
		1～4 バイオエンジニアリング	2	小林 卓也（建築・SD）	A B				
		1～4 ケミカルエンジニアリング	2	大山 聖一（建築・SD）	C D				
	保健体育	1・2 スポーツ総合演習	2	竹内 洋輔 竹内 洋輔	A B C D				
基盤科目	留学生科目	1～4 日本語 1	1	中沢 佐企子	A				
		1～4 日本語 2	1	中沢 佐企子	B				
		1～4 日本語 3	1	中沢 佐企子	C				
		1～4 日本語 4	1	中沢 佐企子	D				
		1～4 日本文化論	2	井波 真弓	A B				
		1～4 日本の工業技術	2	田村 広子	A B				
		1～4 一般数学	2	勝野 恵子	A B				

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	備考	指定科目 分類番号	
								一級	二級 木造
専門科目	学部科目	1	デザイン文化論	2	辻村 亮子	A B			
		2	建築と文化	2	石樽 督和	A B		②	②～④
		2	サステイナブルデザイン	2	出口 清孝	D		⑩	⑩
		3	英語表現技術	2	Duncan Baker	C			
		2	都市デザイン	2	高見 公雄	D			
		2	アーバンイズム	2	渡邊 眞理	A B		②	②～④
		2	風土と建築	2	高村 雅彦	C D		②	②～④
		2	デザイン史	2	有元 正存	C D			
		2	福祉工学	2	山下 紘正	C D			
		2	地図とGIS	2	宮下清栄・丸山智康・石田恵一	B			
		2	ランドスケープデザイン	2	小木曽 裕	A B			
		2	都市・地域政策	2	土屋 愛白	A			
		2	環境工学	2	出口 清孝	A B			
		2	テクニカルライティング	2	(X) 大友 敬三 (Y) 浅川 英理子	C D			
		2	数理統計学	2	牧野 倫子	A B			
		3	タウンマネジメント	2	宮下清栄・藤澤浩子・長野浩子・土屋愛白	C			
		2	マテリアルサイエンス	2	岩瀬 扶佐子	A B			
		3	公共空間デザイン 及演習	3	高見公雄・佐藤康三・下吹越武人・ 伊藤登・杉浦榮	C D			
		3	品質マネジメント	2	池庄司 雅臣	C D			
		2	Design Basics in English	2	ポリヴァン・ディン	C D		②	②～④
	学科基礎科目	1	導入ゼミナール（建 築）	2	赤松佳珠子・網野禎昭・安藤直見・岩佐 明彦・川久保俊・北山恒・下吹越武人・高 村雅彦・出口清孝・浜田英明・吉田長行・ 渡邊眞理・宮田雄二郎	A B	◎		
		1	建築入門	2	網野禎昭・岩佐明彦・吉田長行・渡邊眞 理	A B		⑩	⑩
		1	造形スタジオ	3	(W) 岩瀬諒子 (X) 阿部雅世 (Y) 鍛冶瑞子 (Z) 岩佐明彦	A B 集中	◎	夏期に 開講	⑩ ⑩
		1	図形の技術	2	(X) 浅古陽介 (Y) 種田元晴 (Z) 安藤直見	D		⑩	⑩
		1	デザイン理論（建 築）	2	後藤 武	D		②	②～④
		1	デザインスタジオ1 （建築）	3	(W) 安藤直見 (X) 石黒豊明 (Y) 阿部智樹 (Z) 種田元晴	A B	◎	①	①
		1	デザインスタジオ2 （建築）	3	(W) 赤松佳珠子 (X) 小池ひろの (Y) 坂野由典 (Z) 塩田能也	C D	◎	①	①
		2	デザインスタジオ3	3	赤松佳珠子・岩佐明彦・山岸綾・白川在・ 後藤武・山道拓人	A B	◎	①	①
		2	デザインスタジオ4	3	下吹越武人・岩佐明彦・三浦丈典・鍋島 千恵・菅原大輔・池田賢	C D	◎	①	①
		2	建築気候	2	出口 清孝	C D	◎	③	②～④

区分		学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	備考	指定科目 分類番号	
									一級	二級 木造
専門科目	学科基礎科目	2	建築のしくみ	2	安藤 直見	A B	◎		⑥	⑤～⑦
		2	建築計画 1	2	下吹越 武人	A B			②	②～④
		2	建築計画 2	2	赤松 佳珠子	C D			②	②～④
		2	西洋建築史	2	稲益 裕太	C D			②	②～④
		2	建築生理心理 1	2	川久保 俊	A B			⑩	⑩
		2	建築生理心理 2	2	川久保 俊	C D			③	②～④
		2	空気調和設備	2	石川 裕司	C D			④	②～④
		2	給排水・電気設備	2	石川 裕司	A B			④	②～④
		2	平面の力学	2	吉田 長行	D			⑤	⑤～⑦
		2	骨組の力学	2	浜田 英明	C D	◎		⑤	⑤～⑦
		2	建築材料	2	網野 禎昭	A B			⑦	⑤～⑦
		2	材料の力学	2	吉田 長行	A	◎		⑤	⑤～⑦
		2	部材の力学	2	(X) 宮田 雄二郎 (Y) 西園 博美	A B	◎		⑤	⑤～⑦
		2	構法スタジオ	3	網野禎昭・河野泰治・飯塚 豊・ 溝部公寛・水井 敬・鍋野友哉	C D	◎		①	①
		2	建築の空間と形態	2	安藤 直見	C			②	②～④
	学科科目	3	インターンシップ（建 築）	3	下吹越武人・渡邊眞理・高村雅彦	A～D 集中				
		3	建築フォーラム	2	下吹越武人・渡邊眞理・赤松佳珠子・北 山恒	C D				
		3	建築法規（建築）	2	河野泰治	C D			⑨	⑨
		3	デザインスタジオ 5	3	下吹越武人・渡邊眞理・稲垣淳哉・ 伊藤博之	A B			①	①
		3	デザインスタジオ 6	3	渡邊眞理・後藤武・Mark Mulligan・ 川辺直哉	C D			①	①
		3	建築論・建築造形 論	2	今村 創平	A B			⑩	⑩
		3	都市計画	2	石川 貴之	C D			⑩	⑩
		3	日本建築史	2	高村 雅彦	A B			②	②～④
		3	フィールドワーク（建 築）	3	高村雅彦・二瓶正史	A B			⑩	⑩
		3	近現代建築史	2	高村 雅彦	C D			②	②～④
		3	都市史	2	高村 雅彦	B			②	②～④
		3	音・振動環境	2	川久保 俊	C D			③	②～④
		3	光・視環境	2	出口 清孝	A B			③	②～④
		3	環境生態学	2	神谷 博	A B			⑩	⑩
		3	設備デザイン基礎	3	出口 清孝	A B			④	②～④
		3	建築設備総合デザ イン	3	石川 裕司	C D			①	①
		3	構造とマトリクス	2	吉田 長行	A			⑤	⑤～⑦
		3	構造計算プログラミ ング	2	浜田 英明	C			⑩	⑩
		3	空間の構造デザイン	2	浜田 英明	A B			⑥	⑤～⑦
		3	鉄筋コンクリートのデ ザイン	2	浜田 英明	A B			⑥	⑤～⑦

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	備考	指定科目 分類番号	
								一級	二級 木造
専門科目	学科科目	3	鋼のデザイン	2	永井 佑季	C D		⑥	⑤～⑦
		3	材料のデザイン	2	宮田 雄二郎	A B		⑦	⑤～⑦
		3	構造デザインの実践	2	佐藤 良一	D		⑥	⑤～⑦
		3	建物の振動と耐震 化	2	吉田 長行	D		⑥	⑤～⑦
		3	建物の耐力	2	宮田 雄二郎	C D		⑤	⑤～⑦
		3	建築の地盤力学	2	吉田 長行	A		⑥	⑤～⑦
		3	構造実験	2	浜田 英明	A B 集中	夏期に 開講	⑤	⑤～⑦
		3	デジタルスタジオ	3	(X) 安藤 直見 (Y) 富田 和弘	C D		⑩	⑩
		3	材料特性実験	2	(X) 鍋野 友哉 (Y) 中 太郎	B		⑦	⑤～⑦
		3	施工管理	2	三上 孝明	A B		⑧	⑧
		3	木造建築の構法	2	網野 禎昭	C D		⑥	⑤～⑦
		3	建築生産	2	梅國 章	C D		⑧	⑧
		3	建築の測量実習	3	川口 剛	A		⑩	⑩
		4	デザインスタジオ 7	3	北山恒・中川エリカ・高橋一平	A B			
		4	卒業研究 1 (建築)	2	赤松佳珠子・網野禎昭・安藤直見・岩佐 明彦・川久保俊・北山恒・下吹越武人・高 村雅彦・出口清孝・浜田英明・吉田長行・ 渡邊眞理・宮田雄二郎	A B (CD)	◎		
		4	卒業研究 2 (建築)	2	赤松佳珠子・網野禎昭・安藤直見・岩佐 明彦・川久保俊・北山恒・下吹越武人・高 村雅彦・出口清孝・浜田英明・吉田長行・ 渡邊眞理・宮田雄二郎	C D (AB)	◎		
		4	卒業設計 1	2	赤松佳珠子・網野禎昭・安藤直見・岩佐 明彦・川久保俊・北山恒・下吹越武人・高 村雅彦・出口清孝・浜田英明・吉田長行・ 渡邊眞理・宮田雄二郎	A B (CD)	◎		
		4	卒業設計 2	2	赤松佳珠子・網野禎昭・安藤直見・岩佐 明彦・川久保俊・北山恒・下吹越武人・高 村雅彦・出口清孝・浜田英明・吉田長行・ 渡邊眞理・宮田雄二郎	C D (AB)	◎		
	特別 科目	2	特別講義	2	—	休講			

※担当者は変更になる場合があります。

※指定科目の分類番号は変更になる場合があります。その際は掲示にてお知らせします。

【参考】

2009年度以降入学者が本学科を卒業後に得られる、建築士以外の受験資格は以下の表の通りである。

資格名称	受験に必要な実務経験	備考
一級建築施工管理技士	3年	
二級建築施工管理技士	1年	
建築設備士	2年	
建築構造士	4年	一級建築士登録後、建築の構造設計および構造監理業務の実務経験（業務が構造設計に限る）が4年以上で、かつ少なくとも2年間は重要なエンジニアリング業務の責任ある立場での経験を有すること

建築士資格取得について (2009 年度以降入学者用)

学校種別、建築士試験別、指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数

■大学(短期大学を除く。)、防衛大学校、職業能力開発総合大学校(長期課程又は応用課程の卒業者に限る。)、高等専門学校(本科+専攻科)、職業能力開発大学校(応用課程の卒業者に限る。)

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位	7単位
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位			
④建築設備	2単位	2単位	2単位			
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位			
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位	6単位	6単位	6単位
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位			
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位			
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
①～⑨の計(a)	30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
⑩その他(b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a)+(b)	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数	2年	3年	4年	0年	1年	2年

財団法人建築技術教育普及センター より

【重 要】

一級建築士の場合

2009 年度以降入学者の建築学科のみに適用

指定科目欄に記載されている、①～⑨の分野別単位数を充足し、かつ、①～⑨と⑩を合計した単位数が

40 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「4 年」

50 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「3 年」

60 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「2 年」

となります。上記の条件を全て満たしていないまま、卒業した場合は建築士試験の受験資格は得られませんので、十分に注意して下さい。

二級・木造建築士の場合

2009 年度以降入学者の建築学科および都市環境デザイン工学科に適用

指定科目欄に記載されている、①～⑨の分野別単位数を充足し、かつ、①～⑨と⑩を合計した単位数が

20 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「2 年」

30 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「1 年」

40 単位以上の場合、必要な実務経験年数は「0 年」

となります。上記の条件を全て満たしていないまま、卒業した場合は建築士試験の受験資格は得られませんので、十分に注意して下さい。

なお、二級・木造の場合は分野が一級に比べて、大分類化されています。

第5章 履修モデル

ここでは、「建築デザイン」、「建築・都市史」、「建築環境」、「建築構造」、「建築構法・施工」の5分野の履修モデル案を示します。ただし、別表に示したのは、最低の卒業単位の場合の例で、建築は幅広い分野の知識・素養が必要であるため、ガイダンスにしたがって履修するよう心がけてください。

5.1 建築デザイン分野

幅広い建築計画理論と美的素養を基に、建築の企画・計画の流れを把握し、建築・都市という実体にまとも上げ、デザインする能力を有する建築家・建築設計技術者を志向。

	1年				2年				3年				4年				必修等
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
外国語科目	英語1	英語2	英語3	英語4													必修 8単位
基礎科目	数学1	数学2	物理1	物理2	イタリア語・イタリア文化	中国語・中国文化	文化と文明	デザイン文化論	建築と文化	風土と建築	環境とエネルギー						
専門科目 学部科目								Design Basics in English									必修 6単位
専門科目 学科基礎科目	導入ゼミナール(建築)	建築入門	デザインスタジオ1(建築)	造形スタジオ	デザイン理論(建築)	建築計画1	建築計画2	西洋建築史	建築の空間と形態	建築論・建築造形論	都市史	近現代建築史	卒業研究1(建築)	卒業設計1	卒業設計2	卒業設計2	選択科目 28単位 以上
専門科目 学科科目			デザインスタジオ2(建築)	図形の技術	建築のしくみ	材料の力学	部材の力学	構法スタジオ	建築の力学	空間の構造デザイン	デジタルスタジオ	木造建築の構法	建築生産	建築法規(建築)			
単位数合計	41	41	41	41	41	41	41	35	11	128							

□ : 学科必修科目 □ : 資格認定推奨科目 □ : 建築デザイン分野推奨科目

* 各年次履修科目登録上限49単位以内。各科目必修のほかに、専門科目学科科目の選択科目28単位以上。卒業所要単位124単位以上。
なお、この表は系の履修推奨科目と科目間の関係を示すものであって、上記の条件を満たすための科目を表記したものではない。これ以外の科目は各自よく考えて履修登録すること。

5.2 建築・都市史分野

都市と建築の歴史を学び、それらが成立した社会的・文化的背景を把握し、それらがアーキテクトマインドといかに結びついているかという創造的な行為を通じて、都市計画家・建築家・研究者・出版家などを志向。

	1年				2年				3年				4年				必修等
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
外国語科目	英語1	英語2	英語3	英語4													必修 8単位
基礎科目	数学1	物理1	イタリア語・イタリア文化	中国語・中国文化	国際社会論	建築と文化	デザイン文化論	技術者倫理	風土と建築	フィールドワーク(建築)へ連続							必修 6単位
専門科目 学部科目					アーバンニズム	Design Basics in English											
専門科目 学科基礎科目					建築材料	骨組の力学	建築のしくみ	建築計画1	建築計画2	構法スタジオ	建築計画1	建築計画2	デザインスタジオ3	デザインスタジオ4	デザインスタジオ5	建築フォーラム	必修 30単位
	導入ゼミナール(建築)	建築入門	デザイン基礎演習	造形スタジオ	建築材料	骨組の力学	建築のしくみ	建築計画1	建築計画2	構法スタジオ	建築計画1	建築計画2	デザインスタジオ3	デザインスタジオ4	デザインスタジオ5	建築フォーラム	必修 28単位以上
専門科目 学科科目					建築材料	骨組の力学	建築のしくみ	建築計画1	建築計画2	構法スタジオ	建築計画1	建築計画2	デザインスタジオ3	デザインスタジオ4	デザインスタジオ5	建築フォーラム	必修 8単位
単位数合計	37				41				27				8				113

□ : 学科必修科目 □ : 資格認定推奨科目 □ : 建築史・都市史分野推奨科目

* 各年次履修科目登録上限49単位以内。各科目必修のほか、専門科目学科科目の選択科目28単位以上、卒業所要単位124単位以上。
なお、この表は系の履修推奨科目と科目間の関係を示すものであって、上記の条件を満たすための科目を表記したものではない。これ以外の科目は各自よく考えて履修登録すること。

5.3 環境工学・建築設備分野

環境工学・建築設備の基礎知識を基に、環境保全に配慮しながら、人の安全と快適、衛生・健康を確保するために最適な環境設備システムの選択と設計を行うことができる設備設計技術者を志向。

	1年				2年				3年				4年				必修等
	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
外国語科目	英語1	英語2	英語3	英語4													必修 8単位
基礎科目	数学1	数学2	数学演習1	数学演習2													必修 6単位
	物理1		物理2														
	イタリア語・イタリア文化		中国語・中国文化		法学(日本国憲法)	技術者倫理	環境とエネルギー	開発と国際協力									
専門科目 学際科目			デザイン文化論			風土と建築											
専門科目 学科基礎科目	導入ゼミナール(建築)				環境工学												必修 30単位
			部材の力学	骨組の力学													選択科目 28単位 以上
			材料の力学														
			建築材料														
			建築のくみ														
専門科目 学際科目			建築計画1														必修 8単位
			建築計画2														
			建築計画3														
			建築計画4														
			建築計画5														
専門科目 学際科目			建築計画6														必修 8単位
			建築計画7														
			建築計画8														
			建築計画9														
			建築計画10														
単位数合計	40				41				37				10				128

 : 学科必修科目
 : 資格認定推奨科目
 : 環境分野推奨科目

* 各年次履修科目登録上限49単位以内。各科目必修のほか、専門科目学科科目の選択科目28単位以上。卒業所要単位124単位以上。
 なお、この表は系の履修推奨科目と科目間の関係を示すものであって、上記の条件を満たすためのすべての科目を表記したものではない。これ以外の科目は各自よく考えて履修登録すること。

5.4 建築構造分野

巨大な重力に常時耐え、地震や台風など過酷な非常時にも安全堅牢な建物を科学と技術と叡智により合理的かつ美しく設計することのできる建築構造技術者・デザイナーを目指す。

1年				2年				3年				4年				必修等
A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
外国語科目																必修 8単位
英語1 → 英語2 → 英語3 → 英語4																
数学1 → 数学2 → 物理1 → 物理2																
数学演習1 → 数学演習2																
基礎科目																必修 6単位
物理1 → 物理学 → 力学 → 環境とエネルギー → 技術者倫理																
法学(日本国憲法) → イタリア語・イタリア文化 → 中国語・中国文化 → 文化と文明																
建築と文化 → サステイナブルデザイン																
専門科目 学部長科目																必修 30単位
部材の力学 → 骨組の力学 → 平面の力学 → 材料の力学																
空気調和設備 → 建築材料 → 建築のしくみ → 建築計画1 → デザインスタジオ3																
建築気候 → 構法スタジオ → 建築計画2 → デザインスタジオ4																
構造とマトリクス → 構造実験 → 材料特性実験 → 材料のデザイン → 木造建築の構法																
構造計算プログラミング → 鋼のデザイン → 建築の耐力 → 建築設計1(建築) → 建築設計2(建築)																
専門科目 学科基礎科目																専門科目 学科科目 単位以上
導入ゼミナール(建築) → 建築入門 → デザインスタジオ1(建築) → 造形スタジオ																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																
建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算 → 建築の基礎と計算																

□ : 学科必修科目 □ : 資格認定必須科目 □ : 建築構造推奨科目

* 各年次履修科目登録上限49単位以内。各科目必修のほか、専門科目学科科目の選択科目28単位以上。卒業所要単位124単位以上。
なお、この表は系の履修推奨科目と科目間の関係を示すものであって、上記の条件を満たすためのすべての科目を表記したものではない。これ以外の科目は各自よく考えて履修登録すること。

5.5 建築構法・施工分野

先端的な構法と施工技術の能力を有し、建築材料や施工管理を通して現代の社会的責任を果たすことのできる建設施工技術者・管理技術者を志向。

1年				2年				3年				4年				必修等
A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
外国語科目 英語1 → 英語2 → 英語3 → 英語4																必修 8単位
基礎科目 数学1 数学2 物理1 → 物理2 イタリア語・イタリア文化 → 文化と文明																必修 6単位
専門科目 学部科目 環境工学 → 建築と文化 → 風土と建築 → サステイナブルデザイン → 技術者倫理 → 知的財産権 → 環境とエネルギー																
専門科目 学科基礎科目 導入ゼミナール(建築) → 建築入門 → 給排水・電気設備 → 空気調和設備 → 西洋建築史 → 設備デザイン基礎 → 建築設備総合デザイン → 日本建築史 → 近現代建築史 → 木造建築の構法 → 鋼のデザイン → 鉄筋コンクリートのデザイン 材料の力学 → 骨組の力学 → 建築計画1 → 建築計画2 → デザインスタジオ3 → デザインスタジオ4 → デザインスタジオ5 → 建築法概(建築) → 建築生産																選択科目 28単位 以上
専門科目 学科科目 建築材料 → 部材の力学 → 材料の力学 → 建築計画1 → 建築計画2 → デザインスタジオ3 → デザインスタジオ4 → 構法スタジオ → 施工管理 → インターンシップ(建築)																必修 8単位
単位数合計				37				41				12				122

□ : 学科必修科目 □ : 資格認定推奨科目 □ : 構法・施工分野推奨科目

* 各年次履修科目登録上限49単位以内。各科目必修のほかに、専門科目学科科目の選択科目28単位以上。卒業所要単位124単位以上。
なお、この表は系の履修推奨科目と科目間の関係を示すものであって、上記の条件を満たすためのすべての科目を表記したものではない。これ以外の科目は各自よく考えて履修登録すること。

カリキュラムマップ

各科目が属するディプロマポリシーに○を付記しています。

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー	学位授与の方針についての目的や目標	建築家、建築技術者として社会から付託されている機能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある	修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協調的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする	建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを適切に把握し正確に分析処理することができ、結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる	企画やデザイン提案、研究や報告内容について、論理的に記述し明解に口頭説明する能力、及び他者と建設的に討議討論する能力、並びにそれをいかなる場においても発揮することのできる語学力を有する
基礎科目	外国語科目	1 英語 1						○
		1 英語 2						○
		1 英語 3						○
		1 英語 4						○
		1～4 英語 1 (補講)						○
		1～4 英語 2 (補講)						○
		1～4 英語 3 (補講)						○
		1～4 英語 4 (補講)						○
		1～4 財務会計	○					○
		1～4 マーケティング	○					
		1～4 国際社会論	○					
		1～4 エコミクス	○					
	1～4 法学 (日本国憲法)	○						
	法律系	1～4 法と現代社会	○					
		1～4 知的財産権	○					
		2～4 技術者倫理	○					
		1～4 開発と国際協力	○					
		1～4 文化と文明	○					
		1～4 認知科学	○					
		1～4 イタリア語・イタリア文化	○					○
1～4 中国語・中国文化		○					○	
工学系	1～4 環境とエネルギー	○						
	1・2 数学 1						○	
	1・2 数学 2						○	
	1・2 物理 1						○	
	1・2 物理 2						○	
	1・2 数理解習 1						○	
	1・2 数理解習 2						○	
	1～4 バイオエンジニアリング						○	
	1～4 ケミカルエンジニアリング						○	
	1・2 スポーツ総合演習	○						
	1～4 日本語 1						○	
	1～4 日本語 2						○	
1～4 日本語 3						○		
1～4 日本語 4						○		
留学生科目	1～4 日本文化論							
	1～4 日本の工業技術	○						
	1～4 一般数学						○	

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー 学位授与の方針についての目的や目標			
			建築家、建築技術者として社会から託されている職能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある	修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協同的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする	建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを適切に把握し正確に分析処理することができ、結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる	企画やデザイン提案、研究や報告内容について、論理的に記述し明解に口頭説明する能力、及び他者と建設的に討議討論する能力、並びにそれをいづかなる場においても発揮することのできる語学力を有する
学 部 科 目	1	デザイン文化論		○		
	2	建築と文化				
	2	サステイナブルデザイン		○		
	3	英語表現技術		○		○
	2	都市デザイン		○		
	2	アーバンイズム		○		
	2	風土と建築		○		
	2	デザイン史		○		
	2	福祉工学		○		
	2	地図とGIS		○		○
学 科 基 礎 科 目	2	ランドスケープデザイン				
	2	都市・地域政策		○		
	2	環境工学		○		
	2	デジタルライティング		○		○
	2	数値統計学		○		
	3	タウーマネジメント		○		
	2	マテリアルサイエンス		○		
	3	公共空間デザイン及演習		○		
	3	品質マネジメント		○		
	2	Design Basics in English				
専 門 科 目	1	導入ゼミナール（建築）		○		○
	1	建築入門		○		
	1	造形スタジオ		○		○
	1	図形の技術			○	
	1	デザイン理論（建築）		○		
	1	デザインスタジオ1（建築）		○		○
	1	デザインスタジオ2（建築）		○		○
	2	デザインスタジオ3		○		○
	2	デザインスタジオ4		○		○
	2	建築気候		○		

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー 学位授与の方針についての目的や目標				
			大学で学び得た事柄を良き社会人として人々の厚生と福利のために役立てることを倫理的な使命と考える	建築家、建築技術者として社会から付託されている職能が安全かつ健康にして美しい建築・都市環境の創造とその保全にあることを理解し、その職業的責任を果たす覚悟がある	修得した建築に関する基礎的な知識と技術を有効に活用して、様々な分野の協業関係者と相互理解を深め、協調的に取り組みながら、最良の成果を目指すことを第一義とする	建築に関わる情報技術の習熟を通じて、複雑で多岐にわたるデータを適切に把握し正確に分析処理することができ、結果を解りやすく有用な表現形式に再構築し提供できる	企画やデザイン提案、研究や報告内容について、論理的に記述し明解に口頭説明する能力、及び他者と建設的に討議討論する能力、並びにそれをいづいかなる場においても発揮することのできる語学力を有する
学 科 科 目	3	インターンシップ (建築)		○	○		○
	3	建築フォーラム		○			
	3	建築法規(建築)		○			
	3	デザインスタジオ5		○			○
	3	デザインスタジオ6		○			○
	3	建築論・建築造形論		○	○		
	3	都市計画		○			
	3	日本建築史		○			
	3	フィールドワーク (建築)		○	○		○
	3	近現代建築史		○			
	3	都市史		○			
	3	音・振動環境		○		○	
	3	光・視環境		○		○	
	3	環境生態学		○		○	
	3	設備デザイン基礎		○	○		
	3	建築設備総合デザイン		○	○		
	3	構造とマトリクス		○			
	3	構造計算プログラミング		○			
	3	空間の構造デザイン		○			
	3	鉄筋コンクリートのデザイン		○			
	3	鋼のデザイン		○			
	3	材料のデザイン		○			
	3	構造デザインの実践		○	○		
	3	建物の振動と耐震化		○			
	3	建物の耐力		○			
	3	建築の地盤力学		○			
	3	構造実験		○			
	3	デジタルスタジオ		○	○		○
	3	材料特性実験		○			
	3	施工管理		○			
	3	木造建築の構法		○			
	3	建築生産		○			
	3	建築の測量実習		○			○
	4	デザインスタジオ7		○			○
	4	卒業研究1 (建築)		○		○	○
	4	卒業研究2 (建築)		○		○	○
	4	卒業設計1		○			○
	4	卒業設計2		○			○

第6章 専任教員・研究室

教員の研究室は「別館」にあります。本館からは2階の渡り廊下で結ばれています。この別館全体は教員のアトリエですから、廊下やホールで大きな声で騒ぐようなことはつつしんでください。マナーを守れば、学習上の質問や相談など、遠慮することなく訪ねることができます。

事前に、氏名・学年・用件を各教員のメールアドレスに連絡し、面談時刻の返信を待ってください。オフィスアワーの記載がある場合は直接その時間に訪ねてください。

教員氏名	専攻：研究室／研究内容	研究室
 赤松 佳珠子 教授	建築設計・都市計画： 建築・空間デザイン研究室 建築の内外を取り巻く環境や空間（建築・都市空間）をアクティビティ（人々の活動）・時間・光・風・音・・・など、さまざまなフルイド（流動的要素）を通してとらえ、新しい時代にむけての建築空間のあり方を探求する	市ヶ谷田町校舎別館 3階 T 3007 オフィスアワー： 木曜日 12:30～13:10 ※不在の場合は以下のメールアドレスに連絡してください。 akamatsu@c-and-a.co.jp
 網野 禎昭 教授	建築構法：建築構法研究室 「自然を建築に近づけるのではなく、建築が自然に近づく」を目標に、自然素材の代表格である木材の創造的活用を模索。	市ヶ谷田町校舎別館 3階 T 3006 オフィスアワー： 金曜日 2 限 E-mail： amino@hosei.ac.jp
 安藤 直見 教授	建築計画：建築空間研究室 同時代を同じ場所に生きる人々が共有する空間概念は、建築や都市の形態を生成する要因の一つであると考えられる。そんな空間と形態の関係を研究している。	市ヶ谷田町校舎別館 3階 T 3010 オフィスアワー 火曜日 15:00～16:40 E-mail： n-ando@hosei.ac.jp
 岩佐 明彦 教授	建築計画学：建築計画学研究室 建築・都市空間の使われ方やそこで人のふるまいに着目し、場所の持つ機能や魅力を高める手法を研究・実践する。	市ヶ谷田町校舎別館 3階 T3005 オフィスアワー 木曜日 12:30～13:10 E-mail： iwasa@hosei.ac.jp

教員氏名	専攻：研究室／研究内容	研究室
 川久保 俊 准教授	建築・都市環境： 建築・都市環境研究室 サステナブルな建築・都市をめざして、環境工学、地理情報学、公衆衛生学、経済学などの様々な研究領域にまたがる分野横断的な研究をおこなっている。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3012 オフィスアワー： 火曜日 12:30～13:10 E-mail： kawakubo@hosei.ac.jp
 北山 恒 教授	建築設計・都市デザイン：次世代居住都市研究室 21 世紀は経済活動を主とする都市から混在型居住都市に移行すると考えている。それを実体化させる社会構造の研究と、それを支えるハードウェアとして都市居住地域リサイクルの研究。次世代居住都市東京の研究（Future city lab. Tokyo）の研究拠点形成。	市ヶ谷田町校舎別館 2 階 T 2011 オフィスアワー： 月曜日 15：00～16：40 E-mail： kitayama@archws.com
 下吹越 武人 教授	建築設計・都市環境デザイン：建築・都市空間研究室 建築や都市の風景に内在する人間的・文化的様相をリサーチし、空間と場の構成に関する研究・実践を行う。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3008 オフィスアワー： 木曜日 12：30～13：10 E-mail： t-shimohigoshi@hosei.ac.jp
 高村 雅彦 教授	都市史・建築史： 歴史・意匠研究室 日本の各地をはじめ、中国、タイ、ベトナム、インドネシアなど、アジアの様々な地域の都市や建築の文化と歴史に関する研究を行っている。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3001 オフィスアワー： 水曜日 AB 期 13：10～14：50 CD 期 16：50～18：30 E-mail： takamura@hosei.ac.jp
 出口 清孝 教授	建築環境： 建築環境設備研究室 建物内にいる人間の快適性を向上させ、かつ省エネルギーを実現させるための空調設備や空気・温熱環境に関する研究を行っている。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3011 オフィスアワー： 木曜日 12：30～13：30 E-mail： k-deg@hosei.ac.jp

教員氏名	専攻：研究室／研究内容	研究室
 浜田 英明 准教授	建築構造： 建築構造計画研究室 先人の知恵と最新技術を通した、理論と応用の複眼的思考により、意匠性や合理性、安全性のバランスされた包括的な構造デザイン手法の探求を行う。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3009 オフィスアワー： 2 限（10：50～12：30） 春学期：水曜日/秋学期：月曜日 E-mail： h.hamada@hosei.ac.jp
 宮田 雄二郎 専任講師	建築構造：建築構造工学研究室 主に木質構造の研究を行う。材料特性を把握し、特性を活かした接合方法を考案する。そして構造実験、構造解析による性能検証を行い、架構全体を耐震性の視点からデザインする。 また木質材料と鉄骨、鉄筋コンクリートとのハイブリッド構造の有効性を研究する。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T3002 オフィスアワー： 月曜日 12：30～13：10 E-mail： miyata@exstructure.com
 吉田 長行 教授	建築構造： 建築構造解析研究室 建築構造設計において未解決な問題または未開拓の分野に関して、数値解析の立場から理論的に取り組んでいる。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3004 オフィスアワー： 金曜日 12：35～13：05 E-mail： nyoshida@hosei.ac.jp
 渡邊 眞理 教授	建築設計・アーバンデザイン： 建築・都市設計研究室 新しい家族形態に適合する集合住宅のプロトタイプおよび 21 世紀の美術館の条件などについて研究中。	市ヶ谷田町校舎別館 3 階 T 3003 オフィスアワー： 火曜日 12：30～13：10 E-mail：msw@hosei.ac.jp

(Photographs: Hiroshi Aoki)

<兼任教員>

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付ける。

第7章 卒業の審査基準等について

a. 審査対象の条件として、以下の条件を満たしていること。

○卒業研究

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
- (B) 定められた図書様式に従っていること。（体裁：製本されたものであること。サイズ：A4）
- (C) 論文の形式（研究の目的、方法、結論または考察、参考文献）を有すること。
- (D) 建築研究相当の努力を認めえるものであること。

○卒業設計

- (A) 定められた期限内に提出されたものであること。
- (B) 定められた図書形式に従っていること。（用紙サイズ：A1）
- (C) 設計図（設計用紙、設計図、透視図または模型写真など）としての形式を有すること。
- (D) 卒業設計相当の努力を認めるものであること。

但し、あらかじめ指導教授が特別の判断を行った場合は上記（B）、（C）の条件を変更することがある。

b. 前記の条件を満たしているものについて、以下の視点から、総合的に評価する。

○卒業研究

- (A) 独創性、問題意識、テーマの理解度
- (B) 分析力、総合力
- (C) 成果の把握
- (D) 努力の集積度

○卒業設計

- (A) 独創性、問題意識、計画能力
- (B) 分析力、総合力、造形及び表現能力
- (C) 構造、環境面の把握
- (D) 努力の集積度

第三部 都市環境デザイン工学科

デザイン工学部

都市環境デザイン工学科

1. 教育目標と3つのポリシー
2. 学科紹介
 - 2.1 都市環境デザイン工学科で何を学び、何をを目指すのか？
 - 2.2 都市環境デザイン工学科の教育理念
 - 2.3 JABEEとは
3. 配当表【2015年度以降入学者】
4. カリキュラム構成と履修
 - 4.1 都市環境デザイン工学の専門分野
 - 4.2 カリキュラムの構成
 - 4.3 履修の流れ
5. 資格取得
6. 大学院進学について
7. 達成度自己評価システムについて
8. 各教員・研究室の紹介
 - 8.1 都市プランニング系
 - 8.2 環境システム系
 - 8.3 施設デザイン系
9. 各教員のオフィスアワー

第1章 教育目標と3つのポリシー

教育目標

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養を備えた技術者を育成する。

A. 歴史・文化の尊重と自然との共生：

地球的視点に立って、地域の歴史・文化を尊重する人格を形成し、自然環境と共生する社会基盤システムの整備に貢献できる思考能力、分析力、応用能力

B. 技術者倫理：

科学技術がもたらすマイナス面を理解した上で、災害や自然環境への適切な対処によって公共の安全・健康・福利に寄与する素養

C. 工学基礎学力：

社会基盤システムの整備に不可欠な数学、自然科学、情報科学に関する基礎的な能力

D. 専門基礎学力：

社会基盤システムを計画・設計・施工・維持管理・評価する上で必要な材料工学、構造工学、地盤工学、水工水理学、計画学などの専門基礎学力

E. 専門知識の活用・応用能力：

工学基礎学力と専門基礎学力をもとに、都市プランニング、環境システム、施設デザインに区分したより高度な専門知識を学び、また実験・実習や卒業研究を通して、理論と実際の相違を考察・評価する能力と手法を習得し、それらを実際問題に活用・応用できる能力

F. 総合デザイン能力：

工学基礎学力・専門基礎学力・専門知識の活用・応用能力などをもとに、持続可能な社会基盤システムの計画・建設・維持管理に係る諸問題を解決するためのデザイン能力

G. コミュニケーション能力：

自己の考えを論理的、客観的にまとめて記述するとともに適切な発表や討論を行う能力と、英語を中心とした基礎的な国際コミュニケーション能力

H. 継続的学習能力：

目的意識を持って自己の能力向上を継続的・積極的に進める意欲と、それを計画的に実行する能力

I. 業務遂行能力：

さまざまな制約条件を正確に分析・理解した上で、他者と協力して計画的に業務を遂行する能力

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. 地球的視点の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能社会に必要な基盤システムの整備と維持管理を担うことができる。
2. 科学技術の光と影を的確に見極め、人類の幸福を実現するための公益に資する技術を社会へ提供できる。
3. 技術者としての公平性・誠実性・不偏的態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・

育成することができる。

4. 技術者としての使命を果たす上で必要な教養と専門知識を備え、それらを活用・応用することにより様々な制約条件下で困難な課題を解決することができる。
5. 地域・国際社会との対話・協調・協働に必要なコミュニケーション能力を有し、技術者としての説明責任を果たすことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施に関する方針）

一般教養，語学などから基礎・専門に至るまでの都市環境デザイン工学の知識と技術を体系化したカリキュラムとしている。

1. 開講科目の体系

- ① 外国語科目：英語
- ② 基盤科目：法律系，経営系，人文系，工学系，保健体育，留学生科目
- ③ 専門科目：
 - (i) 学部科目
 - (ii) 学科基礎科目
 - (iii) 学科科目
 - (iv) 特別科目

2. 三つの専門科目系と目標

(ii)学科基礎科目と(iii) 学科科目に関しては三つの専門科目系が以下のように設定されており，それぞれの目標に向かって学修する。

- I. 都市プランニング系：持続可能で美しい都市や国土を実現するために，都市機能・環境・景観・歴史文化等の多様な観点に関する分析・計画・デザインについての知識と技術を修得する
- II. 環境システム系：自然との共生と災害の軽減・緩和を果たす環境システムを創り維持するための基礎学理と先端技術を修得する。
- III. 施設デザイン系：安全で機能性の高い構造物をデザインし，維持・活用するための知識と技術を修得する。

3. 科目体系が備える特徴・教育効果

- ・初学年に配置された導入教育科目を通して専門科目への円滑な移行が可能である。
- ・地域・国際社会で活動する技術者となるために，外国語・基盤科目・学科基礎科目の受講を通して人文・社会・自然科学に関する基礎知識，外国語能力，技術者倫理などを修得できる。
- ・基礎から専門科目に至る学術・技術体系の階層性，専門科目間の相関構造を正しく理解し，総合デザイン能力着実に醸成されるように，授業科目が体系化されている。
- ・実習・演習・スタジオ系科目においては知識体系の実質化・実装性を体験でき，充実したアクティブ・ラーニング授業が進められている。
- ・学部科目の履修によりデザイン工学全般にわたる最新技術情報を修得し，総合デザイン能力を確実に習得できる。
- ・クラス担任制度を導入し，各自が備えた資質・個性の多様性を活かした少人数授業を受講できる。

- ・達成度自己評価システムによって、各学年・就学段階における学習目標達成度，GPA，技術者資格要件の充足状況などを学生自身が自主管理し，必要に応じて担任教員の支援を受けながら効果的にディプロマ・ポリシーを実現できる。

アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

都市環境デザイン工学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

- 1．法政大学の歴史・伝統と大学憲章に対して十分な理解を備えている。
- 2．地球的視点の下に，自然を愛し人類の幸福に貢献する意欲を備えているとともに，公平・誠実で不偏の態度を保持できる。
- 3．自然界や社会基盤施設における諸現象を理解・分析するために必要な自然科学の基礎知識と分析能力を習得する意欲がある。
- 4．地球環境の変化ならびにグローバル社会の多様性・地域性を理解し，様々な制約条件下で技術的課題を解決するための思考力・判断力を備える意欲がある。
- 5．特定分野に限らず人文・社会科学を含めて広範な科学分野に興味を持ち，それらの知識を習得する意欲がある。
- 6．様々な地域社会や個人に対し技術者としての説明責任を果たすだけの潜在的表現能力を有している。

第2章 学科紹介

1. 都市環境デザイン工学科で何を学び、何をを目指すのか？

デザイン工学部都市環境デザイン工学科は工学部の同名学科を改組・再編して設立された学科ですが、さらにその前身は2003年まで設置されていた工学部土木工学科へとさかのぼります。土木工学という分野名の起源は、中国の「淮南子（えなんじ）」という本の中の「築土構木」にあります。これは、「君子は人民のために基礎を作って家を立てる」という意味です。また、土木工学の英文名は「Civil Engineering」です。「Military Engineering」に対立する言葉で、軍事ではなく「民生のための施設構造物などの計画・設計・建設のための工学」です。欧米では、意匠・デザイン系を除けば都市計画はもとよりビルなどの計画・設計・施工も「Civil Engineering」の範疇です。

ただし、わが国ではすでに社会の基盤整備が相当に進み、土木工学の分野においても、自然との共生など環境システムとの調和が重視されたため、社会から要求される技術者としての資質が大きく変化しました。このような背景を踏まえ、これからの時代を担う技術者を育成するという方針で学部・学科のカリキュラムが編成されています。したがって、従来型の構造物の建設を中心とした「ものづくり」の能力という枠組みを越え、広い視野と豊かな感性・創造力を育むことを学科の目標としています。

本学科の具体的な学習・教育到達目標は、「都市や国土の成り立ちを理解し、必要とされる社会基盤(構造物などを含む)を設計・施工・整備・維持管理する手法を習得し、わたしたちの生活を守るための防災技術ならびに自然との調和を図りながら環境を保全・再生する知恵をもつ技術者を育成すること」という表現でまとめられます。これを表すキーワードは、「都市プランニング」、「環境システム」、「施設デザイン」です。本学科では、これらを系と称して科目群を組み立てています。この3つのキーワードは「都市環境デザイン工学科」という学科名称の由来にもなっています。本学科が目指すところは「欧米系の Civil Engineering」+「環境保全・防災工学」といってもよいかもしれません。ちなみに、学科の英文名称は「Civil and Environmental Engineering」です。

都市環境デザイン工学科では、社会に通用する「知識と見識」、ならびに社会の一員としての「コミュニケーション能力」を身につけることを学習・教育の大きな目標としています。身につけるべき知識の水準を具体的に言えば、卒業時に国家公務員一般職試験や地方公務員試験に合格できる程度の実力に相当します。

本学科の学習・教育プログラムは、後節に述べる JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けています。本学科の卒業生は卒業後、申請により「技術士補」という国家資格を取得でき、4年後には「技術士」の受験資格を取得できます。実際のプロジェクトではその技術責任者が技術士でなければならず、「コンサルタント」業を開業するためには技術士の資格が必要など、技術者にとって大変重要な資格です。ぜひ技術士を目指すことを薦めます。その他にも、後に掲げるようにいろいろな技術者資格を取得できる可能性があります。資格は、その人の能力を測るひとつの尺度です。身に付けた能力を社会へ示すためにも、いろいろな資格にチャレンジしてください。

2. 都市環境デザイン工学科の教育理念

社会基盤の整備には、地球規模の環境保全、自然環境と共生できる都市づくり、循環型社会の構築など、多面的な課題への対応が求められています。したがって、私たち技術者は、社会基盤の整備が人々の生活の安全性・利便性や経済活動の活性化に果たすプラスの役割と、自然環境を損なうようなマイナスの作用を的確に把握し、工学的な

判断をする必要があります。

本学科は、法政大学の校風である「自由と進歩」「進取の気象」を踏まえ、グローバルな視点に立ったデザイン工学教育を行うことにより、専門技術を活かし問題を解決する能力を身に付け、社会との対話と説明責任の遂行が可能な人材の育成を目指します。

3. ^{ジャビー}JABEEとは

日本工学教育協会と日本工学会は、大学および文部科学省、経済産業省、経団連などの強い期待と協力の下で、国際的に通用する技術者を教育するための方策について検討し、1999 年に日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board for Engineering Education : JABEE）を設立しました。

JABEE は、大学を中心とする工学系の高等教育機関で実施されている教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを第三者の立場から公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する非政府団体です。認定の目的は、我々国の技術者教育の質を高めてその国際的互換性を確保し、社会と産業の発展に貢献することです。言い換えれば、日本の大学等で学ぶ工学系学生の資質を欧米諸国の学生と同等の水準以上に保つことが目的です。もちろん、これは単なる認定ではなく、認定された教育プログラムを修了した学生に、最高の国家資格である「技術士」の受験条件に大きな優遇措置が付与されるなど、技術者にとっての様々な付加価値を生み出す仕組みでもあります。

JABEE の認定を受けるための審査範囲は、入試段階から卒業判定までの全ての学修過程に及び、目標達成に必要な学習・教育が質的に確保されているか、学生一人一人の学習効果等を確認する仕組みが整備され、かつ定められた基準を満足しているか等々が厳密に審査されることになります。これらの審査は JABEE によって訓練された複数の専門審査員によって大学機関はもちろん、教員と学生それぞれに対する個別面談、授業現場の視察等によって行われます。

第3章 配当表【2015年度以降入学者用】

【各資格の受験資格取得についての注意事項】

以下の資格の受験資格を取得するには、それぞれ所定の科目を履修する必要があります。それらを履修せずに卒業した場合は受験資格が得られませんので、細心の注意をもって確認してください。

1. 建築士（二級・木造）受験資格：「建築士資格取得について(2009 年度以降入学者用)」以下の表の「二級・木造建築士試験」の欄に示す条件を充足するよう履修すること。なお、同表は国土交通省が作成したものであり、「指定科目」「①～⑩」として記載されている科目名は本学科の科目名とは異なっている。本学科のどの科目が「①～⑩」に該当するかについては、下表の指定科目（二建）の欄を参照すること。
2. 土木施工管理技士受験資格：下表の指定科目（その他）の欄に「施」の印がある科目を4単位以上履修すること。
3. 測量士・測量士補受験資格：下表の指定科目（その他）の欄に「測」の印がある科目を履修すること。

「測量学演習」（2単位）を含めて7単位以上。

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考	指定科目	
									(二建) (分類番号)	その他
外国語科目	1	英語 1	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	A	◎				
	1	英語 2	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	B	◎				
	1	英語 3	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	C	◎				
	1	英語 4	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	D	◎				
	1～4	英語 1（補講）	2	神田 文恵（月） 名取 みゆき（木）	A	(◎)		再履修者用		

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考	指定科目	
									(二建) (分類番号)	その他
外国語科目	1～4	英語 2 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	B	(◎)		再履修者用		
	1～4	英語 3 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	C	(◎)		再履修者用		
	1～4	英語 4 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	D	(◎)		再履修者用		
基盤科目	経営系	1～4	財務会計	2	境 新一	A B				
		1～4	マーケティング	2	林 奈生子	C D				
		1～4	国際社会論	2	藤本 正徳	A B				
		1～4	エコノミクス	2	多部田 直樹	A B				
	法律系	1～4	法学 (日本国憲法)	2	松原 文雄	A B				
		1～4	法と現代社会	2	松原 文雄	C D				
		1～4	知的財産権	2	宮武 久佳	A B				
		2～4	技術者倫理	2	佐々木 寿朗	A B	◎		⑩	
		1～4	開発と国際協力	2	西宮 宜昭・小野澤 雅人・浅川 英理子 (都市・SD)	C D				
		1～4	文化と文明	2	小林 信也	C D				
	人文系	1～4	認知科学	2	加藤 千恵子 (都市・SD)	C D				
		1～4	イタリア語・イタリア文化	2	京藤 好男 (都市)	A B				
		1～4	中国語・中国文化	2	包 慕萍 (都市)	C D				
		1～4	環境とエネルギー	2	横山 隆壽 (都市)	A B				
		1	数学 1	2	(X) 鈴木 善晴 (Y) 勝野 恵子	A B	◎	セット履修		
	工学系	1	数理演習 1	1	(X) 鈴木 善晴 (Y) 勝野 恵子	A B	◎			
		1	数学 2	2	(X) 勝野 恵子 (Y) 鈴木 善晴	C D	◎	セット履修		
		1	数理演習 2	1	(X) 勝野 恵子 (Y) 鈴木 善晴	C D	◎			
		1	物理 1	2	(X) 内田 大介 (Y) 藤山 知加子	A B	◎	セット履修		
		1	物理演習	1	(X) 内田 大介 (Y) 藤山 知加子	A B	◎			
		1	物理 2	2	工藤 聡・須田 知孝	C				
		1	バイオエンジニアリング	2	小林 卓也 (都市)	A B				
		1	ケミカルエンジニアリング	2	大山 聖一 (都市)	C D				
		1	工業力学及演習	3	(X) 藤山 知加子 (Y) 内田 大介	C D	◎		⑤～⑦	
		1	図学及演習	3	高見公雄・福井恒明・今井裕久・山田裕貴	A B			⑩	施
		1	ジオロジカルエンジニアリング	2	山本 浩之	C D				施
		1	プログラミング及演習	3	鈴木 善晴	C D	◎			
		2	確率・統計	2	勝野 恵子	C D				
		2	数値計算法	2	酒井 久和	A B				
	保体 健育	1・2	スポーツ総合演習	2	西村 一帆 西村 一帆	A B C D				

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考	指定科目	
									(二建) (分類番号)	その他
基盤科目	留学生科目	1～4	日本語 1	1 中沢 佐企子	A					
		1～4	日本語 2	1 中沢 佐企子	B					
		1～4	日本語 3	1 中沢 佐企子	C					
		1～4	日本語 4	1 中沢 佐企子	D					
		1～4	日本文化論	2 井波 真弓	A B					
		1～4	日本の工業技術	2 田村 広子	A B					
		1～4	一般数学	2 勝野 恵子	A B					
専門科目	学部科目	1	デザイン文化論	2 辻村 亮子	A B					
		2	建築と文化	2 石樽 督和	A B				②～④	
		2	サステナブルデザイン	2 出口 清孝	D					
		3	英語表現技術	2 Duncan Baker	C					
		2	都市デザイン	2 高見 公雄	D				⑩	
		2	アーバンイズム	2 渡邊 眞理	A B					
		2	風土と建築	2 高村 雅彦	C D				②～④	
		2	デザイン史	2 有元 正存	C D					
		2	福祉工学	2 山下 紘正	C D					
		2	地図とGIS	2 宮下 清栄・丸山 智康・石田 恵一	B					測・施
		2	ランドスケープデザイン	2 小木曽 裕	A B				⑩	
		2	都市・地域政策	2 土屋 愛白	A					
		2	環境工学	2 出口 清孝	A B					
		2	テクニカルライティング	2 (X) 大友 敬三 (Y) 浅川 英理子	C D					
		2	数理統計学	2 牧野 倫子	A B					測
		3	タウンマネジメント	2 宮下清栄・藤澤浩子・長野浩子・土屋愛白	C				②～④	
		2	マテリアルサイエンス	2 岩瀬 扶佐子	A B					施
		3	公共空間デザイン及演習	3 高見公雄・佐藤康三・下吹越武人・杉浦榮・伊藤登	C D				⑩	
		3	品質マネジメント	2 池庄司 雅臣	C D					施
		2	Design Basics in English	2 ポリヴァン・ディン	C D				②～④	
	学科基礎科目	1	導入ゼミナール（都市）	1 藤山知加子・内田大介・酒井久和・鈴木善晴・福井恒明・溝渕利明・道奥康治・宮下清栄・渡邊竜一	A	◎				
		1	デザインスタジオ 1（都市）	3 高見公雄・袴田喜夫・古暮和歌子・丸山智康・竹内豪	C D				⑩	
		1	国土・地域概論	2 高見 公雄・堀川 洋子	D	◎			⑩	
		2	測量学	2 宮下 清栄	A	◎				
		2	測量実習	1 (X) 宮下 清栄 (Y) 渡辺 一博	B	◎			⑩	
		2	測量学演習	2 (X) 宮下 清栄 (Y) 望月 貴一郎	C					測・施
		2	都市計画法と政策	2 福井 恒明	C	◎			⑩	
		2	建設材料学基礎	2 溝渕 利明	A				⑤～⑦	施
		2	構造力学 1 及演習	3 (X) 内田 大介 (Y) 藤山 知加子	A B	◎			⑤～⑦	
		2	コンクリート工学	2 横関 康祐	B	◎			⑤～⑦	

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考	指定科目	
									(二建) (分類番号)	その他
専門科目	学科基礎科目	2	構造力学 2	2 小林 潔	C				⑤～⑦	測・施
		2	鋼構造デザイン	2 (X) 内田 大介 (Y) 森 猛	C	◎			⑤～⑦	
		2	RC 構造デザイン	2 (X) 藤山 知加子 (Y) 山野辺 慎一	C	◎			⑤～⑦	
		2	橋のデザイン	2 渡邊 竜一・末松 慎介	D					
		2	コンクリート技術	2 溝渕 利明	D				⑧	施
		2	PC 構造デザイン	2 酒井 秀昭	D				⑤～⑦	
		2	河川環境工学	2 (X) 内山 雄介 (Y) 道奥 康治	A	◎				
		2	地盤力学及演習	3 (X) 酒井 久和 (Y) 澤田 俊一	A B	◎				
		2	水文気象学	2 鈴木 善晴	B					測・施
		2	地盤と環境 1	2 酒井 久和	C D	◎				
		2	水理学 1 及演習	3 (X) 道奥 康治 (Y) 鈴木 善晴	C D	◎				
		2	工業英語	2 (X) 岡部 義信 (Y) 浅川 英理子	C D	◎				
	学科科目	3	デザインスタジオ 2 (都市)	3 高見公雄・福井恒明・稲葉唯史・袴田喜夫・椿真吾・	A B	◎			①	
		3	都市調査解析	2 宮下 清栄	A B	◎				
		3	交通計画	2 宮下 清栄・土屋 愛白	A					測
		3	街づくり	2 渡邊 竜一	C				②～④	
		3	上下水道システム	2 島田 裕康	C					測
		3	建築設計基礎	3 高見 公雄・今井 裕久・瀬戸 健似	C D				①	
		3	計画の可視化	2 福井 恒明	D					
		3	建築法規 (都市)	2 飯田 直彦	A				⑨	施
		3	工学実験 1	1 溝渕利明・藤山知加子・岩田雷太・森猛・内田大介・大川裕	A	◎				
		3	鋼構造デザイン実習	1 鈴木 泰之・平山 繁幸	A B		○	1 単位以上	⑤～⑦	
		3	RC 構造デザイン実習	1 溝渕利明・藤山知加子・伊東賢・大淵智弘	A B		○		⑤～⑦	施
		3	有限要素法基礎	2 野上 邦栄	C					測・施
		3	アセットマネジメント	2 藤原 博	C					施
		3	検査技術	2 溝渕利明・新井淳一・野嶋潤一郎・菅沼久忠・小野秀一	D				⑧	
		3	プロジェクトマネジメント (都市)	2 田中 努	B					施
		3	水理学 2	2 道奥 康治	A					測・施
		3	流域水文学	2 鈴木 善晴	D					測・施
		3	地盤と環境 2	2 酒井 久和	A B					測・施
		3	水資源工学	2 五十嵐 崇博	B					測・施
		3	工学実験 2	1 酒井久和・鈴木弘明・鈴木善晴・道奥康治・池田勇司	B	◎				
		3	環境法規	2 弘末 文紀	C					施
		3	水圏環境学	2 道奥 康治	C					
		3	環境アセスメント	2 中林 純	D					
		3	海洋環境工学	2 越川 海・東 博紀	D					
		3	工業英語実習	1 浅川 英理子	A B					
		3	総合演習	1 藤山知加子・宮下清栄・福井恒明・鈴木善晴・酒井久和・道奥康治・内田大介	C					測・施

区分		学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考	指定科目	
										(二建) (分類番号)	その他
専門科目	学科科目	3	ゼミナール	1	藤山知加子・内田大介・酒井久和・鈴木善晴・ 高見公雄・福井恒明・溝渕利明・道奥康治・ 宮下清栄・渡邊竜一	C D	◎		3 年次に 必ず修得		
		3	インターンシップ（都市）	2	宮下 清栄・福井 恒明	C D 集中					
		3	耐震工学	2	西山 誠治	D					測・施
		3	メンテナンス工学	2	溝渕 利明・藤原 博	A					施
		4	卒業研究 1（都市）	2	内田大介・酒井久和・鈴木善晴・高見公 雄・福井恒明・藤山知加子・溝渕利明・道 奥康治・宮下清栄・渡邊竜一	A B (C D)	◎				
		4	卒業研究 2（都市）	4	内田大介・酒井久和・鈴木善晴・高見公 雄・福井恒明・藤山知加子・溝渕利明・道 奥康治・宮下清栄・渡邊竜一	C D (A B)	◎				
	特別科目		特別講義			休講					

※担当者は変更になる場合があります。

※指定科目の分類等は変更になる場合があります。その際は掲示にてお知らせします。

建築士資格取得について (2009年度以降入学者用)

学校種別、建築士試験別、指定科目に係る必要単位数と必要な建築実務の経験年数

■大学(短期大学を除く。)、防衛大学校、職業能力開発総合大学校(長期課程又は応用課程の卒業者に限る。)、高等専門学校(本科+専攻科)、職業能力開発大学校(応用課程の卒業者に限る。)

指定科目	一級建築士試験			二級・木造建築士試験		
①建築設計製図	7単位	7単位	7単位	5単位	5単位	5単位
②建築計画	7単位	7単位	7単位			
③建築環境工学	2単位	2単位	2単位	7単位	7単位	7単位
④建築設備	2単位	2単位	2単位			
⑤構造力学	4単位	4単位	4単位	6単位	6単位	6単位
⑥建築一般構造	3単位	3単位	3単位			
⑦建築材料	2単位	2単位	2単位			
⑧建築生産	2単位	2単位	2単位	1単位	1単位	1単位
⑨建築法規	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位	1単位
①～⑨の計(a)	30単位	30単位	30単位	20単位	20単位	20単位
⑩その他(b)	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
(a)+(b)	60単位	50単位	40単位	40単位	30単位	20単位
必要な実務経験年数	2年	3年	4年	0年	1年	2年

財団法人建築技術教育普及センター より

【重 要】

二級・木造建築士の場合

2009年度以降入学者の建築学科および都市環境デザイン工学科に適用

指定科目欄に記載されている、①～⑨の分野別単位を充足し、かつ、①～⑨と⑩を合計した単位数が

20単位以上の場合、必要な実務経験年数は「2年」

30単位以上の場合、必要な実務経験年数は「1年」

40単位以上の場合、必要な実務経験年数は「0年」

となります。上記の条件を全て満たしていないまま、卒業した場合は建築士試験の受験資格は得られませんので、十分に注意して下さい。

なお、二級・木造の場合は分野が一級に比べて、大分類化されています。

第4章 カリキュラム構成と履修

1. 都市環境デザイン工学の専門分野

都市環境デザイン工学は、人間が社会生活を営む上で基盤となる施設の計画・設計・施工・管理や環境システムの保全・修復に関する学問体系です。本学科の教育分野は、地域計画、都市計画などの交通や土地利用を含めた整合性ある計画・整序を中心とする分野、河川、海岸などの水工水理設計と防災、環境保全や水資源に関する分野、および、橋梁、ダム、大型地下空洞、道路などに代表される構造物の設計・施工・維持管理を中心とする分野、に大別されます。

建設事業は人間の歴史とともに歩み、その技術体系である土木・建設技術（シビルエンジニアリング）は伝統的な技術に先端科学の研究成果を積み重ねて発展してきました。みなさんは、卒業後、建設・環境分野の技術者として仕事に従事し、豊かで住みよい社会を築くために基盤システムの計画、設計、施工や自然環境の再生へと貢献することになります。すなわち、社会基盤の整備を担うわけですが、仕事の内容は自然条件のみならず社会条件によっても左右されます。開発優先から環境との調和への転換や、発展途上国に対する技術支援を含めた国際協力要請の高まりなどはその例といえます。都市環境デザイン工学を修めた技術者は、社会基盤整備を進める上で、そのプロジェクトが人々の生活の利便性や経済活動の活性化に果たすプラスの役割と、一方で自然環境を損なうマイナスの作用を客観的に理解し、技術者倫理を遵守しながら行動する必要があります。

本学における都市環境デザイン工学では、以下の3つの系（都市プランニング系・環境システム系・施設デザイン系）により総合デザイン工学に関する教育と研究を行います。都市プランニング系は主として地域・都市計画学分野、環境システム系は主として水工学・地盤工学・環境工学分野、施設デザイン系は主として構造工学・建設材料工学分野をそれぞれ所掌しています。

I 都市プランニング系

- ☐「環境共生都市の構築を目指して」（空間分析研究室）
- ☐「美しく、ふさわしいまちづくり」（都市デザイン研究室）
- ☐「都市戦略として景観を考える」（景観研究室）
- ☐「構造および橋梁デザイン、コミュニケーションデザイン」（構造デザイン・コミュニケーション研究室）

II 環境システム系

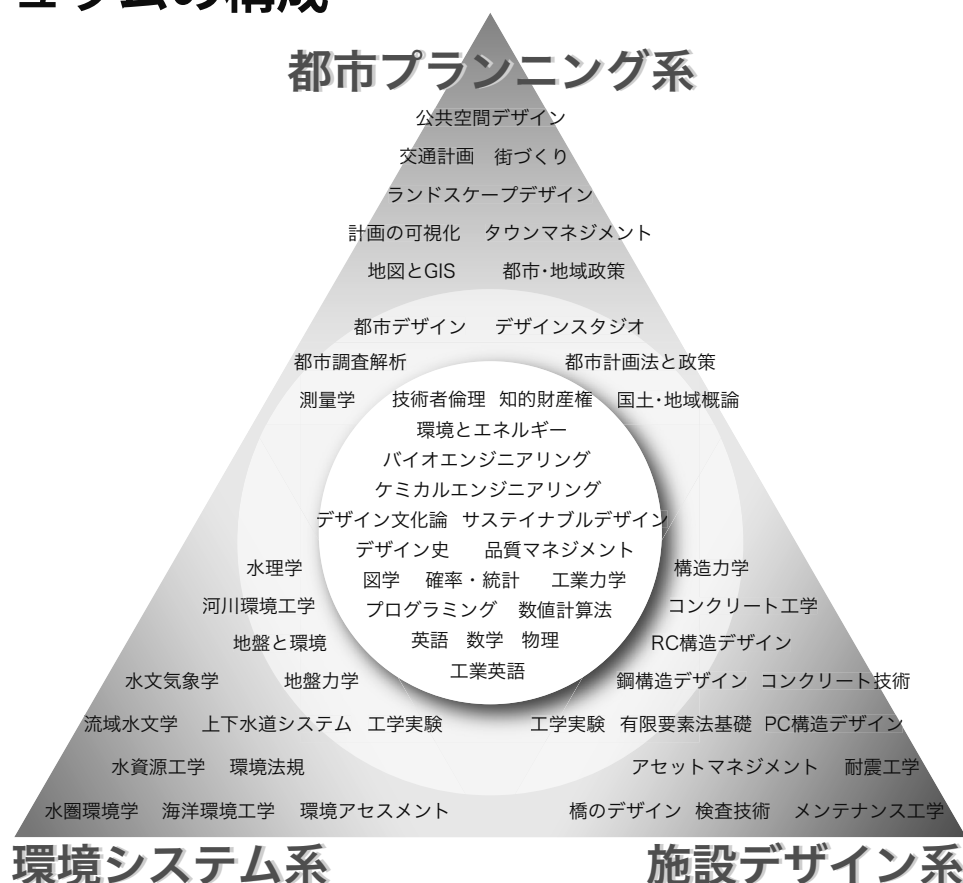
- ☐「自然共生を実現するための持続的な川づくりと流域管理の戦略」（陸水域環境研究室）
- ☐「地震被害の軽減を目指して」（地震防災研究室）
- ☐「環境問題の解決や気象災害の軽減を目指して」（水文気象環境研究室）

III 施設デザイン系

- ☐「コンクリートの一生を考える」（コンクリート材料研究室）
- ☐「土木構造物を支える基礎技術の開拓」（複合構造研究室）
- ☐「安全な橋を作り守る」（鋼構造研究室）

なお、これらの学術基盤体系に加えて、系間の境界領域、他分野で開発された新技術の応用、自然・社会環境の解析・評価など、都市環境デザイン工学が取り扱う範囲は拡大しつつあります。

カリキュラムの構成



卒業後の職能像 — デザインマインドを持つ技術者

エンジニア

最先端の技術を駆使して河川・道路・鉄道などの公共施設や都市空間の計画・設計・施工を支えます。自然環境の保全、災害対策、構造物の長寿命化への社会的要請が高まっています。それを担うのがシビルエンジニアです。

プランナー

自然環境や歴史、景観を生かしながら地域のあり方を構想し、実現に向けた計画をつくります。地方都市の再生、人口減少社会におけるコミュニティの維持、高齢化社会における交通計画など、プランナーの仕事はますます重要になっています。

テクノクラート

都市計画や公共空間の整備・改善に携わる技術系公務員は、人々の暮らしを支える都市環境を守る責任者ともいえます。大都市機能の再構築、郊外の住環境保全、地方都市の活性化など、その役割は多岐にわたります。

2. カリキュラムの構成

2015 年度入学生から、カリキュラムを一部改定しました。これまで実施してきた教育プログラムの成果を踏まえ、一層の教育内容の充実を期して科目の構成などを見直したカリキュラムです。第 2 章の「配当表」に示される科目は、外国語科目、基盤科目、専門科目に区分されています。

外国語科目は英語 1 から 4 で、すべて必修となっています。

基盤科目はさらに 5 つの系に区分されています。都市環境デザイン工学科では、当然のことながら、工学系の必修科目が多く準備されています。また、「数学 1 と数理演習 1」、「数学 2 と数理演習 2」、「物理と物理演習」はそれぞれ組みで履修しなくてはならないので（セット履修）、くれぐれも注意してください。

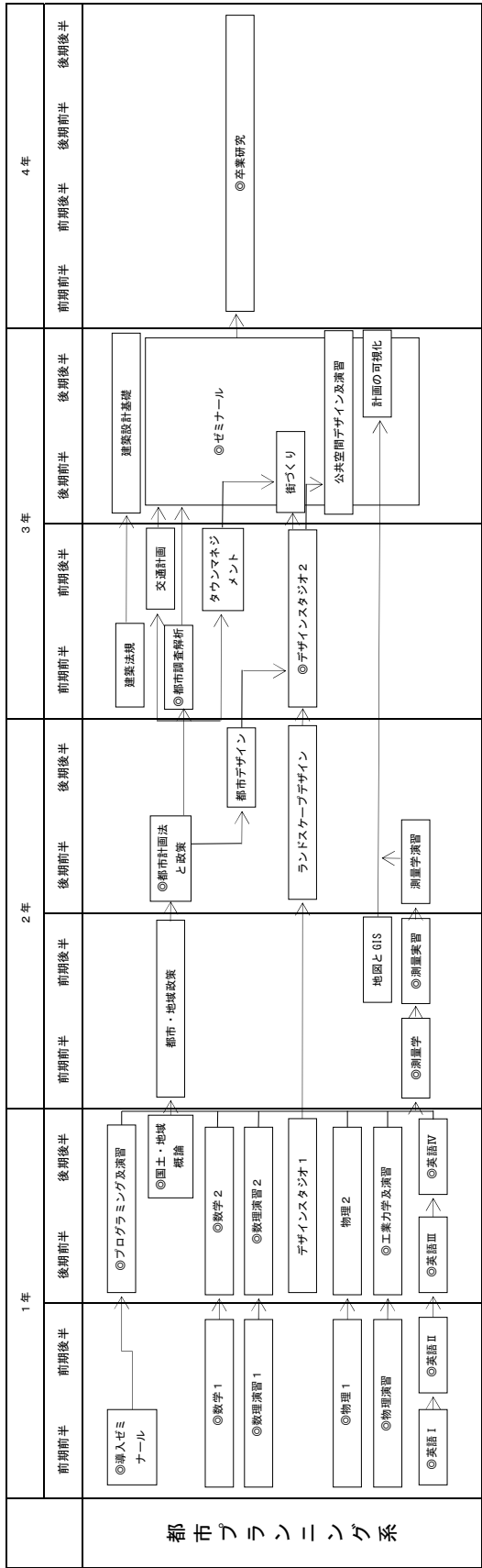
専門科目は、学部科目、学科基礎科目、学科科目から構成されています。学部科目は都市環境デザイン工学科の他、建築学科、システムデザイン学科のデザイン工学部 3 学科の学生が共通に履修できる科目です。これに対し、学科基礎科目、学科科目は都市環境デザイン工学科の学生のみが履修できる科目です。主に 1 ～ 2 年次に履修する学科基礎科目、主に 3 ～ 4 年次に履修する学科科目に別れています。

これら専門科目は、都市環境デザイン工学科の 3 つの系ごとに望ましい履修の順序・組み合わせが考えられています。また、それぞれの系には必修科目、選択科目、選択必修科目が定められています。いうまでもなく必修科目はその全ての単位を取得しないと卒業できません。こうしたカリキュラムの構成と流れをよく理解し、進級や卒業に必要な取得単位数や必修科目の配置などを良く考えて、1 年から 4 年までの履修の計画を各自で立てるようにしてください。

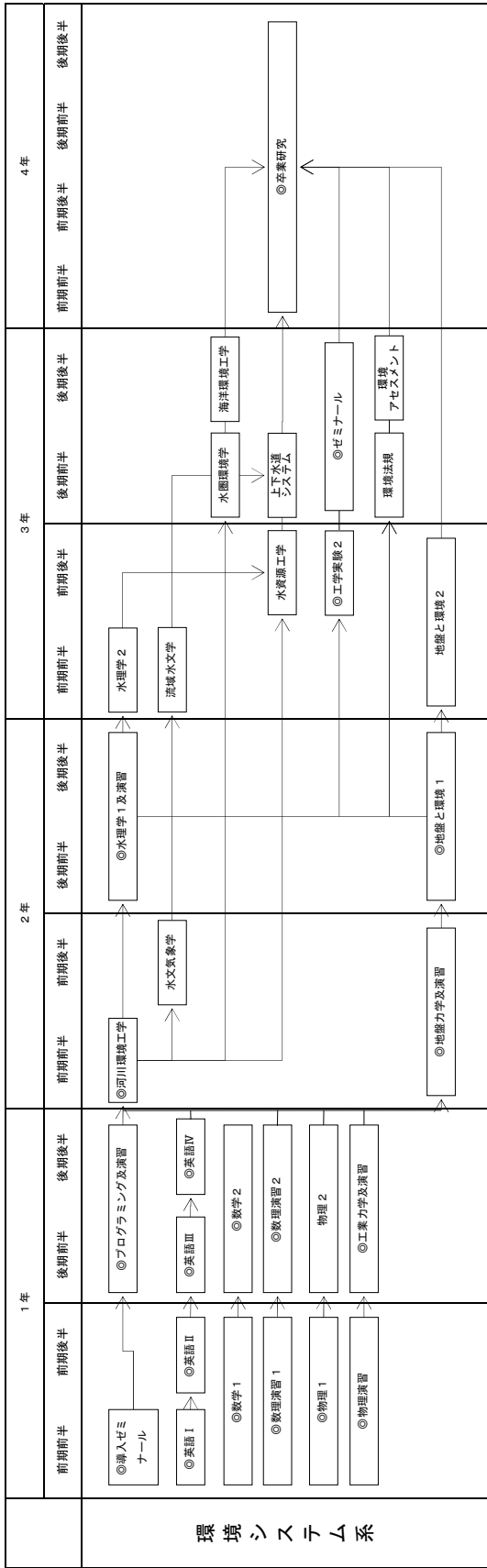
3. 履修の流れ

この履修の計画を考える際に参考とするべきものが、次ページ以降に示される履修の流れです。都市環境デザイン工学科の 3 つの系ごとにその流れが整理されています。進級・卒業に必要な単位数、また、みなさんが予習・復習を含めて履修が可能な授業数は限られますので、専門科目全てを履修することは困難です。自らの将来を考え、効率よく、また流れに沿って科目を選択し履修するように努めてください。

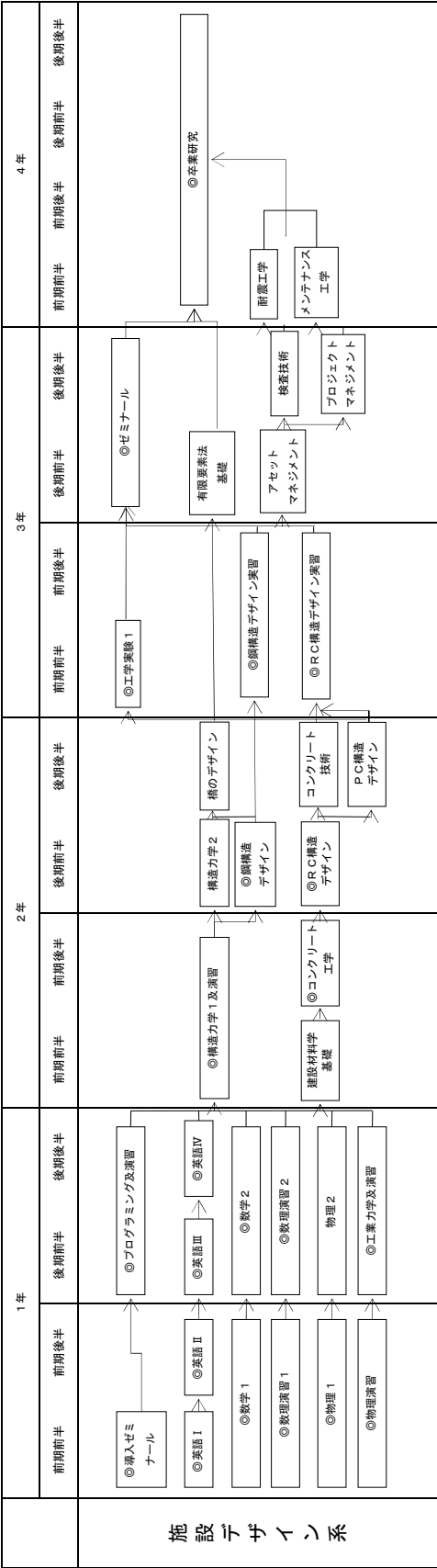
[都市プランニング系の流れ] ◎：必修科目（卒業要件を満たすためには3つの系の全ての必修科目を修得することが必要です）



[環境システム系の流れ] ◎：必修科目（卒業要件を満たすためには3つの系の全ての必修科目を修得することが必要です）



【施設デザイン系の流れ】 ◎：必修科目（卒業要件を満たすためには3つの系の全ての必修科目を修得することが必要です）



カリキュラムマップ

各科目が属するディプロマポリシーに○を付記しています。

区分	学年	科目名	地球観の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能な社会に必要な基礎システムの整備と維持管理を担うことができる	科学技術の光と影を的確に見極め、人類の幸福を実現するための公益に資する技術が社会へ提供できる	技術者としての公平性・誠実性・不偏的態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・育成することができ	学位授与の方針についての目的や目標	技術者としての使命を果たす上で必要な教養と専門知識を備え、それらを活用・応用することにより様々な制約条件下で困難な課題を解決することができる	地域・国際社会との対話・協調・協働に必要なコミュニケーション能力を有し、技術者としての説明責任を果たすことができる
基盤科目	外国語科目	1 英語 1			○			○
		1 英語 2			○			○
		1 英語 3			○			○
		1 英語 4			○			○
		1～4 英語 1 (補講)			○			○
		1～4 英語 2 (補講)			○			○
		1～4 英語 3 (補講)			○			○
		1～4 英語 4 (補講)			○			○
		1～4 財務会計	○	○	○		○	○
		1～4 マーケティング	○	○	○		○	○
	経営系	1～4 国際社会論	○	○	○		○	○
		1～4 エコミクス	○	○	○		○	○
		1～4 法学 (日本国憲法)	○	○	○		○	○
		1～4 法と現代社会	○	○	○		○	○
	法律系	1～4 知的財産権	○	○	○		○	○
		2～4 技術者倫理	○	○	○		○	○
		1～4 開発と国際協力	○	○	○		○	○
		1～4 文化と文明	○	○	○		○	○
	人文系	1～4 認知科学						
		1～4 イタリア語・イタリア文化						
		1～4 中国語・中国文化						
		1～4 環境とエネルギー	○	○	○		○	○
	工学系	1 数学 1						
		1 数理解演習 1						
		1 数学 2						
		1 数理解演習 2						
		1 物理 1						
		1 物理演習						
		1 物理 2						
		1 ハイエン지니어リング						
		1 ケミカルエンジニアリング						
		1 工業力学及演習						
		1 図学及演習						
		1 ジオロジカルエンジニアリング						
		1 プログラミング及演習						
		2 確率・統計						
		2 数値計算法						
		1・2 スポーツ総合演習		○				○
保健体育	留学科目	1～4 日本語 1			○			○
		1～4 日本語 2			○			○
		1～4 日本語 3			○			○
		1～4 日本語 4			○			○
		1～4 日本文化論	○	○			○	○
		1～4 日本の工業技術	○	○			○	○
		1～4 一般数学					○	

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー 学位授与の方針についての目的や目標			
			地球的观点の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能な社会に必要な基盤システムの整備と維持管理を担うことができる	科学技術の光と影を的確に見極め、人々の幸福を実現するための公益に資する技術が社会へ提供できる	技術者としての公平性・誠実性・不偏的態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・育成することができ	技術者としての使命を果たす上で必要な教養と専門知識を備え、それらを活用・応用することにより様々な制約条件下で困難な課題を解決することができる
学部科目	1	デザイン文化論	○	○	○	○
	2	建築と文化	○	○	○	○
	2	サステイナブルデザイン	○	○	○	○
	3	英語表現技術			○	○
	2	都市デザイン			○	○
	2	アーバニズム	○	○	○	○
	2	風土と建築	○	○	○	○
	2	デザイン史	○	○	○	○
	2	福祉工学	○	○	○	○
	2	地図とGIS			○	○
	2	ランドスケープデザイン	○	○	○	○
	2	都市・地域政策			○	○
	2	環境工学			○	○
	2	テクニカルライティング			○	○
	2	数理統計学			○	○
	3	タウマネシメント	○	○	○	○
	2	マテリアルサイエンス	○	○	○	○
	3	公共空間デザイン及演習	○	○	○	○
	3	品質マネジメント	○	○	○	○
	2	Design Basics in English			○	○
	1	導入ゼミナール（都市）	○	○	○	○
専門科目	1	デザインスタジオ1（都市）			○	○
	1	国土・地域概論			○	○
	2	測量学			○	○
	2	測量実習			○	○
	2	測量学演習			○	○
	2	都市計画法と政策			○	○
	2	建設材料学基礎			○	○
	2	構造力学1及演習			○	○
	2	コンクリート工学			○	○
	2	構造力学2			○	○
	2	鋼構造デザイン			○	○
	2	RC構造デザイン			○	○
	2	橋のデザイン			○	○
	2	コンクリート技術			○	○
	2	PC構造デザイン			○	○
	2	河川環境工学			○	○
	2	地盤力学及演習			○	○
	2	水文気象学			○	○
	2	地盤と環境1			○	○
	2	水理学1及演習			○	○
	2	工業英語			○	○

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー 学位授与の方針についての目的や目標			
			地球学的視点の下で地域の歴史・文化を重んじながら、持続可能な社会に必要な基盤システムの整備と維持管理を担うことができる	科学技術の光と影を的確に見極め、人類の幸福を実現するための公益に資することができる	技術者としての公平性・誠実性・不偏的な態度を備え、継続的に自己を研鑽するとともに、後進の人材を教育・育成することができ	地域・国際社会との対話・協調・協働に必要なコミュニケーション能力を有し、技術者としての説明責任を果たすことができる
学 科 科 目	3	デザインスタジオ2 (都市)				
	3	都市調査解析			○	
	3	交通計画			○	
	3	街づくり			○	
	3	上下水道システム			○	
	3	建築設計基礎			○	
	3	計画の可視化			○	
	3	建築法規 (都市)			○	
	3	工学実験1			○	○
	3	鋼構造デザイン実習			○	○
	3	RC構造デザイン実習			○	○
	3	有限要素法基礎			○	
	3	アセットマネジメント			○	
	3	検査技術			○	
	3	プロジェクトマネジメント (都市)			○	
	3	水理学2			○	
	3	流域水文学			○	
	3	地盤と環境2			○	
	3	水資源工学			○	
	3	工学実験2			○	○
	3	環境法規			○	
	3	水圏環境学			○	
	3	環境アセスメント			○	
	3	海洋環境工学			○	
	3	工業英語実習			○	○
	3	総合演習			○	
	3	ゼミナール	○	○		○
	3	インターンシップ (都市)			○	○
	3	附属工学			○	
	3	メンテナンส์工学			○	
	4	卒業研究1 (都市)		○	○	○
	4	卒業研究2 (都市)		○	○	○

第5章 資格取得

都市環境デザイン工学科において所定の単位を修得して卒業すると、申請のみの手続きで取得できる国家資格があります。また、受験科目の一部免除や受験までの実務経験が短縮される資格もあります。以下に代表的な資格を示しますが、ここに記述した内容は法律の改正等によって変更される場合があります。したがって、随時必要に応じて以下の内容に関する最新情報を確認してください。

在学中あるいは卒業後に資格取得を目指す場合には、その準備段階時から、当該資格を所轄する機関に直接問い合わせるか関連ホームページ等を参照し、正確かつ詳細な情報を入手し、迅速に行動することを薦めます。

(1) 所定の単位を修得して卒業した者が、申請の手続きをすることによって得られる資格

①技術士補（日本技術士会：<http://www.engineer.or.jp>）

所定の単位を修得して卒業した者は、公益社団法人日本技術士会に申請することによって技術士補の資格を得ることができる。

②測量士補（国土交通省国土地理院：<http://www.gsi.go.jp>）

測量に関する所定の科目を修めて本学科を卒業した者は、申請によって測量士補の資格を得ることができる。

ただし、科目配当表の履修上の注意を参照のこと。

③測量士（国土交通省国土地理院：<http://www.gsi.go.jp>）

測量に関する所定の科目を修めて本学科を卒業した者が、測量に関して1年の実務経験を積むと、申請によって測量士の資格を得ることができる。

(2) 所定の単位を修得して卒業すると試験科目の一部が免除される資格

①土地家屋調査士（法務省：<http://www.moj.go.jp>）

測量士・測量士補の資格を取得している者は午前の部の試験が免除される。

(3) 所定の単位を修得して卒業すると受験までの実務経験年数が軽減される資格

①1級・2級土木施工管理技士（全国建設研修センター：<http://www.jctc.jp>）

実務経験1年で2級土木施工管理技士、実務経験3年で1級施工管理技士の受験資格を得ることができる。

ただし、科目配当表の履修上の注意を参照のこと。

②土地区画整理士（全国建設研修センター：<http://www.jctc.jp>）

実務経験 1 年で受験資格を得ることができる。

③ 1 級・2 級管工事施工管理技士（全国建設研修センター：<http://www.jctc.jp>）

実務経験 1 年で 2 級管工事施工管理技士、3 年で 1 級管工事施工管理技士の受験資格を得ることができる。

④ 1 級・2 級造園施工管理技士（全国建設研修センター：<http://www.jctc.jp>）

実務経験 1 年で 2 級造園施工管理技士、3 年で 1 級造園施工管理技士の受験資格を得ることができる。

⑤二級・木造建築士（ホームページ：<http://www.jaeic.or.jp>）

国土交通大臣に指定された科目を所定の条件および単位数に応じて修めて卒業し、実務経験 0 ～ 2 年で受験資格を得ることができる。別頁の資格取得のための科目を参照のこと。

⑥コンクリート（主任）技士（日本コンクリート工学会：<http://www.jci-net.or.jp>）

実務経験 2 年でコンクリート技士、4 年でコンクリート主任技士の受験資格を得ることができる。

⑦コンクリート診断士（日本コンクリート工学会：<http://www.jci-net.or.jp>）

実務経験 4 年で受験資格を得ることができる。ただし、受験前に講習を受ける必要がある。

⑧土木鋼構造診断士、土木鋼構造診断士補（日本鋼構造協会：<http://www.jssc.or.jp>）

実務経験 1 年で診断士補、7 年で診断士の受験資格を得ることができる。ただし、受験前に講習を受ける必要がある。

■ 資格取得のための科目

各種資格取得のためには、資格ごとに下表に示される単位取得が必要です。科目配当表の履修上の注意を良く参照の上、履修計画をたてるようにしてください。入学年度によって科目名称が異なります。必ず該当の履修の手引きで確認してください。

① 二級・木造建築士（2009 年度以降入学者）

	分類 (必要単位数)	1 年次			2 年次			3・4 年次			合計
		科目	単位数		科目	単位数		科目	単位数		
			必	選		必	選		必	選	
②二級建築士 (2009 年度以降入学者)	①建設設計製図 (計 5 単位以上)							デザインスタジオ 2 (都市) 建築設計基礎	3	3	6
	②建築計画 ③建築環境工学 ④建築設備 (計 7 単位以上)				建築と文化 風土と建築		2 2	タウンマネジメント 街づくり		2 2	8
	⑤構造力学 ⑥建築一般構造 ⑦建築材料 (計 6 単位以上)	工業力学及演習	3		構造力学 1 及演習 構造力学 2 鋼構造デザイン PC 構造デザイン RC 構造デザイン 建設材料学基礎 コンクリート工学	3 2 2 2 2	2 2	鋼構造デザイン実習 RC 構造デザイン実習		1 1	20
	⑧建築生産 (1 単位以上)				コンクリート技術		2	検査技術		2	4
	⑨建築法規 (1 単位以上)							建築法規 (都市)		2	2
	⑩その他 (適宜)	デザインスタジオ 1 (都市) 図学及演習 国土・地域概論		3 3 2	測量実習 ランドスケープデザイン 技術者倫理 都市デザイン 都市計画法と政策	1 2 2	2 2	公共空間デザイン及演習		3	20
	総単位数 (40 単位以上)										60

(1) ①～⑨の必要単位数を取得すること。

(2) (1) の単位のほかに 20 単位取得して総単位数が 40 単位となるようにすること。この時⑩および①～⑨で取得した 20 単位を超える単位数を含めてよい。例えば、⑤、⑥、⑦で 18 単位取得した場合、必要単位数 6 単位を超える 12 単位は総単位 40 単位に含めてよい。

② 一級・二級土木施工管理技士（管工事・造園施工管理技士も含む）

	1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			合計
	科目	単位数		科目	単位数		科目	単位数		科目	単位数		
		必	選		必	選		必	選		必	選	
一級・二級 土木施工管 理技士（管 工事・造園 含む）	図学及演習		3	地図と GIS		2	品質マネジメント		2	4 単位以上 取得すること		48	
	ジオロジカルエンジニアリング		2	マテリアルサイエンス		2	建築法規（都市）		2				
				測量学演習		2	RC 構造デザイン実習		1				
				建設材料学基礎		2	有限要素法基礎		2				
				構造力学 2		2	アセットマネジメント		2				
				コンクリート技術		2	プロジェクトマネジメント（都 市）		2				
				水文気象学		2	水理学 2		2				
							流域水文学		2				
							地盤と環境 2		2				
							水資源工学		2				
							環境法規		2				
							総合演習		1				
							耐震工学		2				
							メンテナンス工学		2				

卒業後に受験資格を得るには、卒業までに上記の選択科目から 4 単位以上修得すること。

③ 測量士補・測量士

	1 年次			2 年次			3 年次			4 年次			合計	
	科目	単位数		科目	単位数		科目	単位数		科目	単位数			
		必	選		必	選		必	選		必	選		
測量士補・ 測量士	「測量学演習」を含め必要単位数：7 単位以上			地図と GIS		2	交通計画		2				7 単位以上 取得すること	27
				数理統計学		2	上下水道システム		2					
				測量学演習		2	有限要素法基礎		2					
				構造力学 2		2	水理学 2		2					
				水文気象学		2	流域水文学		2					
						2	地盤と環境 2		2					
						2	水資源工学		2					
						1	総合演習		1					
						2	耐震工学		2					

卒業後に受験資格を得るには、卒業までに上記の選択科目から「測量学演習」（2 単位）を含めて 7 単位以上を修得すること。

〈注意〉

指定科目の分類等は変更になる場合があります。その際は掲示にてお知らせします。

第6章 大学院進学について

工学系の職域では、就職に際し修士の学位が必要な場合が少なからずあります。法政大学では、より高度な学術的研究を行い、また能力をより向上させたい学生のために大学院を設置しています。大学院教員は第一線の研究者・教育者から構成され、各専攻分野に応じて講義および研究指導を行っています。大学院での授業および研究を通して、考える力、まとめる力、伝える力を備えた高度な技術者を育成します。

大学院は、単に知識を深めるための場ではなく、一つの研究テーマに対してじっくりと着実に取り組むことができる学術の場です。そこで培われたスキルには、社会に出て役立つものが数多くあります。たとえば、大学院では、取り組むべき研究の背景を調査し、そこにある課題や問題点を抽出する調査・分析能力が身につけてきます。調査・分析を進めるためには、多くの文献を読み、それらをとりまとめなければなりません。卒業研究では、1年弱（就職活動なども行っていればもっと短い期間）という短い期間でこのような時間を十分とることは難しいといえますが、大学院では、研究の方向性を定めるために、これらの調査・分析に多くの時間を割くことができます。実は、この調査・分析能力こそ、仕事を行う上ではとても重要な能力なのです。また、研究を進めていく上で時には失敗をすることもあります。大学院では、その失敗からいろいろなことを学び、次の道を模索していく問題解決能力も身につけてきます。企業や役所ではそのような失敗は企業に大きな損失を与えかねませんし、役所の場合には税金の無駄遣いだと批判されかねません。しかし、誰でも失敗はします。失敗をした場合に損失を如何に少なくし、問題を解決できるかは、経験がものをいいます。大学院でそのような経験を社会に出る前に少なからず身につけることができるのです。

さらに、法政大学では現在大学院生の海外での諸活動に対する助成制度があります。英語でのプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めることができ、海外の研究者とも交流できます。社会の急速なグローバル化に対応するためにもこのような能力を学生時代から身につけておくことが非常に重要であるのは言うまでもないでしょう。この他にも、法政大学では大学院生の学術研究活動を支援するために独自の補助金や奨学奨励金の制度が充実しています。ぜひ皆さんに活用してもらいたいと思っています。

平成20年以降、日本の国公立・私立全大学を合わせた工学系学生の大学院進学率はほぼ4割となっています。国公立の主要大学に限れば、工学系学生の8割以上が大学院に進学しています。彼らは、就職で有利となるだけで進学するわけではありません。研究の面白さや上述したような社会で必要とされる能力を身につけることができるというメリットを感じるからこそ進学するのです。長い人生の中でのたった2年間なのですが、そこで得られるものは、実に大きいといえます。

現状では、本学科を卒業する多くの人たちは、上述のような大学院の持つ魅力を知らないまま、進学せずに社会に出て行っているのです。自分で学んだことが、そのまま社会に出て行かせるのは、工学系の学生の強みといえます。その強みを最大限に生かすためにも大学院への進学をぜひ考えてみてください。

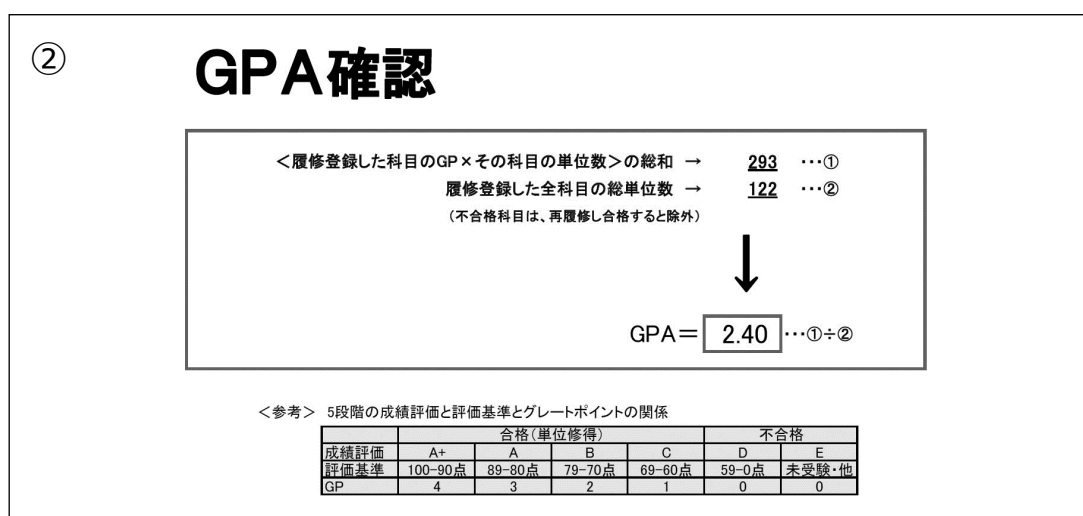
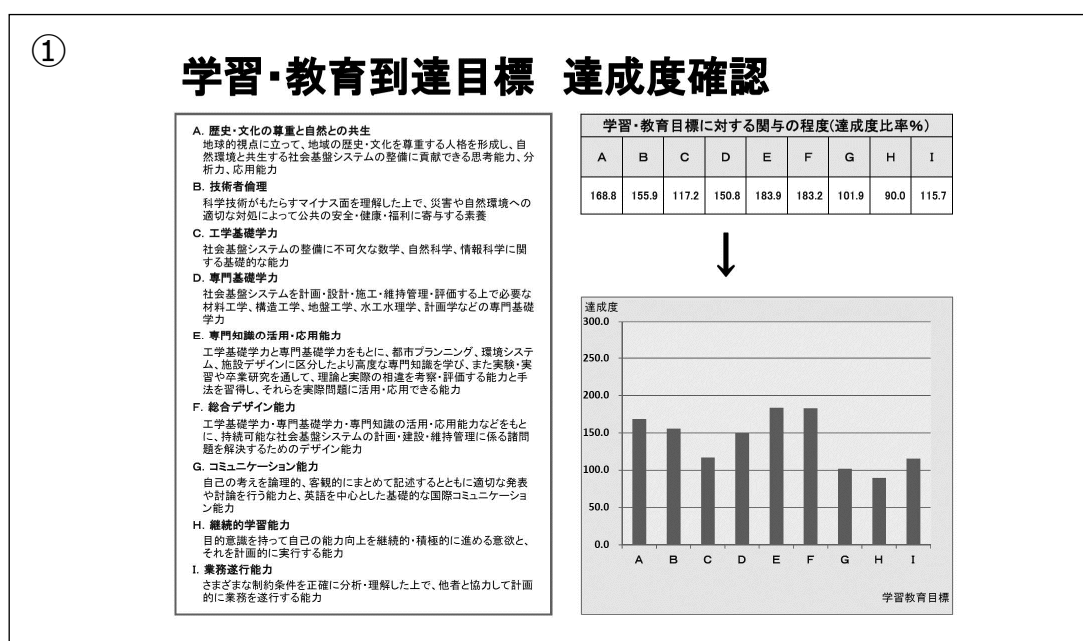
第7章 達成度自己評価システムについて

達成度自己評価システムは各自が達成度を確認するためのシステムです。各自の入学年度版のエクセル・ファイルをエチュードからダウンロードできます。エクセル・ファイルを開き、氏名や学生証番号等を記入してください。また、科目一覧表の成績記入欄に、履修した科目の成績評価（A+、A、B、C、D、E）を記入してください（前年度 D、E 評価で再履修した場合は評価を書き換えてください）。記入後に次の結果が表示されます。

① 学習・教育目標達成度 ② GPA 確認 ③ 卒業要件確認 ④ 資格要件確認

以上の結果を確認のうえ「反省と目標」を所定の欄に記入してください。毎年、学科主任（または担当教員）から提出のアナウンスがありますので、期限までに記入済みのエクセル・ファイルをエチュードへ提出して下さい。

（結果表示画面イメージ図）



③

卒業要件確認

科目区分		必修	卒業所要単位数		修得単位数 (所属学科科目)			判定
外国語科目		必修	8	8	8	8	-	OK
基盤科目	経営系・ 法律系・ 人文系・ 保健体育・ 留学生科目	必修	2		2			
		選択	14	16	14	16	-	OK
	工学系	必修	15		15			
		選択	9	24	9	24	-	OK
専門科目		必修	43		37			
		選択						
		必修	1		1			
		選択	32	76 (※1)	32	70	58	NG
合計			124	124	118	118	-	NG

※1 所属学科科目(学科基礎科目を含む)56単位以上

④

資格要件確認

◆二級建築士試験・木造建築士(受験までの実務経験年数が軽減される)

科目名	区分3	分類	単位数	評価	修得単位	必要単位数	判定
建築設計基礎	選	①建築設計製図	3	A	3	5単位以上	OK
デザインスタジオ2(都市)	必	①建築設計製図	3	A	3		
建築と文化	選	②建築計画、③建築環境工学、④建築設備	2	B	2	7単位以上	NG
風土と建築	選	②建築計画、③建築環境工学、④建築設備	2	B	2		
タウンマネジメント	選	②建築計画、③建築環境工学、④建築設備	2	B	2		
街づくり	選	②建築計画、③建築環境工学、④建築設備	2			6単位以上	OK
工業力学及演習	必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	3	B	3		
構造力学1及演習	必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	3	B	3		
構造力学2	選	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	2				
PC構造デザイン	選	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	2				
建設材料学基礎	選	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	2				
コンクリート工学	必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	2	C	2		
鋼構造デザイン	必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	2	B	2		
RC構造デザイン	必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	2	B	2		
鋼構造デザイン実習	選必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	1				
RC構造デザイン実習	選必	⑤構造力学、⑥建築一般構造、⑦建築材料	1	A	1	1単位以上	NG
検査技術	選	⑧建築生産	2				
コンクリート技術	選	⑧建築生産	2			1単位以上	OK
建築法規(都市)	選	⑨建築法規	2	B	2		
デザインスタジオ1(都市)	選	⑩その他	3	A	3	適宜	
図学及演習	選	⑩その他	3	A	3		
国土・地域概論	必	⑩その他	2	A	2		
測量実習	必	⑩その他	1	A	1		
ランドスケープデザイン	選	⑩その他	2	A+	2		
都市デザイン	選	⑩その他	2	A	2		
都市計画法と政策	必	⑩その他	2	B	2		
技術者倫理	必	⑩その他	2	B	2		
公共空間デザイン及演習	選	⑩その他	3				
合計						40単位以上	NG

第8章 各教員・研究室の紹介

1. 都市プランニング系

・空間分析研究室（宮下 清栄 教授） 「環境共生型都市の構築を目指して」

近年の環境アセスメントに対する考え方は従来の環境アセスメントから戦略的環境アセスメント（SEA：Strategic Environmental Assessment）に移行している。SEAは政策（policy）、計画（plan）、プログラム（program）の3つのPを対象とする環境アセスメントである。事業に先立ち上位計画や政策レベルで、十分な環境情報を基に環境への配慮を意思決定に統合するための仕組みであり、このためにはあらゆるデータのデータベース化が必要である。自然、歴史、社会・経済及び都市計画や交通などのデータをGISに構築し、空間分析、計画立案、住民参画を促すために解りやすい情報提供、更に代替案のシミュレーションに活用し、「生活の質」を向上させる環境共生型都市の構築の研究を行っている。

・都市デザイン研究室（高見 公雄 教授） 「美しく、ふさわしいまちづくり」

まちづくりは、市街地の拡大など量的充足に追われた時期を終え、人々が暮らす都市の質の向上が今後求められる。美しく快適な都市を造るための取り組みが続けられてきているものの、その目標や方法は未だ不透明である。本研究室は、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方とともに、気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法についての研究をテーマとしている。

・景観研究室（福井 恒明 教授） 「都市戦略として景観を考える」

拡大・成長の時代が終わり、都市や地域の姿が、それを支える仕組みとともに危機に瀕している現在、都市計画や公共事業に対するニーズは都市の活力の維持や新たな魅力の創出、顕在化へと向いている。これに対応するには、個別の都市や地域のありようを丁寧に理解すると同時に、その特質を活かす戦略や方法を総合的に考える視点が必要となる。景観研究室ではそうした問題意識に基づき、公共空間や構造物のデザイン、景観計画や関連制度などのプランニング・マネジメント、景観の認識・評価・歴史など、良好な地域景観の創出・保全の考え方や手法について研究する。

・構造デザイン・コミュニケーション研究室（渡邊 竜一 専任講師） 「構造および橋梁デザイン、コミュニケーションデザイン」

社会・時代の中での適正な「かたち」の探求、設計を行い、それを地域の中で共有するための設計プロセス、コミュニケーションに焦点を当てた研究を行う。都市からまちづくり、建築、土木、ファニチャーなど横断的な設計実務での経験を伴った実践的なテーマを扱う。

2. 環境システム系

・陸水域環境研究室（道奥康治 教授）「自然共生を実現するための持続的な川づくりと流域管理の戦略」

適切な計画の下で河川の整備や管理を実施しないと、河川本来の流れや地形に不可逆的な変化を与え、水辺の景観や水質・生態系など自然環境を損ねることがあります。当研究室では、安全で自然との共生を実現するための持続的な川づくり、環境負荷を緩和・最小化するための流域管理の戦略について研究します。様々なインフラの劣化とそれらの維持管理は、これからの最も重要な技術課題として注目されています。自然公物である河川は、人為的な管理・利用と気候変動の影響を受けて環境水理学的な特性が変動するため、経年的に劣化する人工構造物とは異なる管理概念が必要となります。水辺から流域に至るまでの様々な規模の空間を対象に川のデザイン戦略を考えていきます。

・地震防災研究室（酒井 久和 教授） 「地震被害の軽減を目指して」

多くの地震対策が施されてきた今日でさえ、大きな地震が起こるたびに人々の尊い命が失われたり、被災者が地震後も苦しい避難生活を余儀なくされたりしている。その一方で、国や地方公共団体の厳しい財政事情、常時の自然環境の保全などにより、全く被害がでない地震対策をとることも現実的ではない。本研究室では、環境に配慮しつつ限られた予算内で地震による被害を軽減することを目的として、効果的で経済的な地震対策方法や構造物の耐震性評価手法についての研究を行っている。

・水文気象環境研究室（鈴木 善晴 教授） 「環境問題の解決や気象災害の軽減を目指して」

近年の地球温暖化や発展途上国の近代化等によって自然環境・地球環境が大きく変化し、集中豪雨による被害の多発や環境の酸性化など、我々を取り巻く都市の環境や気候もまた大きな影響を受けることが予想される。当研究室では、このような地球環境の問題や気象災害の問題を対象に、その影響の予測や対策の検討を行う。具体的には、集中豪雨などの降水現象の解明と工学・防災への応用、温暖化や大気汚染を中心とした地球環境問題の影響評価、土地利用や水文特性を考慮した適切な流域管理の実現など、人類と自然環境がいかに共存するかをテーマに研究を行っている。

3. 施設デザイン系

・コンクリート材料研究室（溝渕 利明 教授） 「コンクリートの一生を考える」

コンクリート構造物は、これまでメンテナンスフリーと思われてきた。しかしながら、コンクリートは常に人の手を掛けていないと弱く脆いことが明らかとなってきた。硬化時の水和発熱によるひび割れや乾燥収縮ひび割れ、塩化物の浸透による鉄筋の腐食、火災によるコンクリートの崩壊等コンクリート構造物の寿命を縮める要因は多種多様であり、これらの原因を明らかにし、如何になくすかがコンクリートを長持ちさせる秘訣といえる。また、資源の有効利用や環境保全を前提とした材料開発も重要な課題といえる。当研究室では、コンクリートの収縮によるひび割れのメカニズムの解明やコンクリートの経年劣化の予測技術、非破壊によるコンクリート内部の診断技術、縮尺鉄筋による立体視等に関する研究を行っている。

・複合構造研究室（藤山 知加子 教授） 「土木構造物を支える基礎技術の開拓」

私たちの生活を支える社会インフラとしての土木構造物には、鉄やコンクリートをはじめとする様々な材料が用いられている。近年の開発された材料も含めそれらの力学的特性を実験および数値解析によって明らかにし、過酷な環境条件や複雑な外力状態を考慮した土木構造物の最適設計に関する研究を行う。現在の主要研究は、コンクリートの微細空隙中およびひび割れに存在する水が構造物の疲労および衝撃挙動に及ぼす影響と、コンクリートおよび鋼コンクリート合成構造物の橋梁床板を対象とした疲労損傷機構の解明およびそれらの知見に基づいた維持管理手法の提案である。

・鋼構造研究室（内田 大介 准教授） 「安全な橋を作り守る」

社会インフラのメンテナンスや長寿命化は重要な社会的課題の一つです。当研究室では、鋼橋をはじめとした鋼構造物に対し、その劣化要因となる金属疲労を主体として、疲労設計法、基本的な溶接継手の疲労強度とその改善法、既設構造物のき裂発生要因の解明と補修および構造改善方法などについて研究しています。研究では実験や構造解析を実施し、現象を理解するとともに問題を解決のためのアプローチ方法を学びます。また、卒業後も役立つ、わかりやすい成果の取りまとめ方やプレゼンテーション能力も身に付けます。

第9章 各教員のオフィスアワー

下表に示す、時間・場所において、各教員が質問や相談に応じます。事前の約束等は必要ありませんので、学生諸君は遠慮なく、気軽に訪問してください。なお、場所の記載「T 2 0 * *」は、市ヶ谷田町校舎の別館2 Fにある各教員の部屋の番号を表しています。

2018 年度 都市環境デザイン工学科 オフィスアワー

教員名	A 期		B 期		C 期		D 期	
	曜日・時間	場所	曜日・時間	場所	曜日・時間	場所	曜日・時間	場所
内田 大介	(月) 16:50 ～18:00	T2010	(月) 16:50 ～18:00	T2010	(火) 13:00 ～14:30	T2010	(火) 13:00 ～14:30	T2010
酒井 久和	(月) 13:00 ～14:30	T2003	(月) 13:00 ～14:30	T2003	(火) 13:00 ～14:30	T2003	(火) 13:00 ～14:30	T2003
鈴木 善晴	(金) 13:00 ～14:30	T2001	(金) 13:00 ～14:30	T2001	(金) 13:00 ～14:30	T2001	(金) 13:00 ～14:30	T2001
高見 公雄	(月) 12:40 ～13:30	T2002	(月) 12:40 ～13:30	T2002	(火) 17:00 ～18:00	T2002	(火) 17:00 ～18:00	T2002
福井 恒明	(月) 12:30 ～13:10	T2006	(月) 12:30 ～13:10	T2006	(月) 12:30 ～13:10	T2006	(火) 12:30 ～13:10	T2006
藤山 知加子	(月) 16:50 ～18:20	T2004	(月) 16:50 ～18:20	T2004	(月) 16:50 ～18:20	T2004	(月) 16:50 ～18:20	T2004
	(金) 16:50 ～18:20		(金) 16:50 ～18:20		(金) 16:50 ～18:20		(金) 16:50 ～18:20	
溝渕 利明	(火) 17:30 ～18:30	T2009	(火) 18:30 ～19:30	T2009	(月) 17:30 ～18:30	T2009	(月) 17:30 ～18:30	T2009
道奥 康治	(木) 13:30 ～15:30	T2008	(木) 13:30 ～15:50	T2008	(水) 13:30 ～15:30	T2008	(水) 13:30 ～15:30	T2008
宮下 清栄	(水) 13:30 ～15:00	T2007	(水) 13:30 ～15:00	T2007	(水) 13:30 ～15:00	T2007	(水) 13:30 ～15:00	T2007
渡邊 竜一	(火) 12:45 ～13:15	T2005	(水) 12:45 ～13:15	T2005	(木) 12:45 ～13:15	T2005	(月) 12:45 ～13:15	T2005

<兼任教員>

授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付ける。

第四部 システムデザイン学科

第1章 教育目標と3つのポリシー

教育目標

システムデザイン学科は、以下のような素養・能力を備えた人材を育成する。

1. 人間や環境との協調・調和

高齢社会における人を中心としたデザインと地球規模の自然環境を配慮した「もの・システム」づくりを多面的に考えることができる能力と素養

2. 技術者倫理

デザインから生産まで、全ての「ものづくり」のプロセスを総合的に眺め、グローバルな倫理観に基づいて公共の安全・健康・福祉に寄与できる責任ある技術者としての素養

3. 工学的教養

工学分野のみならず、人文社会科学、自然科学、情報科学といった幅広い分野の基礎知識を習得し、情報・シミュレーション・表現技術などを道具として専門分野に応用する能力、ならびにデザインに関わる様々な分野の人々と共同して、自ら問題を解決する能力

4. 専門基礎学力

3つの専門分野（クリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系）の基礎知識を習得し、あらゆるシステムをデザインするための基礎となる共通の技法や一連の考え方に対する基礎学力

5. 創造的工学能力

創成型科目を通して、見慣れて存在意義に疑問をもたなくなり、不便を感じながらも受け入れていた「もの」や「システム」に対する既成概念を取り払い、問題を発見できる能力

6. 「ものづくり」実践能力

プロジェクト科目（実習科目）を通して、考案、設計、試作までの過程を計画し、実践する能力や、その過程において工具類などを使いこなす能力

7. 総合デザイン能力

3つのシステムデザイン系の各課題を全て学修し、横断的な知識の融合により、人間を設計の中心に据えた「もの・システム」づくりの考え方を志向する新しい形の総合システムデザイン能力

8. コミュニケーション能力

自己の考えや作品のアイデアなどを論理的かつ客観的に記述し、効果的にプレゼンテーションできる能力、ならびに、英語を中心としてコミュニケーションする基礎能力

9. 継続的学習能力

技術者資格の取得や英語学習など、目的意識をもって自己のスキルアップを継続的に進める意欲と素養

10. 業務遂行能力

与えられた環境や期日などの制約条件を正確に分析し、理解したうえで、指定された業務を計画的に遂行する能力

学位授与の方針についての目的や目標（ディプロマ・ポリシー）

所定の単位の修得により、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(工学)」を授与する。

1. ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見できる
2. 問題解決のための具体的なモノやコトを構成し提案できる
3. 人間中心に「もの・システム」をデザインできる
4. 環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる
5. 国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる

教育課程の編成・実施についての目的や目標（カリキュラム・ポリシー）

システムデザイン学科は、人間中心の美的・機能的デザインを基本に、横断的な知識の融合と豊富な実習体験を通して、コンセプトデザインからプロダクションマネジメントまで、「ものづくり」を総合的に学ぶカリキュラムとしている。

1. 全科目を以下の3つの区分に分け、横断的な知識を身につけることで工学的教養を修得する。

① 外国語科目 ② 基盤科目 ③ 専門科目

2. 専門科目は、「ものづくり」を「クリエイティブ」（クリエーション系）・「テクノロジー」（テクノロジー系）・「マネジメント」（マネジメント系）の3つの視点から捉え、これらをバランスよく履修することで、「ものづくり」に必要な知識や技術、考え方を多角的に学ぶことを目指している。

クリエーション系：人々が求めている"何か"を具体的な形にするために、構成力、編集力、発想力、問題発見能力とそれを他人に対して説明できる能力を修得する。

テクノロジー系：構想やアイデアを実現するための具体的な構造や機能を、現実世界の中で設計し、それを現実のモノとして作り上げ、動かして見せるための知識と技術を修得する。

マネジメント系：経営戦略や、マーケティング、そして最適オペレーションなど、システムデザインを実際に社会の中で人々の手によって実践するために必要な知識と技術を修得する。

3. 実習体験に基づいた創成型科目やプロジェクト型科目、デザインの現状、最新動向を知るためのフィールドワーク科目や事例研究科目などを設け、実社会との連携を取りながら、総合的デザインに対する動機付けや実践的な能力を修得する。
4. クォーター制の1クォーターを利用して海外で英語研修を実施し、英語によるコミュニケーション能力を修得する。

入学者受入れの方針についての目的や目標（アドミッション・ポリシー）

システムデザイン学科は、以下のような素養・資質を備えた学生を受け入れる。

1. 法政大学の歴史・伝統と大学憲章への深い理解を備えている
2. 基本的な学力を持っており、勉学の習慣を身につけている
3. 文系的素養も持ち、豊かな感性を備えている
4. デザインだけでなく、工学的視点から客観的に物事を判断・評価することに関心がある
5. 創造性豊かで、公正な価値観を持っている
6. 人間をデザインの中心に据えた「もの・システム」づくりに興味があり、それらの知識を習得する意欲がある

第2章 システムデザインとは何か

1. 21世紀の課題

2次産業が主体であった20世紀、人々は製品の機能に重きを置いて製品やシステムの開発を行ってきました。また技術者を育成する工学教育は産業構造を中心とした縦割り体系に基づいて行われる傾向にありました。しかし、近年のように3次産業が台頭し、産業形態や技術者に要求される技術の多様化が進んでくると、製品やシステムには人間のためのデザインが求められるようになり、技術者には複数の分野にまたがる広く横断的な知識が必要とされるようになってきました。21世紀には、人間を設計の中心において広い分野を考慮し、グローバルに最適でより創造的なシステムをデザインしていかなければなりません。

2. 工学的教養教育の役割と新しい学問分野への対応

工学とは、一言で言えば「人類に役立つ目標を設定して、それを実現するための道具の設計（デザイン）と巧みな使い方（テクノロジー）を体系化する学問」と定義できます。これを実現するためには、広範囲な知識と教養、経験が求められます。しかし、大学の工学系学部での教育には時間的制限もあるため、様々な専門知識を幅広く吸収するには限界があります。したがって、教育体制はとかく1分野の専門性に特化し、細分化した構成とならざるをえませんでした。

このような背景のもと、近年再び教養教育が見直されています。これは、しっかりした基礎知識を幅広く有していれば、自ら問題を解決できるという発想に基づいています。工学系学部におけるこうした教養教育の役割とは、電気工学や機械工学などといった従来からの縦割りの専門に特化せず、工学に限らずデザインに関わる広い分野の人々と共同し、デザインから生産に至る「ものづくり」の本質を見極めることのできる知恵を身につけさせることにあります。

この視点に立てば、新しい時代の工学的教養とは、人間が安全で豊かに生活するうえで必要となる「もの」や「社会基盤」などに関わるあらゆるシステムをデザインするための基礎となるべき共通の技法や一連の考え方を学ぶことにあります。すなわち、従来の縦割りの基礎工学に加えて、道具としての情報・シミュレーション・表現技術を使いこなしながら、横断的な知識の融合により、人間を設計の中心に据えた「もの・システム」づくりの考え方を志向する新しい形の総合学問分野、すなわち「総合デザイン学」と呼ぶべきものを教育することが必要です。この分野を修めた学生は、人間中心のシステムをデザインする素養を身につけた人材として、技術が極めて多様化・複雑化した新しい時代にも十分に対応できます。

本学科は、このようにデザインを中心とした創造的基礎工学とメカトロニクス、情報技術やシミュレーション技術、生産管理といった「ものづくり」に関わる横断複合的な分野の融合の下に、人間を中心においたシステムをデザインするための教育研究を行うため、2004年4月、工学部システムデザイン学科として設立されました。そして2007年4月、人間的側面を重視しながら新しいものを創造する「総合デザイン」という共通した基本理念のもと、工学部建築学科、都市環境デザイン工学科とともに工学部から分離独立し、デザイン工学部システムデザイン学科となりました。

3. 教育の目的と理念

本学科では、従来の工学基礎の教育に軸足を置きながら、それらを基盤として他の分野との知識の融合による「新しい価値ともの・システムを創造しデザインする工学」として、様々な技術分野を統合した新たな学問体系を教育します。これは、従来のアナリス主体の細分化、専門化した大学専門教育とは大きく異なり、個別技術や幅広い知識を組み合わせながら、人間中心にシステムをデザインする、いわゆるシンセシス主体の教育を強く志向する試みです。たとえば、最近の知能ロボットには、医療・福祉・介護などの人間と密接に関わる分野への応用が期待されるため、要素や機能の面はもちろんのこと、人間や環境と協調・調和した「かたち」とデザインへの配慮が必要です。本学科では、こうした環境・健康・福祉・公共の安全を理解し、国際的な視野に立って判断のできる総合システムデザイン能力を身につけた人材を育成し、社会へ送り出すことを目的としています。

4. 学習・教育目標

人間や環境との協調・調和

高齢社会における人を中心としたデザインと地球規模の自然環境を配慮した「もの・システム」づくりを多面的に考えることができる能力と素養の育成

技術者倫理

デザインから生産まで、全ての「ものづくり」のプロセスを総合的に眺め、グローバルな倫理観に基づいて公共の安全・健康・福祉に寄与できる責任ある技術者の育成

工学的教養

工学分野のみならず、人文社会科学、自然科学、情報科学といった幅広い分野の基礎知識を習得し、情報・シミュレーション・表現技術などを道具として専門分野に応用する能力、ならびにデザインに関わる様々な分野の人々と共同して、自ら問題を解決する能力

専門基礎学力

3つの専門分野（クリエーション系、テクノロジー系、マネジメント系）の基礎知識を習得し、あらゆるシステムをデザインするための基礎となる共通の技法や一連の考え方に対する基礎学力

創造的工学能力

創成型科目を通して、見慣れて存在意義に疑問をもたなくなり、不便を感じながらも受け入れていた「もの」や「システム」に対する既成概念を取り払い、問題を発見できる能力

「ものづくり」実践能力

プロジェクト科目（実習科目）を通して、考案、設計、試作までの過程を計画し、実践する能力や、その過程において工具類などを使いこなす能力

総合デザイン能力

3つのシステムデザイン系の各課題を全て学修し、横断的な知識の融合により、人間を設計の中心に据えた「もの・システム」づくりの考え方を志向する新しい形の総合システムデザイン能力

コミュニケーション能力

自己の考えや作品のアイデアなどを論理的かつ客観的に記述し、効果的にプレゼンテーションできる能力、

ならびに、英語を中心としてコミュニケーションする基礎能力

継続的学習能力

技術者資格の取得や英語学習など、目的意識をもって自己のスキルアップを継続的に進める意欲と素養の育成

業務遂行能力

与えられた環境や期日などの制約条件を正確に分析し、理解したうえで、指定された業務を計画的に遂行する能力

5. システムデザインとは何か

デザインの意味

“デザイン”ということばは、とても多くの意味を含んでいます。デザイナーといえば、ファッションデザイナー、カーデザイナー、グラフィックデザイナーなど、とてもビジュアルでクールな（カッコいい）イメージがあります。しかし、“デザイン”ということばには、いわゆる“見た目”の美しさ以上に、その背後にある“しくみ”の美しさが重要なのです。逆にいえば、しっかりとした“しくみ”があるからこそ、その結果として見た目が美しく見える、あるいは感じるのです。

もう気が付きましたか。そう、この“しくみ”は英語でいえばSystem（システム）ですね。皆さんは、システムをデザインする方法、技術、そして知識を、4年間のシステムデザイン学科でのカリキュラムの中で学び、その成果を社会の中で実践していくことが求められています。

システムとは何か？

さて、“システム”とは何でしょう？多くの人は、システムというと、パソコンとか電子機器とか、銀行のATMとか、ハイテクな製品やサービスなどを連想します。これは間違いではありませんが、本来の定義は、“いろいろな要素が複雑に関係しあっているしくみ”を指すことばです。このしくみを、どうしたら人々（あるいは自分自身）に役立つようにできるか、これを追求することがシステムデザインの目的です。

たとえば、カッコいい車は、実際に高性能なエンジンを積み、速く走るからこそカッコいいわけです。いや、これからのカッコよさは、燃費や環境への配慮なのかもしれません。これは、社会が求めるニーズや個人のマインドと密接に関係しています。また、それを実現するための要素技術や、生産コストとも関係しています。つまり、それらは、広い意味で“システム”なのです。

6. 学科の構成（3つの系）

システムデザインという学問分野は3つの系に分けることができます。学生諸君は、これらの中で、どれか1つを選択するのではなく、すべてをバランスよく学ぶ必要があります。そして、3つの系すべての基礎を習得した後に、各自の個性と専門性をつけるために、他の系と連携しながら1つの系に特化し、システムデザインのフロンティアを広げてください。

クリエイション系

製品やサービスのコンセプト、アイデア、意匠などを手掛けるとき、従来にない新しさ、斬新さ、独自性などが求められることが多くなっています。これまでにないシステムをデザインするためには、これまで以上にモノやコトを深く知り理解する必要があります。そして、そこに新しい価値を備えた“意味”をいかにして見つけ出すことができる

か、が問われています。

クリエイション系では、人々が求めている“何か”を具体的な形にするために、構成力、編集力、発想力が必要とされます。そして、何よりも、ものごとに対する深い知識と洞察力がなければなりません。美しく絵を描く技術も必要ですが、それ以上にこれらの問題発見の能力とそれを他人に対して説明できる能力が重要となります。

テクノロジー系

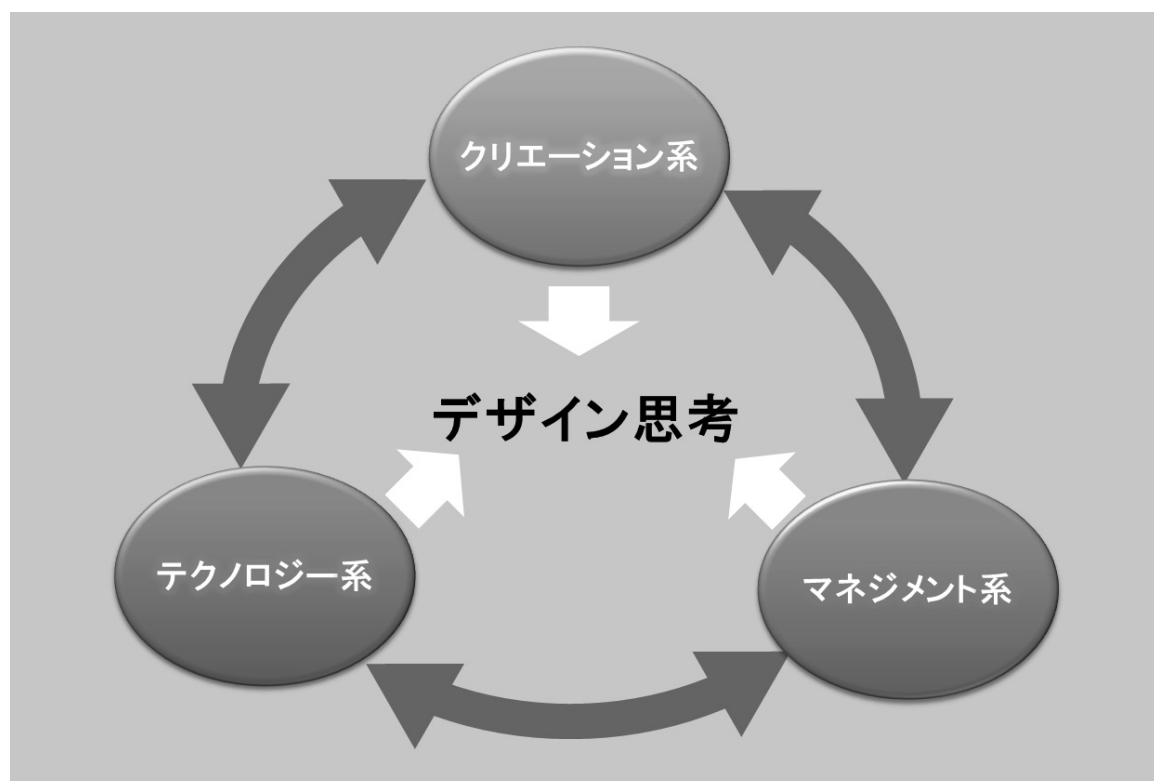
テクノロジー系では、構想やアイデアを実現するための具体的な構造や機能を、現実世界の中で設計し、それを現実のモノとして作り上げ、動かして見せるための技術が要求されます。テクノロジー系における“設計”は、英語ではデザインと訳されますが、より現実世界、物理的な世界における現象や挙動を相手にします。

製品は機械系、電気系、そしてソフトウェア系（場合によっては化学系）のエンジニアリングの集大成です。そして、これらは、科学技術として、日々進歩し発展しています。システムデザインでは、これらの“シーズ”（技術の種という意味）をもとに、製品やサービスを組み上げていきます。逆にいえば、テクノロジー系の技術がわからなければ、新しい製品やサービスはできません。

マネジメント系

人が3人以上集まれば、組織ができコミュニティ（社会）ができます。そこでは、個人の意思とは異なる組織の意思や利害関係が生まれます。企業であっても、NPO法人であっても、地域社会や公共団体や国家であっても、それをきちんとマネジメントしなければ個人は幸せになれません。マネジメント系では、こういった組織や社会の意思決定をどうしたら望ましい方向に導くことができるかを考えます。

多くの場合、製品やサービスは、企業の営利活動の中で提供されます。そこにはコストの概念が重要であり、働き手（提供者）や受け手（消費者）の意図や思いが重要なファクターとなります。経営戦略や、マーケティング、そして最適オペレーションなど、システムデザインを実際に社会の中で人々の手によって実践するために必要な知識と技術がマネジメント技術です。



7. めざす人材像

システムデザイン学科は、学生諸君に対して、大学の4年間、あるいは大学院を含めた6年間でシステムデザインを学び、そして社会においてそれを実践することを期待しています。システムデザインを学んだ学生のもっとも大きな特徴は、“デザイン思考”の持ち主であるという点です。

デザイン思考とは、ものごとを、様々な複雑な要素が関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見し、そして解決のための具体的なモノやコトを構成し提案するための能力です。与えられた問題を解くのではなく、与えられた問題の本質にせまり、その裏にある真の問題を明らかにする能力と、それを実際に解決してみせるロジカルな思考が求められます。

デザイン思考をもって社会で活躍する人材とはどのような人なのでしょう？ ここでは3つのタイプを例示しましょう。

デザインのできるクリエイター

クリエイターとは、新しい価値観を作品として世の中に送り出す人々のことです。これからのクリエイターは、新しい製品や新しいサービスの中で、新しいアイデアやメッセージを込めて、彼ら、彼女らの新しい作品を発表していく機会が増えていくことでしょう。つまり、システムをデザインできるクリエイターが求められているのです。

デザインのできるエンジニア

これまで、多くのエンジニアは、自分の専門分野を深く掘り下げ、その中で技術の高さを競い合ってきました。一方で、システムをデザインできるエンジニアは、自分の専門分野が、製品やサービスの中でどのような役割をもっているかを理解した上で、最終的に利用するユーザにとっての価値を高めるために、その専門領域の技術を高めます。エンジニアリング技術とユーザニーズとの距離感を常に大切にします。

デザインのできるプロジェクトマネジャー

どんなに素晴らしいアイデアや計画も、関係者が本気になってそれを実行し、成果に結びつけられなければ意味がありません。そして、さらに、そのアイデアがビジネスとして人々の生活の中に組み込まれてこそ、本物となります。システムをデザインできるプロジェクトマネジャーは、人々を動かすためのマネジメントに関する知識と技術を持ち、それを実際のプロジェクトの中で実行できる能力をもった人々です。

第3章 配当表【2015年度以降入学用】

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択必修	備考
外国語科目	1	英語 1	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	A	◎		
	1	英語 2	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	B	◎		
	1	英語 3	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	C	◎		
	1	英語 4	2	ゲーリーハイドン・杉崎弥生・平野むつみ・川守田弥生・津留一美・四ツ谷彩子・神田文恵・名取みゆき・春山恒子・馬場典子・鴨澤麻里・三井武人・永木れいか・今泉瑠璃・助川ゆか・長崎綾乃・田角依子	D	◎		
	1～4	英語 1 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	A	(◎)		再履修者用
	1～4	英語 2 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	B	(◎)		再履修者用
	1～4	英語 3 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	C	(◎)		再履修者用
	1～4	英語 4 (補講)	2	神田 文恵 (月) 名取 みゆき (木)	D	(◎)		再履修者用
基盤科目	経営系	1～4	財務会計	2	境 新一	A B		
		1～4	マーケティング	2	林 奈生子	C D		
		1～4	国際社会論	2	藤本 正徳	A B		
		1～4	エコミクス	2	多部田 直樹	A B		
	法律系	1～4	法学(日本国憲法)	2	松原 文雄	A B		
		1～4	法と現代社会	2	松原 文雄	C D		
		1～4	知的財産権	2	宮武 久佳	A B		
		1～4	技術者倫理	2	(X)山内 伸一 (Y) 山内 伸一	C D	◎	
		1～4	開発と国際協力	2	西宮 宜昭・小野澤 雅人・浅川 英理子 (都市・S D)	C D		
	人文系	1～4	文化と文明	2	小林 信也	C D		
		1～4	認知科学	2	加藤 千恵子 (都市・S D)	C D		
		1～4	イタリア語・イタリア文化	2	朝比奈 佳尉 (S D)	A B		

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択必修	備考
基盤科目	人文系	1～4	中国語・中国文化	2 田村 広子 (S D)	C D			
		1～4	環境とエネルギー	2 横山 隆壽 (建築・S D)	A B			
	工学系	1・2	数学 1	2 勝野 恵子	B		○	4 単位以上
		1・2	数学 2	2 高橋 一史	C		○	
		1・2	物理 1	2 谷井 一者	B		○	
		1・2	物理 2	2 谷井 一者	C		○	
		1・2	数理演習 1	1 高橋 一史	D			
		1・2	数理演習 2	1 谷井 一者	D			
		1～4	バイオエンジニアリング	2 小林 卓也 (建築・S D)	A B			
		1～4	ケミカルエンジニアリング	2 大山 聖一 (建築・S D)	C D			
	保健体育	1・2	スポーツ総合演習	2 小谷 究 小谷 究	A B C D			
	留学生科目	1～4	日本語 1	1 中沢 佐企子	A			
		1～4	日本語 2	1 中沢 佐企子	B			
		1～4	日本語 3	1 中沢 佐企子	C			
		1～4	日本語 4	1 中沢 佐企子	D			
		1～4	日本文化論	2 井波 真弓	A B			
		1～4	日本の工業技術	2 田村 広子	A B			
		1～4	一般数学	2 勝野 恵子	A B			
専門科目	学部科目	1	デザイン文化論	2 辻村 亮子	A B			
		2	建築と文化	2 石樽 督和	A B			
		2	サステナブルデザイン	2 出口 清孝	D			
		3	英語表現技術	2 Duncan Baker	C			
		2	都市デザイン	2 高見 公雄	D			
		2	アーバニズム	2 渡辺 真理	A B			
		2	風土と建築	2 高村 雅彦	C D			
		2	デザイン史	2 有元 正存	C D			
		2	福祉工学	2 山下 紘正	C D			
		2	地図とGIS	2 宮下清栄・丸山智康・石田恵一	B			
		2	ランドスケープデザイン	2 小木曾 裕	A B			
		2	都市・地域政策	2 土屋 愛自	A			
		2	環境工学	2 出口 清孝	A B			
		2	テクニカルライティング	2 (X) 大友敬三 (Y) 浅川英理子	C D			
		2	数理統計学	2 牧野 倫子	A B			
		3	タウンマネジメント	2 宮下清栄・藤澤浩子・長野浩子・土屋愛自	C			
		2	マテリアルサイエンス	2 岩瀬 扶佐子	A B			
		3	公共空間デザイン及演習	3 高見公雄・佐藤康三・下吹越武人・伊藤登・杉浦榮	C D			
		3	品質マネジメント	2 池庄司 雅臣	C D			
		2	Design Basics in English	2 ボリヴァン・ディン	C D			

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択必修	備考
専門科目	学科基礎科目	1 導入ゼミナール (SD)	1	(X) 土屋雅人・安積伸・岩月正見・西岡靖之 (Y) 佐藤康三・小林尚登・竹内則雄・田中豊・ 野々部宏司 (補講) 田中豊	A B	◎		学科基礎 科目から 26 単位以上
		1 基礎デザイン制作	2	(X) 土屋雅人・水谷成・早川貴章・小日向千秋 (Y) 土屋雅人・高橋克実・川見充彦・竹野美奈 子	A B			
		1 システムデザイン入門	2	安積伸・岩月正見・小林尚登・佐藤康三・竹内則 雄・田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司	A	◎		
		1 デザインスタジオ 1 (SD)	2	安積伸・岩月正見・小林尚登・田中豊・ 秋山かおり・片山典子	A B	◎		
		1 デザインスタジオ 2 (SD)	2	佐藤康三・谷口武司・相川真実・竹内則雄・ 西岡靖之	C D	◎		
		1・2 デザイン理論 (SD)	2	秋元 淳	C D			
		1・2 色彩論	2	大高 知子	A B			
		1・2 図形科学基礎演習	1	(X) (Y) 梶本 博司・石橋 忠人	C D			
		1・2 データ処理基礎演習	1	(X) 野々部 宏司 (Y) 野々部 宏司	D			
		1・2 プログラミング基礎演習	1	(X) 竹内 則雄 (Y) 三木 茂	C			
		1・2 デジタルデザイン演習	1	(X) 土屋 雅人 (Y) 高橋 克実	C			
		2 テクノロジー基礎論	2	小林尚登・竹内則雄・田中豊・岩月正見	A B	◎		3 年進級時に いずれか 4 単 位以上必要
		2 マネジメント基礎論	2	西岡 靖之	A B	◎		
		2 クリエーション基礎論	2	佐藤 康三・土屋 雅人	D	◎		
		2 プレゼンテーション技術	1	(X) 豊島 純子 (Y) 豊島 純子	C D			
		2 メカトロニクス演習	1	岩月 正見・小林 尚登・田中 豊	C			
		2 マーケティング演習	2	野々部 宏司・遊橋 裕泰	A B			
		2 造形デザイン実習制作	2	佐藤康三・梶本博司・宮沢哲・谷口武司	A B			
		2 ヒューマンセンターデザイン 演習	2	安積 伸・秋山 かおり・吉泉 聡	C D			
		2 3D モデリング (クリエイション系)	2	(X) 渡辺 仙一郎 (Y) 村田 桂太	A B			* ヒューマンセン ターデザイン演習は BD 期に実施
		2 プログラミング (クリエイション系)	1	(X) 右城 香苗 (Y) 馬場 祐人	A			
		2 インタフェースデザイン	2	土屋 雅人	C			
		2 3D モデリング (テクノロジー系)	2	(X) 高橋 和樹 (Y) 高橋 和樹	C D			
		2 プログラミング (テクノロジー系)	1	(X) 三木 茂 (Y) 馬場 祐人	B			
		2 ロボットデザイン	2	小林 尚登	A			
		2 メカトロニクス	2	田中 豊	D			
		2 機械の機構と設計	2	五嶋 裕之	B			学科科目 (選択科目) から 15 単位以上
		2 材料と構造のデザイン	2	竹内 則雄	D			
		2 熱と流れのデザイン	2	田中 豊	C			
		2 コストマネジメント	2	井上 慶太	C D			
		2 生産システムデザイン	2	日比野 浩典	B			
		2 オペレーションズリサーチ	2	野々部 宏司	C			
		2 海外英語研修	5	現地教員	C			
	学科科目	2 3D モデリング (クリエイション系)	2	(X) 渡辺 仙一郎 (Y) 村田 桂太	A B			* 海外英語研修はガイ ダンス出席必須。単位認定 は 2 年次履修者のみ。
		2 プログラミング (クリエイション系)	1	(X) 右城 香苗 (Y) 馬場 祐人	A			
		2 インタフェースデザイン	2	土屋 雅人	C			
		2 3D モデリング (テクノロジー系)	2	(X) 高橋 和樹 (Y) 高橋 和樹	C D			
		2 プログラミング (テクノロジー系)	1	(X) 三木 茂 (Y) 馬場 祐人	B			
		2 ロボットデザイン	2	小林 尚登	A			
		2 メカトロニクス	2	田中 豊	D			
		2 機械の機構と設計	2	五嶋 裕之	B			
		2 材料と構造のデザイン	2	竹内 則雄	D			

区分	学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考
専門科目	学科科目	3	ゼミナール 1	2	安積伸・小林尚登・岩月正見・佐藤康三・竹内則雄・ 田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司	A B	◎	4 年進級時に必要
		3	ゼミナール 2	2	安積伸・小林尚登・岩月正見・佐藤康三・竹内則雄・ 田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司	C D	◎	
		3	プロジェクト実習・制作 1	2	(A 期) 安積伸・岩月正見・佐藤康三・ 土屋雅人・西岡靖之 (B 期) 小林尚登・竹内則雄・田中豊・ 野々部宏司	A B	◎	
		3	プロジェクト実習・制作 2	4	(1) 安積伸・佐藤康三・竹内則雄・土屋雅人・ 野々部宏司 (2) 岩月正見・小林尚登・田中豊・西岡靖之	C D	◎	
		3・4	未来予測デザイン演習	1	安積 伸・三浦 秀彦	D		クリエイション系から 5 単位以上
		3・4	応用色彩工学	2	淵田 隆義	A B		
		3・4	プロダクトデザイン理論	2	佐藤 康三	A		
		3・4	デザインシンキング	2	安積 伸・三浦 秀彦	C		
		3・4	デザインケーススタディ	2	佐藤 康三・土屋 雅人	C D		
		3・4	プロジェクトマネジメント (SD)	2	永田 義昭・村上 孝史	A B		マネジメント系から 5 単位以上
		3・4	システム工学	2	森 健一郎	B		
		3・4	ビジネスモデルデザイン	2	西岡 靖之	A		
		3・4	サプライチェーンデザイン	2	朴 成浩	A B		
		3・4	情報システムデザイン	2	田岡 賢輔	C D		
		3・4	Web デザイン演習	1	関口 和真	D		テクノロジー系から 5 単位以上
		3・4	3 D C G プログラミング	2	岩月 正見	A		
		3・4	メカニズムデザイン演習	1	田中 豊・竹内 則雄	A		
		3・4	映像情報処理	2	岩月 正見	B		
		3・4	プロトタイピング演習	1	水野 操	C		
		3・4	デジタルエンジニアリング演習	1	竹内 則雄	B		
		3・4	組込制御プログラミング演習	1	小林 尚登	B		
		3・4	素材と機能	2	岩瀬 扶佐子	C D		
		3・4	スマートマシン設計	2	梶田秀司・黒河治久・荒井裕彦・吉見隆	C D		
		3・4	インターンシップ (SD)	2	小林 尚登・土屋 雅人・西岡 靖之	C D		学科科目(選 択科目)から 15 単位以上
		4	応用プロジェクト 1	2	安積伸・岩月正見・小林尚登・佐藤康三・竹内則雄・ 田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司	A B		
		4	応用プロジェクト 2	2	安積伸・岩月正見・小林尚登・佐藤康三・竹内則雄・ 田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司	C		
		4	卒業研究・卒業制作 1	4	安積伸・岩月正見・小林尚登・佐藤康三・竹内則雄・ 田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司・久世迅・宮武久佳	A B (CD)	◎	

区分		学年	科目名	単位	2018 年度担当者	開講 期間	必修	選択 必修	備考
専門科目	学科科目	4	卒業研究・卒業制作 2	4	安積伸・岩月正見・小林尚登・佐藤康三・竹内則雄・田中豊・土屋雅人・西岡靖之・野々部宏司	C D (AB)	◎		
	特別科目	3・4	特別講義	2	—	休講			

※担当者は変更になる場合があります。

第4章 履修上の注意

1. GPA制度

学生が取得したGPAは以下のような目的に利用します。

- ① 大学等からの成績優秀者に対する表彰にあたって、学科選考時にGPAを参考にします。
- ② 就職等における学内選考に際して、GPAを基準に判定します。
- ③ 学内推薦入試によって大学院に進学する際、GPAをもとに判定します。

2. 大学院進学

学部卒業後、より一層高度な学術的研究または能力を身につけたい学生のために大学院が設置されています。また、他研究科に進学することも可能です。近年では、工学系の場合、就職等において修士の学位は欠かせない条件である場合が多くなっています。

大学の4年間は、システムデザインという学問領域を知り、それを学ぶ期間であるといえます。つまり、学生諸君は、この4年間で知識を自分自身に“インプット”し続けていかなければなりません。そして、卒業後に企業やその他の新しい環境の中でそれをもとに活躍するわけです。

一方で、システムデザインという新しい分野を、より深めたい学生、あるいはシステムデザインに関する様々なアイデアや新しい知識を、世の中にむけて“アウトプット”したい学生は、大学院に進学します。

大学院では、学部4年間と異なり、学ぶだけでは修士の学位はもらえません。学生ひとりひとりが、オリジナルな何かを、社会にむけて提案し、それが評価されることが求められます。教員や大学のスタッフ、あるいは非常勤講師の協力を得ながら、自分の作品、自分の研究、あるいは自分自身の価値ある“何か”を形として残すことは、企業に就職した後では難しいものです。

なお、募集人員など詳細については、大学院入試要項等を参照してください。

大学院カリキュラム

デザイン工学研究科システムデザイン専攻のカリキュラムは、共通基盤科目、基盤科目、専門科目、スタジオ科目、そしてプロジェクト科目によって構成されています。

たとえば、本年度の専門科目のカリキュラムは以下の通りです。（これは現時点のもので、4年後は変わっている可能性があります。）

大学院専門科目（デザイン工学研究科システムデザイン専攻）	
ソシオシステムデザイン論	可視化情報処理論
インダストリアルデザイン論	構造デザイン論
インタフェースデザイン論	生産システム経営論
ヒューマニティデザイン論	プロダクションデザイン論
製品デザイン原論	マネジメントサイエンス論
マンマシンデザイン論	システム工学論
知能機械デザイン論	品質マネジメント論
知能情報技術論	

3. 資格

本学では、下記のような特別の資格を取得するための課程が設けてあります。これらの資格取得希望者は窓口にご相談下さい。

- ① 図書館司書
- ② 学校図書館司書教諭
- ③ 社会教育主事
- ④ 博物館学芸員

これ以外にも、国や民間などで様々な資格が設けられています。学生時代にとれる資格もあれば、一定期間の実務経験の必要な資格など様々です。将来を考えて、資格の取得の計画と立ててください。以下に代表的な資格を示しますが、詳細ならびに問い合わせは各団体のホームページをご覧ください。

1. 情報処理技術者 (<http://www.jitec.jp/>)

I Tパスポート、基本情報技術者、応用情報技術者、I Tストラテジスト、システムアーキテクト、プロジェクトマネジャー、ネットワークスペシャリスト、データベーススペシャリスト、エンベデッドシステムスペシャリスト、情報セキュリティスペシャリスト、I Tサービスマネージャ、システム監査技術者があります。

2. 画像情報技能検定 (C G部門) (<http://www.cgarts.or.jp/>)

「C Gクリエイター検定」、「C Gエンジニア検定」、「W e bデザイナー検定」、「画像処理エンジニア検定」、「マルチメディア検定」の5つの検定があります。各検定は、ベーシックとエキスパートが設けられています。

3. インテリアコーディネータ (<http://www.interior.or.jp/>)

第5章 カリキュラム

1. 各年次の科目構成

システムデザイン学科では、システムデザインを学ぶためのカリキュラムとして、演習科目、講義科目、制作実習科目など、豊富なメニューを用意しています。システムデザイン学科生としての4年間の大まかな流れは以下のようになっています。

学年／期		内 容
1 年	春学期	まずは、スタートアップとして、工学的な基礎やシステムデザインの基礎を学びます。
	秋学期	引き続き基礎を習得するとともに、システムデザイン分野の内容の基本を理解します。
2 年	春学期	システムデザインの3つの系で必要となる基礎理論を学び、それらの理論とデザインとの関係を理解します。
	秋学期	演習や講義科目によって、すべての系の基礎的な理論と手法を確実に習得していきます。
3 年	春学期	演習や制作実習を本格的に実施することで、システムをデザインするための方法論を実践していきます。
	秋学期	ゼミに配属することで、自分に合った系についてより専門的な内容を学んでいきます。
4 年	春学期	応用プロジェクトや卒業制作プロジェクトを通して、社会において実践可能な技術や手法を開発します。
	秋学期	4年間の学問の集大成として、卒業研究・卒業論文をまとめ新しいシステムデザイン実績を発表します。

2. どのような科目があるのか？

“システムデザイン”は、基盤科目を、文字通り基盤として学んだ上で、専門科目を1年次から順に学んでいく必要があります。以下に、1年次から順にどのような科目があるかを見てみましょう。

1 年次

基盤科目・外国語科目	専門科目
数学 1	導入ゼミナール（SD）
数学 2	基礎デザイン制作
物理 1	システムデザイン入門
物理 2	デザインスタジオ 1（SD）
数理演習 1	デザインスタジオ 2（SD）
数理演習 2	デザイン理論（SD）
バイオエンジニアリング	色彩論
ケミカルエンジニアリング	図形科学基礎演習
英語 1	データ処理基礎演習
英語 2	プログラミング基礎演習
英語 3	デジタルデザイン演習
英語 4	デザイン文化論（学部科目）

2 年次

講義科目		演習・実習科目
テクノロジー基礎論	コストマネジメント	メカトロニクス演習
マネジメント基礎論	生産システムデザイン	マーケティング演習
クリエーション基礎論	オペレーションズリサーチ	造形デザイン実習制作
インタフェースデザイン	デザイン史（学部科目）	ヒューマンセンタードデザイン演習
ロボットデザイン	福祉工学（学部科目）	プレゼンテーション技術
メカトロニクス	数理統計学（学部科目）	3Dモデリング（クリエーション系）
機械の機構と設計	マテリアルサイエンス（学部科目）	3Dモデリング（テクノロジー系）
材料と構造のデザイン		プログラミング（クリエーション系）
熱と流れのデザイン		プログラミング（テクノロジー系）

3 年次

講義科目		演習・実習科目
ゼミナール 1	スマートマシン設計	プロジェクト実習・制作 1
ゼミナール 2	プロジェクトマネジメント（SD）	プロジェクト実習・制作 2
応用色彩工学	システム工学	インターンシップ（SD）
プロダクトデザイン理論	ビジネスモデルデザイン	未来予測デザイン演習
デザインシンキング	サプライチェーンデザイン	メカニズムデザイン演習
デザインケーススタディ	情報システムデザイン	プロトタイピング演習
3DCGプログラミング	品質マネジメント（学部科目）	デジタルエンジニアリング演習
映像情報処理		組込制御プログラミング演習
素材と機能		Webデザイン演習

4 年次

系横断型科目	系探求型科目
応用プロジェクト 1	卒業研究・卒業制作 1
応用プロジェクト 2	卒業研究・卒業制作 2

専門科目は、さらに、主に 2 年次に履修する専門基礎科目と、それ以外の専門科目に分かれています。また、それぞれの科目は、講義科目、演習科目、実験実習科目のいずれかに分類されます。

3. 演習科目で実技を磨く

システムデザインは、座学（講義によって深く考える）タイプの科目と、実学（考えを実践してより視野を広げる）タイプの科目があります。前者は講義科目、後者は演習・実習科目です。

特に、システムデザイン学科のカリキュラムは演習・実習科目が充実しています。以下に、1 年次から 4 年次まで、どのような演習・実習科目が用意されているかを紹介します（配当期は変更になることがあります）。演習・実習科目の中ではグループワークが多く、それらを通して他の仲間と触れ合うことで人間力を磨きます。

1 年次

A 期（春学期前半）	B 期（春学期後半）	C 期（秋学期前半）	D 期（秋学期後半）
導入ゼミナール		プログラミング基礎演習	データ処理基礎演習
基礎デザイン制作		図形科学基礎演習	
デザインスタジオ 1		デザインスタジオ 2	
		デジタルデザイン演習	数理演習 1
			数理演習 2

2 年次

A 期（春学期前半）	B 期（春学期後半）	C 期（秋学期前半）	D 期（秋学期後半）
マーケティング演習		ヒューマンセンタードesign演習	
造形デザイン実習制作		プレゼンテーション技術	
3Dモデリング（テクノロジー）		3Dモデリング（クリエイション）	
プログラミング （クリエイション）	プログラミング （テクノロジー）	メカトロニクス演習	

3 年次

A 期（春学期前半）	B 期（春学期後半）	C 期（秋学期前半）	D 期（秋学期後半）
プロジェクト実習・制作 1		プロジェクト実習・制作 2	
メカニズムデザイン演習	デジタルエンジニアリング演習	インターンシップ（夏季集中）	
	組込制御プログラミング演習	プロトタイピング演習	未来予測デザイン演習
			Webデザイン演習

4 年次

A 期（春学期前半）	B 期（春学期後半）	C 期（秋学期前半）	D 期（秋学期後半）
卒業研究・卒業制作 1		卒業研究・卒業制作 2	
応用プロジェクト 1		応用プロジェクト 2	

4. 履修上の注意

本学科のカリキュラムでは、外国語科目・基盤科目・専門科目の必修科目の単位数は41単位（外国語科目8単位＋基盤科目2単位＋専門科目31単位）のみです。卒業には124単位以上（外国語科目8単位＋基盤科目20単位以上＋専門82単位以上）必要ですから、残りの83単位については、将来を見据えて計画的に履修しなくてはなりません。必修単位は取得したものの、選択科目の単位数が足りずに卒業要件を満たさないといったことも起こります。また、複数学年にまたがって配当されている科目も数多くあります。これらの科目をどの学年で履修するかも、皆さんの選択に任されています。

専門科目の学科科目は、ゼミナールやプロジェクト実習・制作などを除くほとんどの科目が、クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系のいずれかに分類されています。科目配当表にも記載していますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。（ただし、この分類は明確なものではなく、おおよその目安と考えてください。どの科目も完全に独立しているわけではなく、複数の分野にまたがる科目もあります。）特定の分野を重点的に履修し、専門的な能力を身につけることも大切ですが、その一方で、できるだけ多くの分野を学び、「ものづくり」の本質を学ぶことも重要です。

これらのことを考慮し、十分検討した上で、無理のない履修計画を立ててください。なお、履修計画に関して、不明な点がありましたら、担任に相談してください。担任は、皆さんの考えを聞いて適切なアドバイスを行います。

5. 各系の流れ

システムデザインは、3つの系で構成されています。3年生になると、学生諸君は、それぞれの系に進むかの選択を行わなければなりません。ただし、能力と適性などから、必ずしも希望の系に進めるとは限らないので、日ごろから勉学に励み、担当の教員などとも積極的にコミュニケーションをとっておいてください。

以下に系ごとの視点からみた、カリキュラムの流れを示します。それぞれの系の中で、前提となる科目や難易度の前後関係がある場合などは、注意が必要となります。

クリエイション系

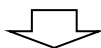
クリエイション系は、比較的演習科目が多いという特徴があります。また、演習や実習の中で、早い学年のうちから、できるだけ多く作品を制作できるように配慮されています。将来、商品やサービスのデザイナーや企画コンサルティングで身を立てたい学生の場合、3年生が終わるころには、自分オリジナルのポートフォリオ（作品集）が出来上がっていなければなりません。

■ 1 年生（春学期）

導入	◎ システムデザイン入門 ◎ 導入ゼミナール
演習	◎ デザINSTAジオ 1 ○ 基礎デザイン制作

■ 1 年生（秋学期）

演習	◎ デザINSTAジオ 2 ○ デジタルデザイン演習 → 図形科学基礎演習 → データ処理基礎演習 → プログラミング基礎演習
----	---

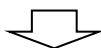


■ 2 年生（春学期）

演習	○ 造形デザイン実習制作 ○ プログラミング（クリエイション） → 3Dモデリング（テクノロジー） → マーケティング演習
講義	→ テクノロジー基礎論 → マネジメント基礎論 → 生産システムデザイン

■ 2 年生（秋学期）

演習	○ ヒューマンセンタードデザイン演習 ○ 3Dモデリング（クリエイション） → プレゼンテーション技術
講義	◎ クリエーション基礎論 ○ インタフェースデザイン ○ デザイン史（学部科目） → コストマネジメント

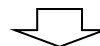


■ 3 年生（春学期）

演習	◎ プロジェクト実習・制作 1 → プロトタイピング演習
講義	◎ ゼミナール 1 ○ 応用色彩工学 ○ プロダクトデザイン理論 → ビジネスモデルデザイン

■ 3 年生（秋学期）

演習	◎ プロジェクト実習・制作 2 ○ インターンシップ ○ 未来予測デザイン演習 → Webデザイン演習
講義	◎ ゼミナール 2 ○ デザインシンキング ○ デザインケーススタディ → 素材と機能



■ 4 年生（春学期）

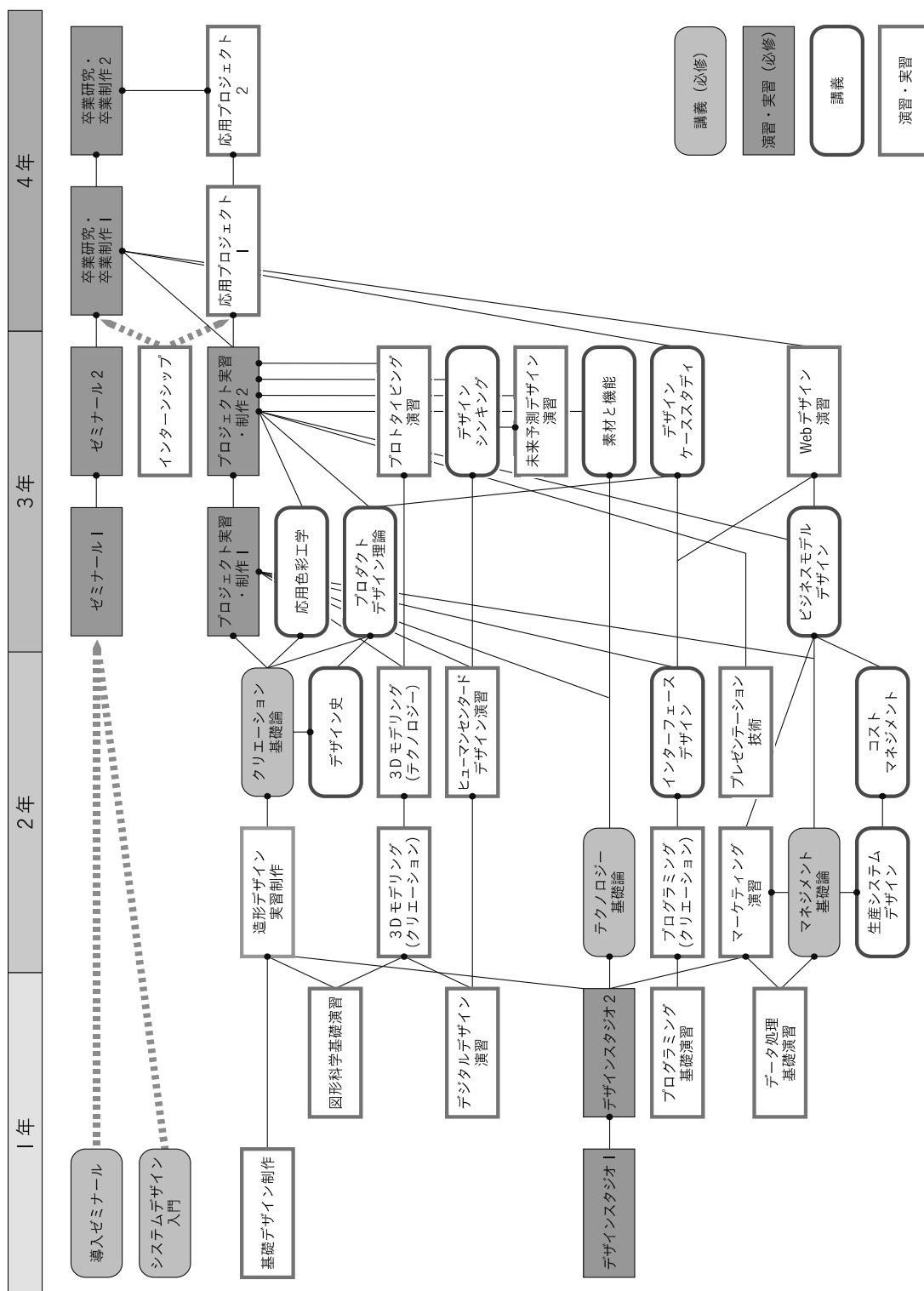
総合	◎ 卒業研究・卒業制作 1 ○ 応用プロジェクト 1 ○ 応用プロジェクト 2
----	---

■ 4 年生（秋学期）

総合	◎ 卒業研究・卒業制作 2
----	---------------

（注）上記の図において、“◎”は、この系にとって非常に重要な必修科目であることを示しています。また、“→”は、主たる内容は他の系に属する内容であるが、この系にとっても重要な科目であることを示します。

カリキュラムツリー：クリエーション系



テクノロジー系

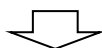
テクノロジー系は、演習科目も重要ですが、それ以上に工学的な基礎および専門的なエンジニアリング知識が必要となります。したがって、他の系と比較して、特に2年次、3年次に多くの講義科目が設定されています。エンジニアをめざす学生は、大学院への進学をも想定しながら、しっかりと基礎的な知識を習得しておく必要があります。

■ 1年生（春学期）

導入	◎ システムデザイン入門 ◎ 導入ゼミナール
演習	◎ デザインスタジオ 1 ○ 基礎デザイン制作

■ 1年生（秋学期）

演習	◎ デザインスタジオ 2 ○ 図形科学基礎演習 ○ プログラミング基礎演習 → デジタルデザイン演習 → データ処理基礎演習
----	--

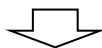


■ 2年生（春学期）

演習	○ 3Dモデリング（テクノロジー） ○ プログラミング（テクノロジー） → 造形デザイン実習制作 → マーケティング演習
講義	◎ テクノロジー基礎論 → マネジメント基礎論 ○ ロボットデザイン ○ 機械の機構と設計 ○ マテリアルサイエンス（学部科目）

■ 2年生（秋学期）

演習	○ メカトロニクス演習 → 3Dモデリング（クリエイション） → プレゼンテーション技術
講義	→ クリエーション基礎論 ○ メカトロニクス ○ 材料と構造のデザイン ○ 熱と流れのデザイン ○ 福祉工学（学部科目）

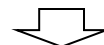


■ 3年生（春学期）

演習	◎ プロジェクト実習・制作 1 ○ メカニズムデザイン演習 ○ プロトタイピング演習 ○ デジタルエンジニアリング演習 ○ 組込制御プログラミング演習
講義	◎ ゼミナール 1 ○ 3DCGプログラミング ○ 映像情報処理

■ 3年生（秋学期）

演習	◎ プロジェクト実習・制作 2 ○ インターンシップ
講義	◎ ゼミナール 2 ○ 素材と機能 ○ スマートマシン設計 → 情報システムデザイン



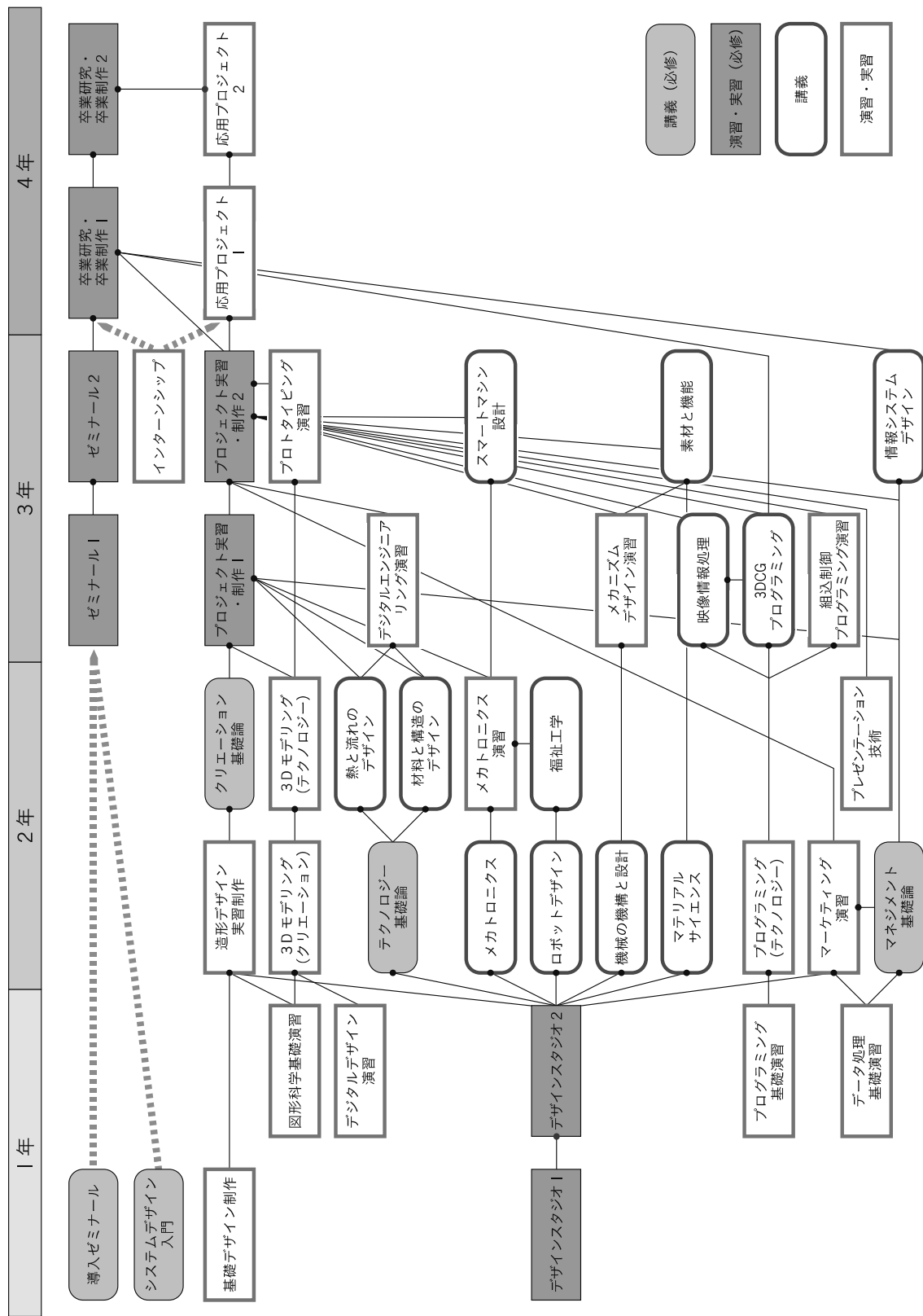
■ 4年生（春学期）

総合	◎ 卒業研究・卒業制作 1 ○ 応用プロジェクト 1 ○ 応用プロジェクト 2
----	---

■ 4年生（秋学期）

総合	◎ 卒業研究・卒業制作 2
----	---------------

カリキュラムツリー：テクノロジース系



マネジメント系

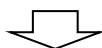
マネジメント系では、クリエイション系およびテクノロジー系を横断した思考と、幅の広い知識が必要とされるため、専門を深めるタイプの科目よりは、個々の専門技術の応用のために必要となる知識に比重が置かれています。逆にいえば、他の系を専攻する学生にとっても、システムデザインを学ぶために必要不可欠なものが多く提供されています。

■ 1 年生（春学期）

導入	◎ システムデザイン入門 ◎ 導入ゼミナール
演習	→ デザインスタジオ 1 → 基礎デザイン制作

■ 1 年生（秋学期）

演習	◎ デザインスタジオ 2 ○ データ処理基礎演習 → デジタルデザイン演習 → プログラミング基礎演習 → 図形科学基礎演習
----	--

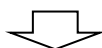


■ 2 年生（春学期）

演習	○ マーケティング演習 → 造形デザイン実習制作 → プログラミング（クリエイション） → 3Dモデリング（テクノロジー）
講義	◎ マネジメント基礎論 → テクノロジー基礎論 ○ 生産システムデザイン ○ 数理統計学（学部科目）

■ 2 年生（秋学期）

演習	→ ヒューマンセンタードデザイン演習 → 3Dモデリング（クリエイション） → プレゼンテーション技術
講義	→ クリエーション基礎論 ○ コストマネジメント ○ オペレーションズリサーチ

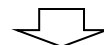


■ 3 年生（春学期）

演習	◎ プロジェクト実習・制作 1 → プロトタイピング演習
講義	◎ ゼミナール 1 ○ プロジェクトマネジメント ○ システム工学 ○ ビジネスモデルデザイン ○ サプライチェーンデザイン

■ 3 年生（秋学期）

演習	◎ プロジェクト実習・制作 2 ○ インターンシップ → 未来予測デザイン演習 ○ Webデザイン演習
講義	◎ ゼミナール 2 ○ 情報システムデザイン ○ 品質マネジメント（学部科目）



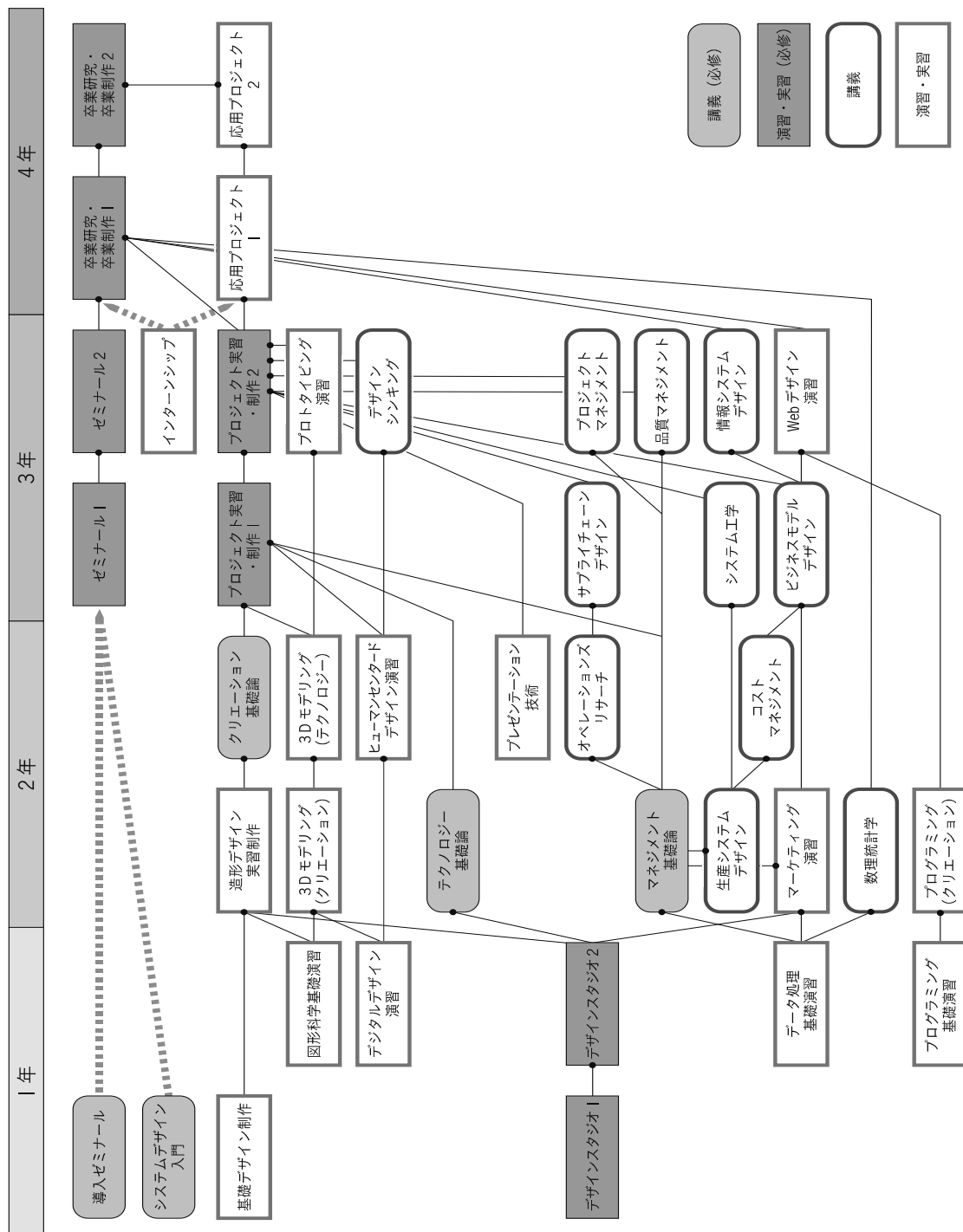
■ 4 年生（春学期）

総合	◎ 卒業研究・卒業制作 1 ○ 応用プロジェクト 1 ○ 応用プロジェクト 2
----	---

■ 4 年生（秋学期）

総合	◎ 卒業研究・卒業制作 2
----	---------------

カリキュラムツリー：マネジメント系



カリキュラムマップ

各科目が属するディプロマポリシーに○を付記しています。

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー				
			ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見できる	問題解決のための具体的なモノやコトを構成し提案できる	人間中心に「もの・システム」をデザインできる	環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる	国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる
外国語科目	1	英語 1					○
	1	英語 2					○
	1	英語 3					○
	1	英語 4					○
	1~4	英語 1 (補講)					○
	1~4	英語 2 (補講)					○
	1~4	英語 3 (補講)					○
	1~4	英語 4 (補講)					○
	1~4	財務会計					○
	1~4	マーケティング					○
経営系	1~4	国際社会論					○
	1~4	エコノミクス					○
	1~4	法学(日本国憲法)				○	
	1~4	法と現代社会				○	
	1~4	知的財産権					○
	1~4	技術者倫理					○
	1~4	開発と国際協力					○
	1~4	文化と文明				○	
	1~4	認知科学			○		
	1~4	イタリア語・イタリア文化					○
人文系	1~4	中国語・中国文化					○
	1~4	環境とエネルギー				○	
	1・2	数学 1		○			
	1・2	数学 2		○			
	1・2	物理 1		○			
	1・2	物理 2		○			
	1・2	数理演習 1		○			
	1・2	数理演習 2		○			
	1~4	バイオエンジニアリング				○	
	1~4	ケミカルエンジニアリング				○	
工学系	1・2	スポーツ総合演習				○	
	1~4	日本語 1					○
	1~4	日本語 2					○
	1~4	日本語 3					○
	1~4	日本語 4					○
	1~4	日本文化論					○
	1~4	日本の工業技術		○			○
	1~4	一般数学		○			○

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー				
			ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見できる	問題解決のための具体的なモノやコトを構成し提案できる	人間中心に「もの・システム」をデザインできる	環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる	国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる
学 部 科 目	1	デザイン文化論			○		
	2	建築と文化			○		
	2	サステイナブルデザイン				○	
	3	英語表現技術					○
	2	都市デザイン				○	
	2	アーバニズム				○	
	2	風土と建築				○	
	2	デザイン史			○		
	2	福祉工学				○	
	2	地図とGIS		○			
	2	ランドスケープデザイン				○	
	2	都市・地域政策				○	
	2	環境工学				○	
	2	デジタルライティング					○
	2	数理統計学		○			
	3	タウンズネジメント				○	
	2	マテリアルサイエンス		○			
	3	公共空間デザイン及演習				○	
	3	品質マネジメント		○			
学 科 基 礎 科 目	2	Design Basics in English					○
	1	導入セミナー (SD)	○				
	1	基礎デザイン制作		○			
	1	システムデザイン入門		○	○		
	1	デザインスタジオ1 (SD)		○			
	1	デザインスタジオ2 (SD)	○				
	1・2	デザイン理論 (SD)			○		
	1・2	色彩論			○		
	1・2	図形科学基礎演習		○			
	1・2	データ処理基礎演習		○			
	1・2	プログラミング基礎演習		○			
	1・2	デジタルデザイン演習		○			
	2	テクノロジー基礎論		○			
	2	マネジメント基礎論					
	2	クリエイション基礎論			○		○
	2	プレゼンテーション技術					
	2	マイクロエレクトロニクス演習		○			
専 門 科 目	2	マーケティング演習			○		
	2	造形デザイン実習制作			○		
	2	ヒューマンセンタードデザイン演習	○		○		
	2	3Dモデリング (クリエイション系)		○			
	2	プログラミング (クリエイション系)		○			
	2	インタフェースデザイン			○		
	2	3Dモデリング (テクノロジー系)		○			
	2	プログラミング (テクノロジー系)		○			
	2	ロボットデザイン		○			
	2	マイクロエレクトロニクス		○			

区分	学年	科目名	ディプロマポリシー				
			ものごとを、様々な要素が複雑に関係しあうシステムとしてとらえ、その中から問題を発見できる	問題解決のための具体的なモノやコトを構成し提案できる	人間中心に「もの・システム」をデザインできる	環境・健康・福祉・公共の安全を理解できる	国際的な視野に立って判断ができ、技術者として説明責任を果たすことができる
学 科 科 目	2	機械の機構と設計					
	2	材料と構造のデザイン		○			
	2	熱と流れのデザイン		○			
	2	コストマネジメント		○			
	2	生産システムデザイン		○			
	2	オペレーションズリサーチ		○			
	2	海外英語研修					○
	3	ゼミナール1	○	○	○	○	
	3	ゼミナール2	○	○	○	○	
	3	プロジェクト実習・制作1	○	○	○	○	
	3	プロジェクト実習・制作2	○	○	○	○	○
	3・4	未来予測デザイン演習	○	○	○		
	3・4	応用色彩工学		○			
	3・4	プロダクトデザイン理論		○			
	3・4	デザインシンキング	○	○	○		
	3・4	デザインケーススタディ	○	○	○		
	3・4	プロジェクトマネジメント (SD)		○			
	3・4	システム工学	○	○			
	3・4	ビジネスモデルデザイン		○			
	3・4	サブライチーデンデザイン		○			
	3・4	情報システムデザイン		○			
	3・4	Webデザイン演習		○			
	3・4	3DCGプログラミング		○			
	3・4	メカニズムデザイン演習		○			
	3・4	映像情報処理		○			
	3・4	プロトタイプング演習		○			
	3・4	デジタルエンジニアリング演習		○			
	3・4	組込制御プログラミング演習		○			
	3・4	素材と機能		○			
	3・4	スマートマシン設計		○			
	3・4	インタラクション (SD)	○	○	○	○	○
	4	応用プロジェクト1	○	○	○	○	○
	4	応用プロジェクト2	○	○	○	○	○
	4	卒業研究・卒業制作1	○	○	○	○	○
	4	卒業研究・卒業制作2	○	○	○	○	○

6. 何をどう学ぶのか？（履修科目の特徴）

導入科目

まず、1年生は、システムデザインの概要を知り、また、大学で学ぶということの意味と方法を知るために、導入教育が実施されます。導入教育のための科目としては、「導入ゼミナール」、「システムデザイン入門」および「基礎デザイン制作」があります。

■導入ゼミナール

大学で学ぶための基本的な事項について、10名程度の少人数のクラスに分かれて学習します。ここで担当する教員は、皆さんのクラス担任として4年間、様々な相談等にも対応することになります。

■システムデザイン入門

システムデザインという学問分野についての導入として、基本的な考え方を理解します。各系の専任教員から、システムデザインの基礎知識に関する講義を受け、その応用範囲について学びます。

■基礎デザイン制作

ものづくりのための基本知識を学ぶとともに、実習の中で、さまざまな構造物を実際に制作し、材料、寸法、荷重、加工方法などの物理的条件を考慮した立体的で美しい形態を表現できる造形力を身に付けます。

さらに、入門科目として、1年生の間に、「デザインスタジオ1」および「デザインスタジオ2」を履修しなければなりません。これらは、クリエイション、テクノロジー、そしてマネジメントのそれぞれの系で必要とされる概念を、演習を通して学ぶことを目的としています。

■デザインスタジオ1

クリエイション系とテクノロジー系の2つのクラスに分かれ、少人数制で個別の課題を行っていきます。クリエイション系では、アイデアを具体的に表現するためのデッサンについて学び、テクノロジー系では、自然法則を考慮した製品設計のための工学の基礎を学びます。

■デザインスタジオ2

クリエイション系、テクノロジー系、そしてマネジメント系の3グループに分かれ、各系の課題をこなします。クリエイション系では、造形の基礎を学び、テクノロジー系では、製品設計における各種解析の入門を学び、マネジメント系では、問題発見と問題解決の基本型を学びます。

演習科目

1年次の後半および2年次から、システムデザインのための多様な演習科目を履修していきます。演習科目は、基礎科目としての演習と、実践科目としての演習の2種類あり、基礎科目としての演習は、2年次までに履修してください。また、基礎科目としての演習は、すべての系のものをバランスよく履修することが必要となります。以下に、いくつか特徴的なものを挙げましょう。

■図形科学基礎演習

インダストリアルデザインや製品設計に必要な図面を作成するための作図技法の基本を学び、2次元のデジタル図面（CAD）の操作も習得します。

■データ処理基礎演習

大量のデータを整理し、そこから必要な情報を取り出すために、確率や統計の理論を用いたデータ解析の基礎を学び、表計算ソフト等を用いた演習を行います。

■プログラミング基礎演習

簡易言語であるVisual Basicを用いて、表計算ソフトの機能をさらに強化するためのアドイン・プログラミングを行うための技術を学びます。

■デジタルデザイン演習

コンピュータグラフィックスや画像処理、イラストレーションなどのソフトウェアを横断的に用いて高品質なデジタル作品の制作を行うための技術を学びます。

■プレゼンテーション技術

いかに自分の考えを相手に伝え、理解してもらうか、に関する技術を徹底的に突きつめ、高度なプレゼンテーション能力を養います。

■メカトロニクス演習

実習用ロボットキットを用いて、機械と電子あるいはそれらを結びつける制御機器の動作原理と、その設計方法を学びます。

■マーケティング演習

製品企画で重要となるマーケティングの基礎を学び、実際の市場調査を行うことを通して、さまざまなマーケティング技法を習得します。

■造形デザイン実習制作

プロダクトデザインにおけるフォルムと操作性の完成度を高めるために、スタディーモックと呼ばれる手法を用いた演習を行います。

■ヒューマンセンタードデザイン演習

アフォーダンスとデザインの関係や人間工学などを理解し、人を中心においた創造的デザインの概念設計を行う方法を演習によって学びます。

■3Dモデリング

3Dのモデリングソフトを用いて、造形デザインやコンセプト設定方法、そしてエンジニアリング系の3DCADの操作も習得します。

■プログラミング

クリエーション系、エンジニアリング系それぞれについて、プログラミングの基礎を習得し、独自のシステム（作品）を演習の中で開発します。

また、より高度な演習科目として、3年次からはじまる専門科目の演習があります。これらは、それぞれの学生が得意とする系を意識しながら、より実践的な内容の演習を行っていきます。

■未来予測デザイン演習

予測不可能な未来を演繹的・帰納的手法などにより、事象の分析をおこなうことで、視えない未来のデザインコンセプトを具現化し、商品企画やデザインに必要な洞察力を養います。

■プロトタイピング演習

製品デザインのアイデアや機能を、簡単な素材と作業により形にすることで、事前に製品と特長をさまざまな観点から検証する方法を学びます。

■メカニズムデザイン演習

幾何学や一般力学の基本原理をメカニズムの諸問題に適用し、ソフトウェアで可視化しながら問題解決を進めていく方法を学びます。

■デジタルエンジニアリング演習

製品設計におけるコンピュータ上での解析技法として、変形や圧力、流れ、そして機構（モーション）について3Dモデルを用いて実習を行います。

■組込制御プログラミング演習

市販のマイコンのチップと、センサやアクチュエータを用いて、さまざまな制御機器の心臓部を制作する方法を演習によって学びます。

■Webデザイン演習

インターネット上の様々なECサイトや、SNSなどの基本構造を学び、演習を通して実際に動的なサイトを構築する方法を学びます。

講義科目

システムデザインに関する専門分野としての講義科目は、2年次から本格的に開講されていきます。まず、すべての基本となる基礎理論を、2年次で確実に身につけます。システムデザインの基礎は、「クリエーション基礎論」、「テクノロジー基礎論」、そして「マネジメント基礎論」の3つの必修科目によって身につけてください。

■クリエーション基礎論

意匠デザインを実施する際に必要となる、色彩理論や造形理論、あるいは構造理論などについて学びます。また、人間工学、感性工学、そして認知工学との関連や、さらには哲学や西洋美術や東洋美術をもとに美学および意匠論などをふくめて体系的な観点から基礎理論を学びます。

■テクノロジー基礎論

製品開発や設計の中で必要不可欠となっているエンジニアリングの知識として、電気工学や電子工学に関する基礎理論、および機械工学に関する材料力学、熱力学、流体力学などの基礎理論を学び、エンジニアリング全般に関する知識を身に付けます。

■マネジメント基礎論

マーケティング理論、経営戦略論、最適化理論、生産計画理論、コスト管理と原価計算、システム理論、情報工学、問題解決技法、モデリング技法など、マネジメントを実践するために必要となる理論の概要を理解します。

講義科目としては、上記の基礎科目以外にも、個々の専門分野ごとにより深い知識を学ぶための科目が設定されています。また、デザイン工学部の共通科目として設置されている科目を履修することも可能です。

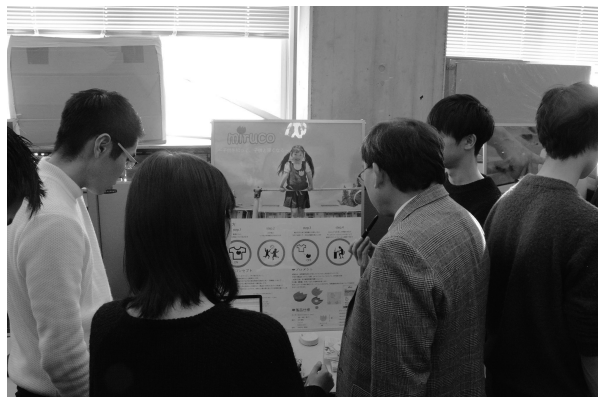
プロジェクト形式の制作実習

3年次の春学期および秋学期を利用して、プロジェクト形式の制作実習を行います。この実習では、提示されたテーマに沿った製品開発、あるいはシステム開発を行い、実際に手に取って動かせるプロトタイプとともに企画書を作成しプレゼンテーションを行います。ここでの目的は、より現実に近い状況の中で、コンセプト作成から最終アウトプット制作までの活動を自らマネジメントしながら進めていく中で、これまでに学んできた多くの理論や手法を、実際に製品開発の中で試していくことで、システムデザインの理解をより深めることにあります。

まず、春学期に開講される「プロジェクト実習・制作1」では、実践プロジェクトの基礎を身につけるための試行プロジェクトを行います。すでに存在している製品を対象として、その製品の詳細をデザイン、テクノロジー、マ

ネジメントの観点から学んだうえで、各自がそれに新しい工夫を加えます。

そして、秋学期に実施される「プロジェクト実習・制作2」では、年度ごとに異なる共通のテーマから出発し、少人数（4～5名）のグループでコンセプト立案の段階から製品開発、システム開発までを実施します。ここでは、与えられた予算と期間の中で、魅力的な製品やサービスを提案、実現することが求められます。最終発表会では、教員や各専門家を前にして、完成した企画および詳細の仕様書をもとに、本格的なプレゼンテーションが実施されます。



プロジェクト実習制作成果発表会および作品展示の風景

応用プロジェクト

学外のコンテストやクラウドファンディングに出品できるような本格的な製品に向けた開発を行います。応用プロジェクト1では、「プロダクト」「アプリケーション」「システム」あるいは「サービス」など、各自がアイデアを創出し、それらのアイデアについて、顧客対象者、背景、類似品などについて徹底的調査し、新規性、有用性、娯楽性、社会性のある企画として最終提案を行い、優秀作品を選出します。

応用プロジェクト2では、有志によるチームを結成し、応用プロジェクト1の中で採用されたアイデア企画を具体的に実現します。優秀な作品に対しては、各種コンテストへ応募や実際のクラウドファンディングに掲載することを目指して、学科が知識供与や予算などの面でバックアップします。

卒業研究・卒業制作

システムデザイン学科では、卒業研究あるいは卒業制作を行い、それを論文や作品の形で提出することが義務付けられています。例年2月に実施される最終審査会において、卒業のためのプレゼンテーションが実施さ

れ、その内容が教員全員によって審査されます。不合格の場合には、1 度のみ再発表の機会が与えられ、それをパスしなければ卒業できません。

卒業研究・卒業制作は、毎年とても素晴らしい内容のものが何件もあります。それらのうち、学会やコンペ等で賞を受賞したものもあります。いずれの場合も、システムデザインの強み、すなわち、クリエイション、テクノロジー、そしてマネジメントのすべての視点を兼ね備えたアプローチをとったことが高い評価につながったのだと思われます。

第6章 海外英語研修

英語コミュニケーションの効果的な学習のためには、英語環境の中で集中して学習することが大切です。しかし、進級のためには基礎科目や専門科目などの他の科目も履修しなければならず、長期間の英語学習環境の設定は難しいのが現実です。そこで、現地で学んだ語学を単位化するとともに、学部学生については、空き時間を利用して、日本から出張した専任教員による専門科目の授業を実施し、国内での履修と遜色のない履修環境で勉学できる海外英語研修プログラムを実施しています。

このプログラムでは、英語が公用語のフィリピンにおける南フィリピン大学と提携を結び、単純にTOEICやTOEFLのスコア・アップを目指すのではなく、日常会話ができるようになることで、英語に対する抵抗感をなくし、英語によるプレゼンテーションやディスカッションを通してグローバル化社会に対応できるデザインエンジニアの育成を目指しています。

1. 派遣先

南フィリピン大学 (University of Southern Philippines Foundation) (<http://uspf.edu.ph/>)

2. 派遣時期

C期 (2018年9月～11月) の50日間

3. 派遣対象学生

システムデザイン学科 2 年生 23名 (2 年生を優先しますが、定員に満たない場合は他学年も可)

システムデザイン専攻修士課程 1・2 年生 4 名

(最小実施人数15名)

4. 単位認定科目

海外英語研修 5単位 (専門科目)

(注) 学部生に対しては、現地で専任教員が実施する専門科目 4 科目 (7 単位) の履修が可能

5. プログラム概要

1) 南フィリピン大学が実施する語学研修

個人レッスン90時間、グループレッスン60時間、合計150時間

2) システムデザイン学科が実施する講義

4.5時間×5日×4科目 = 90時間 (15コマ×4科目)

3) プログラム実施体制

専任教員が交代で現地に常駐し、南フィリピン大学の教員と協力して現地での危機管理にあたります。

6. 研修参加費 (概算)

約30万円 (研修費・宿泊費・渡航費・旅行保険・通学バス・授業日の昼食・エキスカーション 2 回)

(注 1) 上記以外に、現地での食費が必要になります。

(注 2) 宿泊施設は、原則 1 室 2 名となります。

(注 3) 航空機はエコノミークラスです。

7. 宿泊施設 (予定)

Alicia Tower Residences (アリシア タワー レジデンス) を予定

第7章 研究室の紹介

3年次の春学期に履修するゼミナール1では、3つの系からテーマを選び、それぞれ異なるゼミ担当教員のプレゼミを受講します。このプレゼミは、3年次秋学期からの研究室配属のための判断材料となりますが、人数制約などの関係でプレゼミを受講できない場合など、研究室配属において、必ずしも担当教員のプレゼミの受講は必須ではありません。

プレゼミの中で、各研究室の専門分野などに触れ、システムデザイン分野の中で特に興味のある系が見つかった学生は、3年次秋学期のゼミナール2において、希望する系の担当教員の研究室で行うゼミナールに参加してください。ただし、希望人数が多い場合には、成績（GPA）あるいは面接等の評価により、第2希望以下の研究室への配属となる場合もあります。

研究室単位のゼミでは、各教員が独自の教育あるいは研究メニューを用意し、4年次からはじまる卒業研究、卒業制作へむけての準備に取り掛かります。

1. クリエーション系

機能・造形デザイン研究室（佐藤 康三 教授）

プロダクトデザインは人とモノとの新しい関係を創造する行為です。感性、思惟、形象そして工学という基本的な知的思考なしには制作できません。モノ、コト（各種事象）は単独では存立しません。全てのモノ、コトはそれらを取り巻く他との関係性によって始めてそのものの存在意義・価値が見出されていきます。また、進化に伴う人間とそれらの関係性は、時代と共にたえず変化しています。特に今日、時代の価値観は大きく変貌し始めています。人間とモノ、コトとの新しい関係の創出をめざし、新しい「美」、新しい「技術・素材」、そして新しい社会の「質と価値」をうみだすための仮説を可視化し、新時代に求められる様々な解決策をプロダクトデザインの視点より研究していきます。

インタフェースデザイン研究室（土屋 雅人 教授）

IT社会における人とモノとの関わりは、操作を積み重ねるインタラクティブな体験の様相が強まっています。特に、多機能化・ネットワーク化が進む今日のデジタル機器においては、その傾向が顕著であるため、人とモノとの接面となるインタフェースのデザインが、製品価値そのものを決める重要な要因になってきています。操作に掛かる身体的・認知的負担の軽減はもとより、使う楽しさや操作の魅力などを備え、人間の身体感覚をフルに活用した直感的(intuitive)、直接的(direct)、身体的(physical)な次世代インタフェースのコンセプトプランニング、プロトタイピング、ユーザビリティ評価の研究を行っています。

ヒューマニティデザイン研究室（安積 伸 教授）

技術の進化が社会の枠組みや価値観を大きく変えつつある今日、私たちの生活にとって本当に必要なものとは何でしょう。そもそも、今あるこの世界は本当に我々を幸せにしているのでしょうか。デザインとは、現実疑問を投げかけ、有効な代替案を示すひとつの方法だと考えます。また、世界は広く価値観は多様です。同じ事象を捉えても、その反応や解釈は見る者の視点によって大きく異なります。価値観や視点の多様性を意識しながら、人間が長く築いてきた生活の歴史・文化への解釈を深め、人間生活にとって真に価値のあるデザインとは何かを研究します。

2. テクノロジー系

ユニバーサルメカトロデザイン研究室（小林 尚登 教授）

コンピュータや電子回路を機械の中に組み込むことにより高度な機能が実現できます。このようなものをインテリジェントメカトロシステムと呼び、ロボットが典型的な例です。本研究室では、「いつでも」「どこでも」「誰に対しても」良いデザイン、すなわちユニバーサルデザインのコンセプトに沿うかたちで、インテリジェントメカトロシステムを用いて高度な機能を実現する研究を行っています。

シミュレーション環境デザイン研究室（竹内 則雄 教授）

「もの」や「システム」の壊れる状態の予測は安全性の議論において欠かすことができません。こういった立場から、本研究室では、人や環境にやさしく、安全な「もの」や「社会基盤システム」をデザインするための新しいシミュレーション手法の開発を行っています。また、災害低減の立場から社会基盤施設の安全性や適切な形状デザイン等に関する研究、災害時における人間の避難行動に関する研究なども行っています。

高機能メカトロデザイン研究室（田中 豊 教授）

空気や水、油などの流体をパワーや信号の伝達媒体に用いるメカトロシステムは、各種産業機械、生産設備、娯楽施設から医療福祉機器、微小機械にいたるまで幅広く利用されています。本研究室では、人や環境と調和した次世代の高機能なメカトロシステムをデザインするために、「人」と「もの」と「計算機」を結びつけるインタフェースやフルードパワーアクチュエータに関する研究を行っています。

スマートマシンデザイン研究室（岩月 正見 教授）

人間は、2つの目を使って空間を立体的に把握し、いとも簡単に物をつかんだり、障害物をよけたりできます。このような高度な認識機能を機械に実装することにより、実世界と融合した高次の情報を提供するインタフェースや従来実現できなかった機能をもつデバイスを開発しています。また、高度な画像処理技術と、CGで作成された仮想的なオブジェクトを現実世界と融合させる拡張現実感の技術を組み合わせることにより、新しいインタフェースをもつCADやエンターテインメント系のシステムも試作しています。

3. マネジメント系

情報マネジメントデザイン研究室（西岡 靖之 教授）

様々な製品は、実際にそれを必要としているひとにとき、使われることで初めて価値が生まれます。常に、使うひとの要望と作り手の技術とを照らし合わせながら、製品を市場に投入するビジネスモデルが重要となります。ITが企業の形を変えつつある中で、本研究室では、新しい時代に適合したものづくりの形を具体的なシステムとともに研究し、世の中へ向けて提案活動を行っています。

最適化マネジメントデザイン研究室（野々部 宏司 教授）

システムのデザイン・開発・運用において、最適化の概念は重要です。たとえば、「原材料を調達し、製品をつくり、消費者へ届ける」—この一連の活動を行う生産・ロジスティクスシステムを考えてみても、品質、利益、環境負荷、安全、顧客満足度など、様々な指標の最適化が求められます。システムの大規模化、複雑化、そして情報化が進み、人間の経験と勘のみに頼った最適化が困難になる中、本研究室では、コンピュータを活用したシステム最適化の手法について研究を進めています。

第8章 担任制

本学科では、通常授業のクラスとは別に少人数（1学年10名程度）からなるクラス担任制を設けています。入学時から4年まで、同じ専任教員が担当し、履修方法、学習の進め方、進学、就職、クラブ活動、学生生活などのアドバイスを行います。クラス分けは4月のガイダンス時に行いますので、学科の指示に従ってください。担任に相談しにくい場合は、主任や他の教員にアドバイスを受けることもできますので気軽に相談してください。

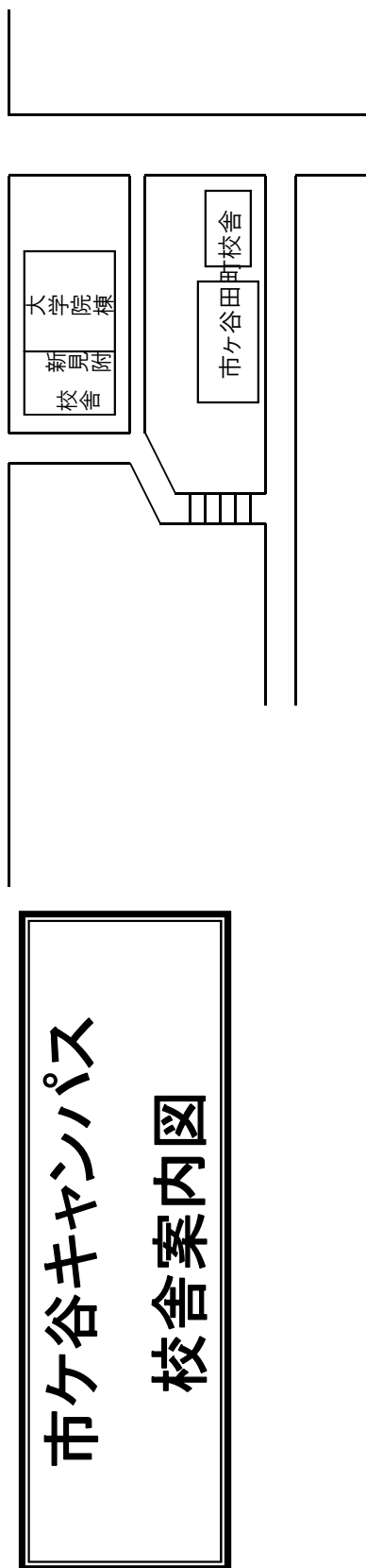
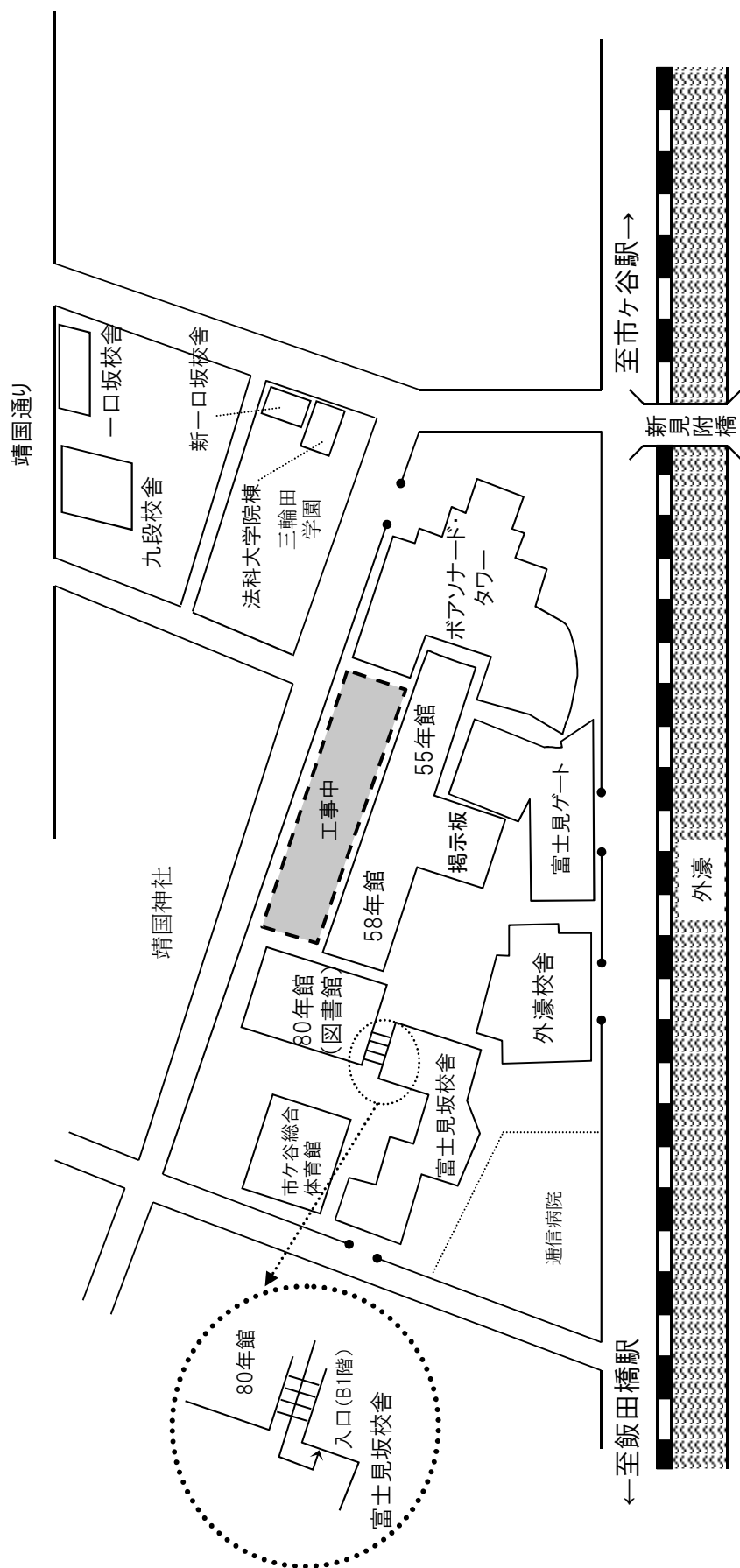
オフィス・アワー

質問、相談等は下記時間帯以外でも、可能な場合があるので気軽に研究室を訪ねてください。

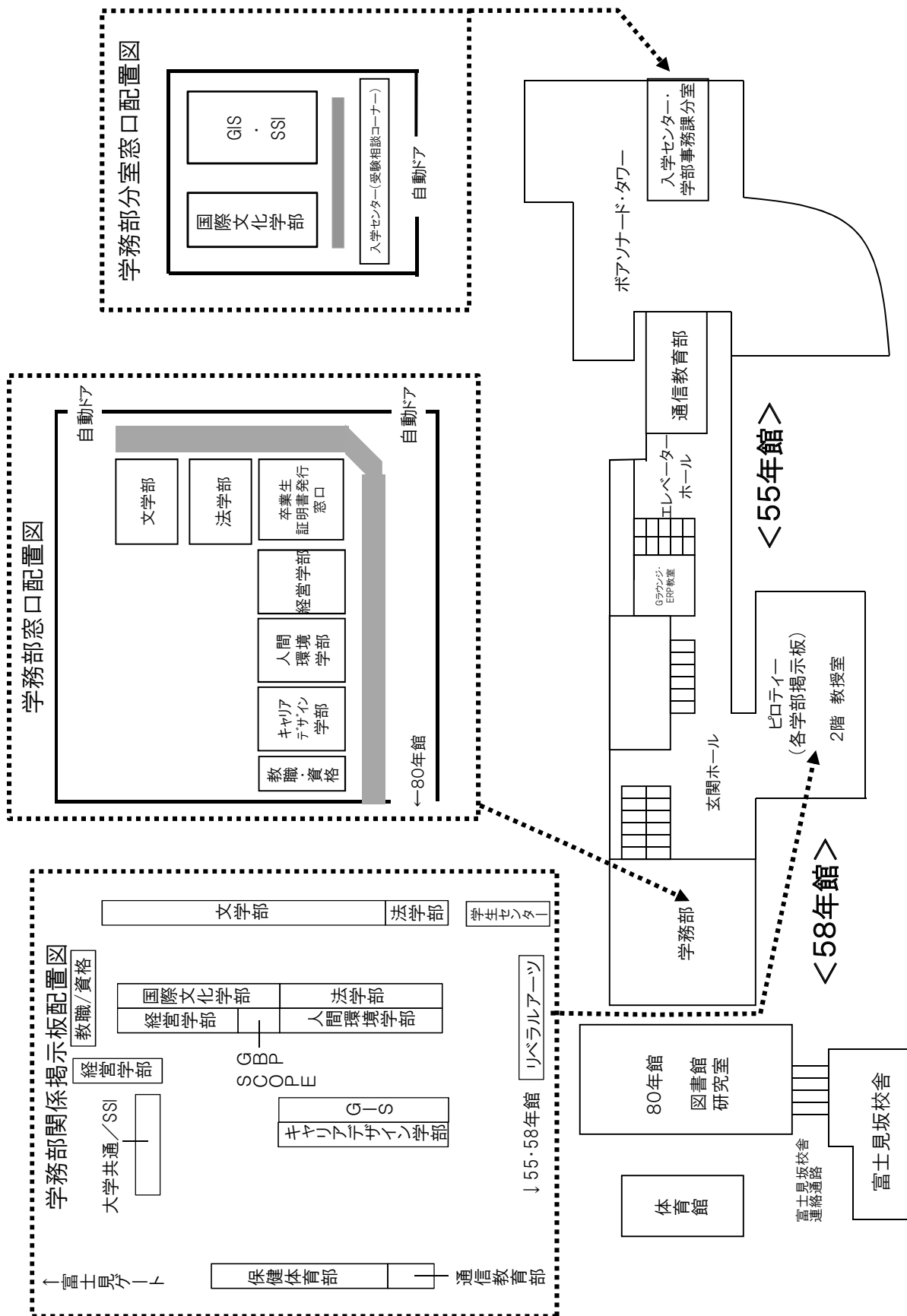
教員氏名	オフィス・アワー（曜日・時限）	研究室
安積 伸	金曜日・3時限目（AB期） 木曜日・5時限目（CD期）	市ヶ谷田町校舎研究室 T1012
岩月 正見	水曜日・5時限目	市ヶ谷田町校舎研究室 T1011
小林 尚登	月曜日・3時限目（AB期） 月曜日・5時限目（CD期）	市ヶ谷田町校舎研究室 T1001
佐藤 康三	月曜日・5時限目（AB期） 金曜日・2時限目（CD期）	市ヶ谷田町校舎研究室 T1005
竹内 則雄	火曜日・2時限目（AB期） 月曜日・2時限目（CD期）	市ヶ谷田町校舎研究室 T1007
田中 豊	火曜日・2時限目	市ヶ谷田町校舎研究室 T1002
土屋 雅人	火曜日・5時限目	市ヶ谷田町校舎研究室 T1006
西岡 靖之	水曜日・2時限目（AB期） 火曜日・5時限目（CD期）	市ヶ谷田町校舎研究室 T1010
野々部 宏司	火曜日・2時限目	市ヶ谷田町校舎研究室 T1008

<兼任教員>

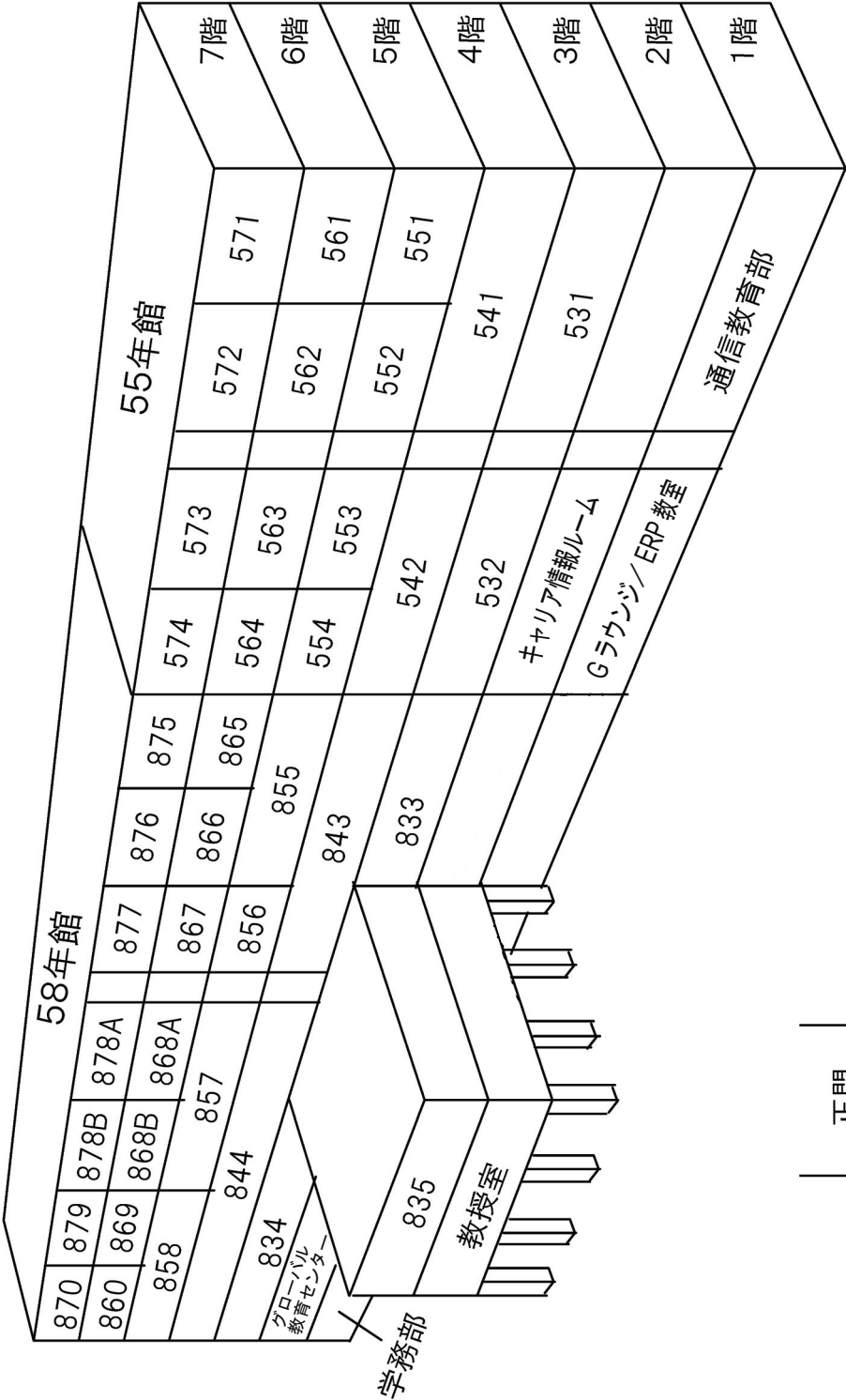
授業の開始前または授業後に教室で質問・相談を受け付ける。



学務部窓口・揭示板案内



55・58年館

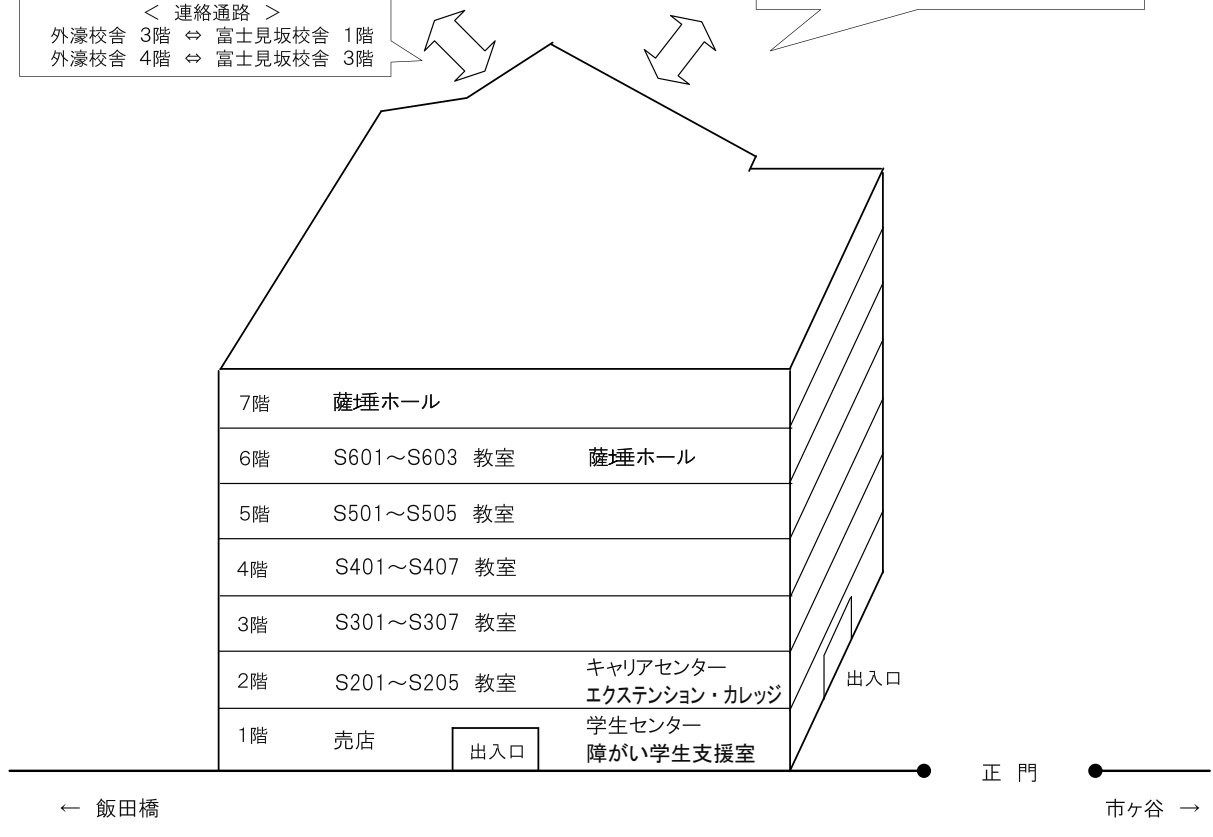


55・58年館建替工事に伴い、変更になる場合があります

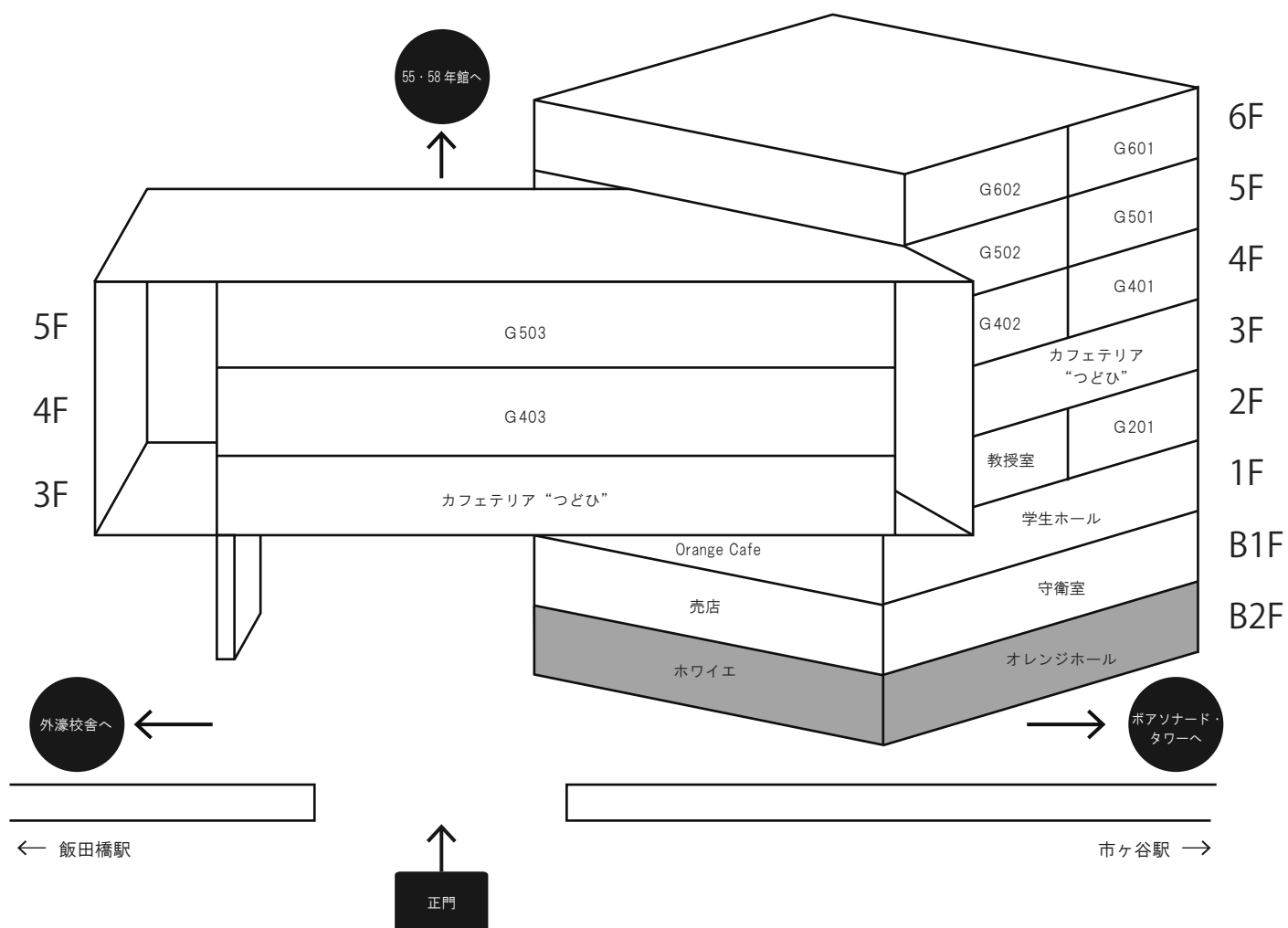
<外濠校舎>

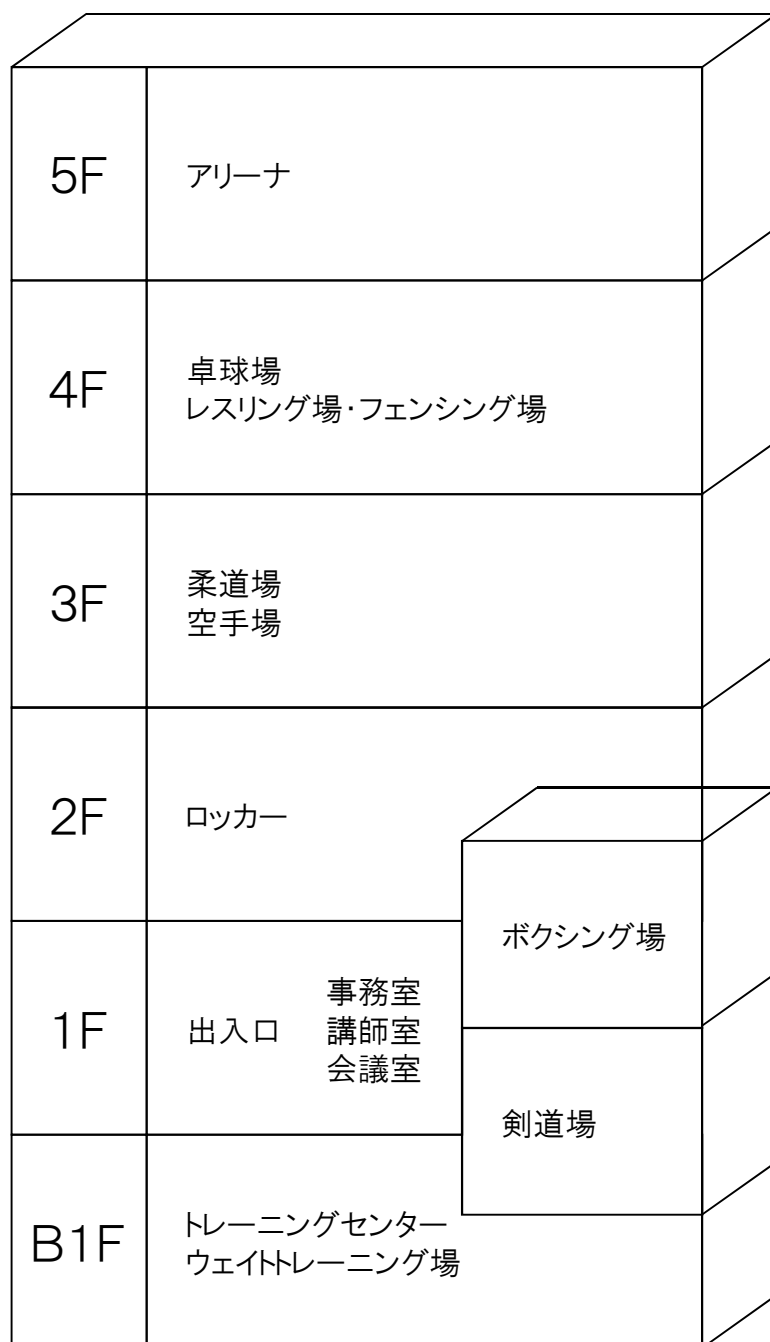
< 連絡通路 >
 外濠校舎 3階 ⇄ 富士見坂校舎 1階
 外濠校舎 4階 ⇄ 富士見坂校舎 3階

< 連絡通路 >
 外濠校舎 2階 ⇄ 掲示板、58年館方面



富士見ゲート





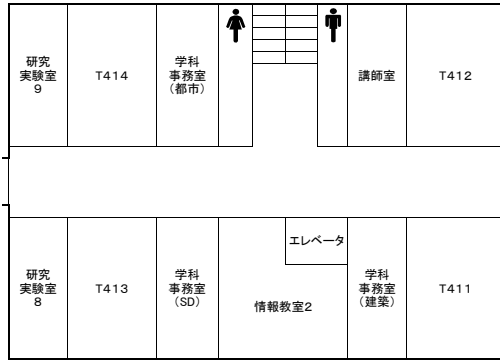
市ヶ谷

総合体育館

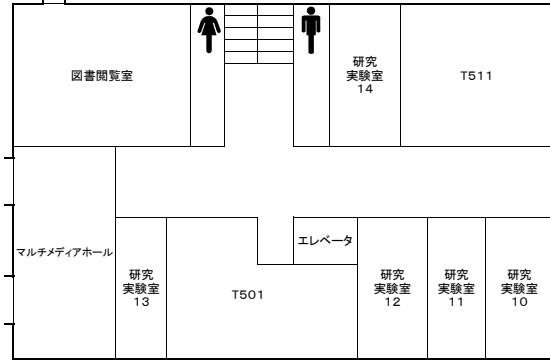
ボアソナード・タワー 全体図

スカイホール ラウンジ・展示場・会議室	26階
会議室・スタッフクラブ	25階
研究室	24階
研究室	23階
研究室	22階
研究室	21階
研究室	20階
研究室	19階
研究室	18階
研究室	17階
研究室	16階
研究室	15階
資格課程共同実習室・研究室	14階
教室(1300)・研究室	13階
教室(1200・1204)・研究室	12階
教室(1100～1103)・研究室	11階
教室(1000～1007)・研究室	10階
教室(0900～0907)・自然科学センター・研究室	9階
教室(0800～0806)・研究室	8階
教室(0701～0706)情報実習室A・研究室	7階
教室(0601～0606・0608・0609LL・0610) 情報実習室B	6階
教室(0501～0507・0508LL・0509LL) 情報実習室C・教員控室	5階
総合情報センター 情報実習室D～H	4階
ピア・ラーニング・スペース・マルチメディアスタジオ(0300) 教室(0308LL 0309CL)	3階
軽食堂(レインボーテラス)・診療所・入学センター	2階
学生ホール(ヘリオス)・防災センター 入学センター(受験生相談コーナー)・学部事務課分室	1階
食堂(フォレストガーデン)	B1階

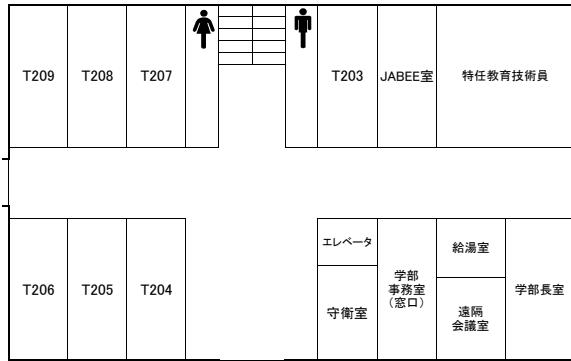
<市ヶ谷田町校舎>



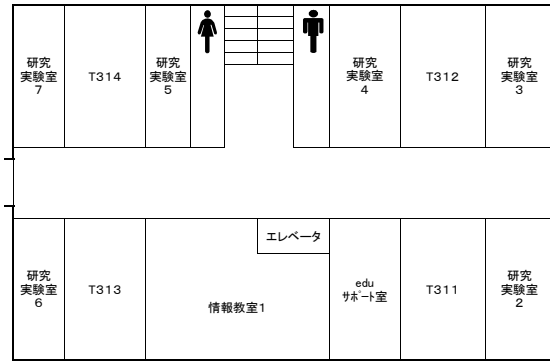
4F



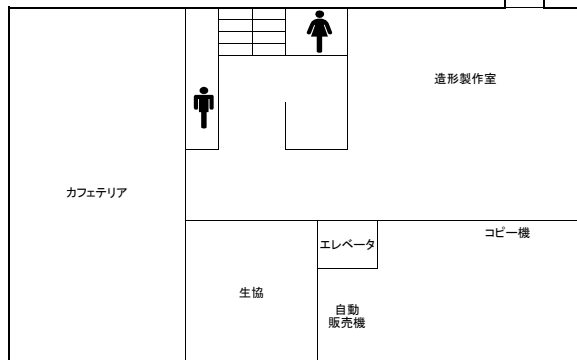
5F



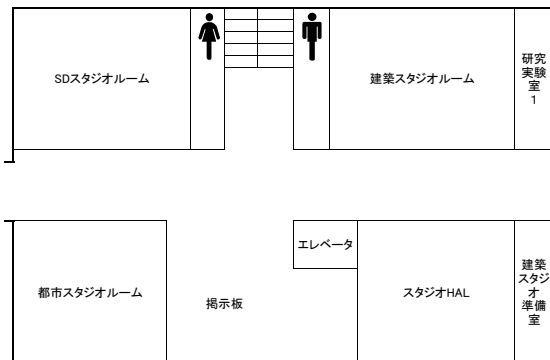
2F



3F



B1F



1F

MEMO



HOSEI University